

平成30年度
東北農業研究センター一年報

Annual Report
of
Tohoku Agricultural Research Center, NARO
2018

令和元年10月



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

(岩手県盛岡市下厨川)

* 農研機構は、国立研究開発法人農業・食品産業技術
総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）
です。

* 本誌から転載・複製する場合は、当センターの許可
を得てください。

平成30年度 東北農業研究センター年報

目 次

I 総 説	1
1. 沿革	1
2. 機構	3
3. 平成 30 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み	4
1) 研究業務の推進	4
2) 地域・行政との研究連携・協力	4
3) 産学官連携のための活動	4
4) 研究成果の広報・普及	5
5) 所内における研究活性化等	6
6) コンプライアンス並びにリスクマネジメントの取り組み	6
4. 研究業務の概要	6
II 研究情報活動	13
1. 研究成果の発表（原著論文・学会発表等・著書等）	13
2. 特許・品種登録等	50
1) 特許・実用新案の出願及び登録	50
2) 種苗法による品種登録	51
3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数	53
1) 育成品種（平成 30 年度出願）	53
2) 育成品種一覧（平成 31 年 3 月現在）	54
3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数	63
4. 広報活動	65
1) 視察者、見学者の受入（一般公開は除く）	65
2) 所刊行物	65
3) マニュアル、データベース等の作成・提供	66
4) 催事（一般公開・イベント・体験学習等）及び協力	66
5. 図書資料収集・文献提供等	71
III 連携・研修・技術協力	73
1. 産学官の連携・協力	73

1) 産学官連携支援活動	73
2) 行政との連携・協力	74
3) 大学との連携・協力	74
4) 共同研究・協定研究等の実施状況	74
5) 依頼分析等の実施状況	75
6) 開放型研究施設の利用状況	75
2. 研究者の受入れ等	76
1) 交流	76
2) 留学	76
3) 研修・講習等	76
4) 外部研究者	78
5) その他	79
3. 研究者の派遣等	79
1) 交流	79
2) 留学	80
3) その他	80
4. 技術協力・指導	80
1) 研修会等への講師派遣	80
2) 海外出張	84
3) 講習会等の開催	85
5. 国際会議・研究集会（参加）	85
IV 諸会議一覧	87
V 表彰・学会賞等	93
VI 各種委員会	95
VII 平成30年半旬別気象表（平成30年1月～12月）	99
VIII 東北農業研究センターの所在地等	107

I 総 説

I 総説

1. 沿革

- 昭和25年(1950年) 4月 東北農業試験場が岩手県盛岡市下厨川字赤平の岩手種畜牧場厨川分厩跡(旧岩手種馬所、明治40年(1907年)創設)に設立。(これは、当時全国的に実施された農業関係試験研究機関の整備総合計画の一環として、3支場・1支所・3試験地(農事試験場東北支場、同三本木原営農支場、園芸試験場東北支場、開拓研究所、農事試験場東北支場刈和野試験地、同東北支場盛岡試験地、同三本木原営農支場厨川試験地)を統合して、栽培第一部、栽培第二部、刈和野試験地、園芸部、畜産部、農業経営部、土地利用部の組織からなる国立の地域農業試験場の一つとして発足したものである。)
- 昭和38年(1963年) 4月 農業技術部を新設(6研究室)。
- 昭和42年(1967年) 6月 環境部(5研究室)を新設。
- 昭和46年(1971年) 4月 草地部を新設(2研究室)。
- 昭和58年(1983年) 12月 蚕糸試験場東北支所を編入し、畑地利用部(5研究室)を新設。
- 昭和60年(1985年) 4月 企画連絡室にヤマセ対策官を新設。
- 昭和63年(1988年) 10月 食品総合研究所利用部園芸素材研究室を統合して、畑地利用部流通利用研究室を新設。
地域農業試験場の組織再編が行われ、東北農業試験場の研究体制は、企画連絡室(企画科、連絡科、1研究技術情報官、情報資料課、3総合研究チーム、3業務科)、地域基盤研究部(6研究室)、農村計画部(7研究室)、生産工学部(3研究室)、作物開発部(6研究室)、水田利用部(6研究室、1科)、畑地利用部(5研究室)、畜産部(4研究室)、草地部(4研究室)となる。
- 平成3年(1991年) 10月 生産工学部を廃止し、企画連絡室に研究技術情報科を新設。
- 平成5年(1993年) 10月 農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームを統合し、作物開発部に遺伝資源利用研究室を新設。
- 平成8年(1996年) 10月 農村計画部を改組し、総合研究部を新設。
作物開発部遺伝資源利用研究室を改組し、畑地利用部畑作物栽培生理研究室を新設。
- 平成13年(2001年) 4月 農業技術研究を担っていた12の国立研究機関(農業研究センター、果樹試験場、野菜茶業試験場、家畜衛生試験場、畜産試験場、草地試験場、北海道農業試験場、東北農業試験場、北陸農業試験場、中国農業試験場、四国農業試験場、九州農業試験場)を統合・再編した「独立行政法人農業技術研究機構」が設立。
同機構内に、東北農業試験場と野菜・茶業試験場(盛岡)の業務を継承する機関として東北農業研究センターが設立。これに伴い、畜産部と草地部の統合、野菜花き部の新設、連携研究チームの新設、企画調整部及び作物機能開発部を設置。
- 平成15年(2003年) 4月 企画調整部の研究企画科、研究交流科を廃止し、研究調整官及び連絡調整室に改組。
- 平成15年(2003年) 10月 独立行政法人農業技術研究機構は、特別認可法人生物系特定産業技術研究推進機構と統合し、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構となる。
- 平成18年(2006年) 4月 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構は、独立行政法人農業工学研究所、独立行政法人食品総合研究所及び独立行政法人農業者大学校(平成23年度末に終了)と統合し、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。研究組織は、研究部・研究室制からチーム制へ移行。
東北農業研究センターの組織は、企画管理部、研究管理監、14のチーム、8のサブチーム、4名の特命チーム員及び研究支援センターで構成。
- 平成19年(2007年) 4月 研究調整役を長とする産学官連携支援センターを設置。
- 平成20年(2008年) 4月 病害抵抗性研究東北サブチームを大仙研究拠点に設置。サブチームの数が9となる。

平成23年(2011年) 4月 研究体制は、チーム制からプログラム・プロジェクト制へ移行。企画管理部、6の研究領域及び研究支援センターからなる。

平成24年(2012年) 4月 福島研究拠点に農業放射線研究センターを新設。

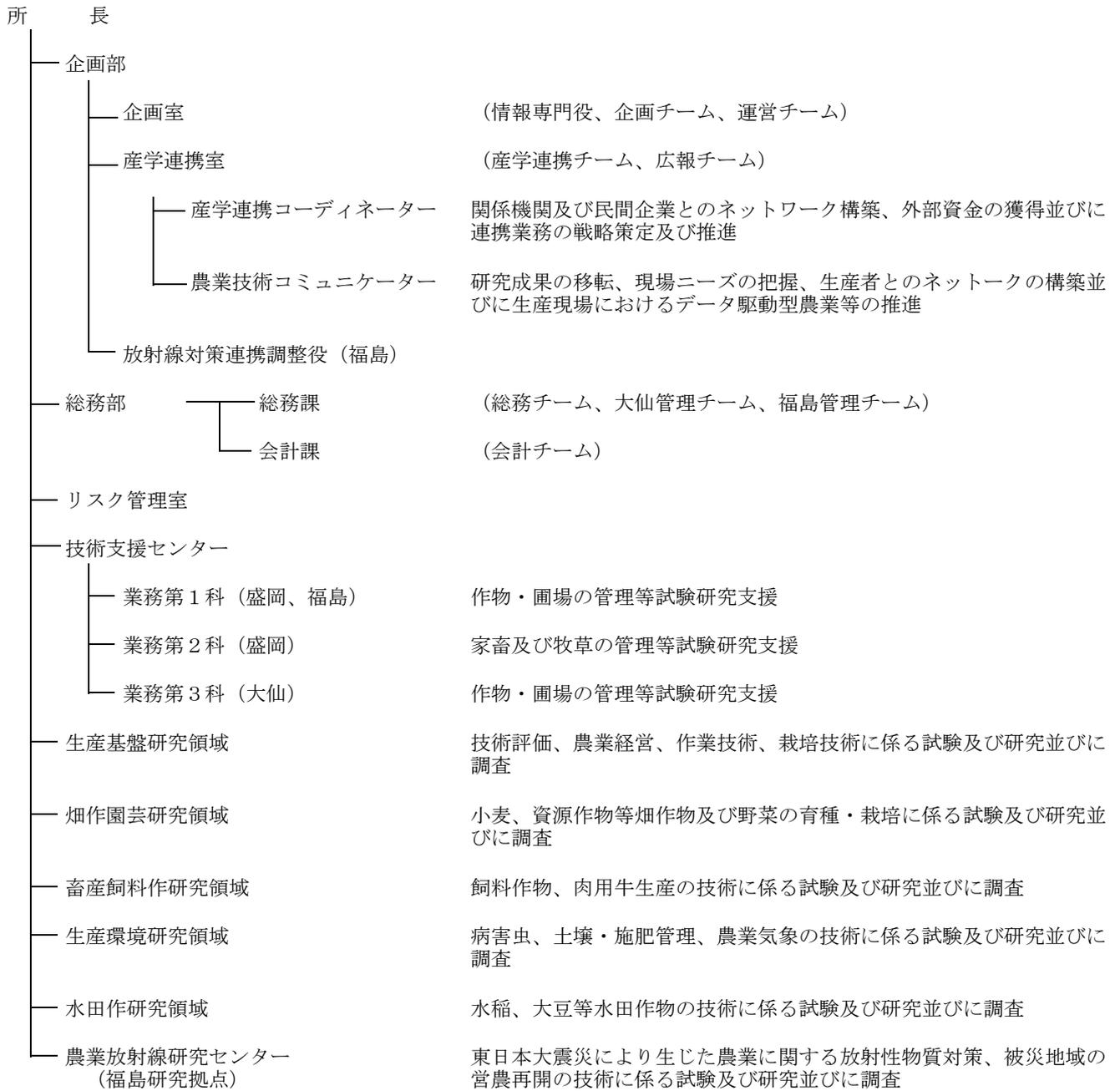
平成27年(2015年) 4月 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構は、独立行政法人制度の見直しにより、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。

平成28年(2016年) 4月 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構は、国立研究開発法人農業生物資源研究所、国立研究開発法人農業環境技術研究所および独立行政法人種苗管理センターと統合し、一つの国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。

これに伴い東北農業研究センターの組織も改変される。リスク管理室および放射線対策連携調整役が新設、企画管理部は企画部および総務部、研究支援センターは技術支援センターに改変され、5つの研究領域（生産基盤、畑作園芸、畜産飼料作、生産環境、水田作）および農業放射線研究センターからなる研究体制となる。

平成29年(2017年) 4月 鍋屋敷地区、畑作園芸研究領域の研究機能（露地野菜研究グループ、施設野菜・育種グループ）を赤平地区に移転。

2. 機構



3. 平成 30 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み

1) 研究業務の推進

平成 28 年度から農研機構は第 4 期中長期目標期間を迎えた。今期、地域農業研究センターは新法人のフロントラインに位置づけられ、地域農業研究のハブ機能の役割が求められるようになった。東北農業研究センターでは、農業現場における収集ニーズと、地域の研究・普及機関や生産者等との連携に基づいた研究開発を行い、現地実証試験を経て成果を迅速に普及させることを目的として、①寒冷地における大規模水田営農システムの実現、②収量・品質の向上と「強み」を強化するための先導的品種育成、③放射性物質対策のための技術開発、の三つの主要な研究の柱を設定した。農研機構において新たに設定された 18 の大課題の中で、これらの柱は課題化され、特に大課題 1 の中の中課題 2、3、4 および大課題 17 の中の中課題 5 については、その実施に際し東北農業研究センターが中心的な役割を果たすこととなった。今年度は、後述の研究業務の概要に示した内容を実施し、成果情報 14 課題（うち普及成果 5 課題）のほか、多くの論文、品種、特許等の研究成果を得た。

外部資金研究課題としては、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（5 コンソーシアム）」および「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（11 コンソーシアム）」、「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」（1 コンソーシアム）において多くの課題に取り組み、特に前者の 2 コンソーシアムおよび後者の 3 コンソーシアムでは中心的な役割を果たした。イノベーション創出強化研究推進事業（農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業）は 3 課題、農水省を中心とする政府委託事業では 18 プロジェクト 32 課題について研究および調査を行った。科研費は 22 課題を実施した。

2) 地域・行政との研究連携・協力

東北地域における試験研究の推進はもとより、生産現場における技術的課題の把握や地域特有の課題の抽出、課題解決に資する研究成果の普及・

実用化に係る協議を関係機関の連携により効率的に進めるため、平成 29 年度以降、「東北地域研究・普及連絡会議」（東北農政局主催）と「東北農業試験研究推進会議（戦略会議）」（東北農業研究センター主催）を合同で開催しており、今年度も同様の開催とした（30 年 10 月、仙台合同庁舎）。会議では、戦略目標（重点検討事項）として「東北地域におけるスマート農業の推進と技術開発の方向」を掲げ、これについて各県からの報告をもとに討議を行ったほか、国の施策で対応すべき技術的課題候補、最新農業技術・品種 2019 候補の選定及び候補成果の普及可能性について検討した。また、東北農業研究センターからアドバイザーボードの取組状況や産学連携支援活動の体制について報告し、現場のニーズに即した研究あるいは普及活動を進めていくうえでの普及組織等との連携の在り方等について意見交換を行った。

東北農業試験研究推進会議は、作物生産、生産環境、畜産飼料作、野菜花き、果樹の 5 部会制からなる体制のもと、夏期研究会（30 年 7～10 月）および推進部会（30 年 1～2 月）等を実施した。推進会議「本会議」（30 年 2 月）では、重点検討事項「東北地域におけるスマート農業の推進と技術開発の方向」について、各県及び農研機構の現状報告及び今後の推進方向の検討を行った。

3) 産学官連携のための活動

東北地域の生産者、試験研究機関、普及組織、地方自治体、民間企業等との連携を図りながら、生産現場や地域のニーズに基づいた試験研究を推進するため、平成 28 年度に「水田作」「園芸」「畜産」「果樹」の 4 分野で構成される「農研機構東北農業研究センターアドバイザーボード」を設置した。平成 30 年度は継続、新規を含め 28 名の委員に 2 年の任期で就任いただいた。平成 30 年度第 1 回（8 月、盛岡市）は「園芸」分野、第 2 回（10 月、盛岡市）は「畜産」分野、第 3 回（2 月、盛岡市）は「水田作」分野を対象に開催し、64 のニーズを収集した。このほかに農業技術コミュニケーターを中心に、企業や JA、普及関係機関から試験研究に対する様々な現場ニーズの収集に努めた。

収益性の高い大規模水田農業の実現に向けた連携をめざして、公設試や大学、民間企業、生産者

等を参画機関とする寒地・寒冷地水田農業研究ネットワークを平成28年度に立ち上げた。今年度は第3回ネットワーク会議(8月、盛岡)を「水田農業セミナー」として開催し、海外(アメリカアーカンソー州)と寒地・寒冷地の水田輪作技術の比較を行い、水田輪作研究における連携強化を図った。さらに産学官連携によるプロジェクト研究の立案と競争的資金への応募を目指したテーブルリサーチを開催した。平成30年12月には農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化推進を図るため、「「知」の集積と活用」研究開発プラットフォームとして「東北農業のイノベーション技術創造」研究開発プラットフォームを設立した。東北地域農林水産・食品ハイテク研究会では、農林水産・食品産業関係者に提供する産学官連携セミナーを11回開催しており、第10回のセミナーでは、開催場所の八幡平市に適した東北農研開発品種を紹介し、八幡平市の農業に貢献する話題の提供に協力した。同会とは、年間11回に及ぶコーディネーター連絡会議を通じて産学連携に関わる情報交換を定期的に行った。このほか他機関との研究連携として、30年度は継続を含めて共同研28件、協定研究32件実施した。大学との連携については、岩手大学との「連携大学院協定」(18年4月)に基づき、30年度は、当所職員6名が客員教授、8名が客員准教授として専門的立場から学生に指導助言を行った。一方、研究者等の受け入れとしての国内留学はなかったが、依頼研究員として1名、技術講習生として39名の大学生及び公設試の研究員を受け入れた。

平成29年5月には、東北農業研究センターおよび盛岡農業改良普及センター、JAいわて中央、地元製粉会社、食品会社等が参画した「盛岡地方もち小麦の郷づくり研究会」が設立され、平成30年度は、東北農研開発品種「もち姫」の消費拡大、安定生産を柱とした活動を継続して実施した。具体的には、種まき体験等消費者交流イベントの開催、パティスリー&ブーランジェリージャパン2018等での「もち姫食パンいわて100」の試食・展示等を行い、参画機関が連携しての活動を実施した。

4) 研究成果の広報・普及

「平成30年度東北地域マッチングフォーラム」(11月、郡山市)は、「米でビジネスチャンスをつかむーニーズに合わせた技術選択ー」をテーマに、生産者、農業団体、各県の行政・普及・研究機関などから144名の参加者を得て開催した。第61回東北農業試験研究発表会(7月、福島市)においては、水田作・畑作・畜産・果樹・野菜花き・経営の6部会(6会場)で東北地域内の農業関係試験研究機関から53課題の研究発表が行われ、研究・普及関係組織等から193名が参加した。

一般公開については、本所(盛岡)では5月に菜の花公開及び9月に公開デーを開催し、大仙研究拠点の一般公開(8月)、福島研究拠点における放射能研究施設公開(11月)の開催とも併せ、当所の研究成果を積極的にアピールした。小学5年生を対象とした「田んぼの科学教室」(7月、大仙研究拠点)の開催や小中学生の自然観察や体験学習、大学生の施設見学などを積極的に受け入れ、児童及び学生が科学技術に触れる機会を提供した。

外部への広報活動としては、パティスリー&ブーランジェリージャパン2018(7月、東京)、岩手県全国農業機械実演展示会(8月、盛岡市)、大仙市秋の稔りフェア(10月、大仙市)、実りのフェスティバル(10月、東京)、ビジネスマッチ東北2018(11月、仙台)アグリビジネス創出フェア2018(11月、東京)等への出展・講演の協力を行った。

報道機関に対しては、1月に「明日のお米づくりのための直播選択ドットネット」新ウェブサイトの発表を行った。

また、当所が開発した新技術について、現地での技術指導等を通じて広範な普及を図る「出前技術指導制度」を推進した。30年度は、「農研機構メッシュ農業気象データ、農研機構栽培管理支援システム」、多収穫米「ちほみのり」「ゆみあずさ」「もえみのり」の品種特性・栽培技術、「フレコンラップ法によるトウモロコシ子実サイレージ調製技術」など、水田作・畜産・気象などを中心に20件の現地技術指導、実演、技術相談、講演会などを実施した。

5) 所内における研究活性化等

第4期中長期計画においては、将来のイノベーションにつながる技術シーズ開発のための基礎的・基盤的研究を「目的基礎研究」とし、これを推進することとなった。東北農業研究センターにおいても目的基礎研究を支援する方針を定め、6課題に予算配分を行った。さらに、学位未取得の若手研究員を対象とした「若手研究職員の研究スタートアップ」3件、中課題に関連した「生産現場の問題解決に資する課題」5件に対し、それぞれ予算を配分した。また、「国際研究集会等への参加費」への補助を3件、「外国人研究者招聘」への補助を1件実施した。

東北農研セミナーは、講師を外部から招くなどして合計3回開催したほか、各研究分野においては、各種発表等の予行演習会や独自開催のセミナーを随時開催した。また、研究力向上を目的として、「科学コミュニケーション研修」(10月)を開催した。

6) コンプライアンス並びにリスクマネジメントの取り組み

コンプライアンス活動としては、職員を対象としたe-ラーニング講習による研究倫理教育及び研究費の使用に関する研修を開催した。

また、指名運転手を対象に安全運転講習会の開催、化学物質を扱う職員を対象に化学物質管理規程と化学物質リスクアセスメントの説明会や、動物を扱う職員を対象に動物実験教育訓練を開催した。

リスクマネジメントとしては、職場環境や安全管理上での災害防止に向けたリスク対策として、職場の環境や安全管理上での災害発生防止に向けた取り組みを行ったほか、農業機械リスクアセスメントを実施し作業におけるリスクの低減を図った。

4. 研究業務の概要

生産基盤研究領域

生産基盤研究領域は、開発技術の経営的評価を行う技術評価グループ、大規模水田作経営の経営モデルの提示を行う農業経営グループ、大規模水田輪作の機械化作業体系の開発を行う作業技術グループ、大規模水田輪作体系での作物の安定生産技術を開発する栽培技術グループで構成されている。

技術評価グループが実施した農業経営モデルによる検討では、乾田直播水稻を含むプラウ耕2年3作体系を導入することで、慣行移植水稻単作体系に対して約1.6倍の労働報酬が、さらにキャベツ(機械収穫体系)を導入することで約1.7倍の労働報酬が得られることを示した。水稻乾田直播栽培導入生産者に対するヒアリング調査から、乾田直播の導入目的は「田植えにかかる人件費削減」が主な理由であることを明らかにした。耕畜連携技術体系については、フレコンラップ法による粃米および子実トウモロコシのSGS調製費用が乾燥調製に要する費用25円を下回ることを示した。大規模リンゴ作高収益営農モデルについては、経営資源蓄積型大規模高収益経営を模式化するとともに、新栽培方式の実証試験では植栽3~4年目で成園化されるとの成果を得た。またジュース加工向けリンゴ生産について、結実管理作業の大幅な省力化、高樹高化による多収など、高生産性メカニズムを明らかにした。農地の面的集積方策に関しては、中山間地域、樹園地の農地集積に関する調査結果を取りまとめるとともに、中山間地域におけるステークホルダー・マネジメントの特徴および課題の抽出を行った。

農業経営グループでは、東北地域において適性のある水稻直播技術を示すマップ作成のため「直播選択ドットネット chokuhasantaku.net」と名付けたWEBサイトを公開し外部からデータ収集を行う仕組みを整えた。営農モデルの策定では、担い手が相対的に多く残る地域において、ニンニクの導入が、農業所得、純収益の増加、通年作業体系による常時雇用の安定的確保に貢献することを示した。大規模水田作経営における野菜作導入の課題として、労働力の不足から主部門である水稻

の収量低下を生じ経営全体としてマイナスの影響が生じる場合があることを指摘し、これを回避する形態として、経営の中での野菜部門の独立、別会社の設立、地域内での水田作経営と野菜専作経営の分業など、野菜作を水稲部門と切り離す複数のパターンが見られることを示した。

作業技術グループでは、ICTを活用した大規模水田輪作システムの機械化体系の確立と堆肥製造・利用に関する研究に取り組んでいる。水田輪作システムの機械化については、担い手不足が深刻な福島県沿岸部の震災被災地において、省力化技術としてGNSS自動操舵を施肥、播種等の作業に活用し、目標経路の横方向の偏差が±10cm以下の精度で作業可能なことを実証した。水田輪作の圃場基盤管理技術については、溝堀機で掘削後、低出力トラクタにより浅構暗渠を施工した場合でも、心土破碎などの排水対策作業に支障のない40cm以深に暗渠管の布設が可能であることを確認した。また鎮圧した固い土壌状態で圃場面を緩傾斜化することにより、表面排水量が増加し機械作業に好適な時間が1割程度増加することが示された。水田輪作への露地野菜の導入については、改良した収穫機構を用いて品種および栽培法を変えた収穫試験を実施し、大玉品種、セット球栽培にも適応可能であることを明らかにした。タマネギの乾燥技術については、4種類のコンテナの通気性能を明らかにし、経営規模に対応した乾燥システム設計のための情報整理を行った。堆肥の製造・利用に関しては、堆肥の製造過程で発生するアンモニアの回収装置の利用において、湿度に応じた送風ファン制御をすることにより効率的な窒素濃縮ができること、初期重量・濃度と液重量の変化から液体硫酸の窒素濃度の推定が可能なことを示した。

栽培技術グループは、水稲、麦、大豆、さらには子実用トウモロコシを含む大規模水田輪作の安定生産技術の確立に取り組んでいる。大区画圃場の地力ムラに対応した肥培管理技術については、収量コンバインによる収量マップと衛星画像による土壌炭素含有量推定値に同様の傾向が見られることを明らかにし、衛星画像に基づく可変施肥の可能性を示した。輪作体系の雑草防除技術については、乾田直播の主要なイネ科雑草であるオオクサキビおよびオオニワホコリに対する、水入れ

後の防除に有効な除草剤を選定するとともに、ノビエの葉齢進展予測については、モデルに用いるメッシュ気象データの変更に対応したパラメータの変更を行った。高速・高精度播種作業技術の開発については、分離プレート型高速高精度汎用播種機により、乾田直播水稲では、慣行播種機に比べ優れた出芽、初期生育となり、播種量が少ない場合も安定した生育と収量が得られることを示した。また子実用トウモロコシでは、複二条とすることで慣行栽培に比べ約10%の多収を得た。乾田直播水稲、大豆、子実用トウモロコシの輪作については、水田転換畑でプラウ耕を実施して栽培した子実用トウモロコシの苗立ちおよび収量はロータリ耕と同等であることを確認した。また、子実用トウモロコシの収穫において、国産汎用コンバインにスナッパーヘッドを装着することにより約1.6m/sでの作業が可能なことを示した。

畑作園芸研究領域

畑作園芸研究領域は、麦類（大麦、小麦）及び特産作物（ナタネ、ソバ）の新品種育成と育種法の開発を行う畑作物育種グループ、寒冷地の大規模水田営農に導入可能な露地野菜の栽培技術の開発を担当する露地野菜グループ及び夏秋イチゴの安定多収生産技術の開発とイチゴ、ハクサイ、タマネギの新品種育成を担当する施設野菜・育種グループで構成されている。

畑作物育種グループでは寒冷地向け高品質の小麦育成に取り組み、パン・中華麺用品種「夏黄金」の普及を図るため、実需者による製品試作と試食会・意見交換会を宮城県で実施した。また、めん用小麦として「東北232号」を「ナンブキラリ」として品種登録出願した。本品種は小麦粉の明度が高く、「ネバリゴシ」より赤みや黄色みが高く、「ナンブコムギ」なみの色相を求める地元実需者の要望にかなうと判断された。岩手県奥州市における現地試験では43.1kg/aの収量が得られた。縮萎縮病抵抗性の「東北199号」に「ナンブコムギ」を連続戻し交雑したBC₃F₃系統の生産力検定試験等により選抜を進め、盛系の系統名を付した。澱粉老化耐性を有する「やわら姫」の現地栽培試験およびその生産物による加工特性試験を行った。寒冷地向け大麦品種の育成では、殻皮及び粒色が

紫色を呈するもち性系統「東北皮糯 48 号」を「もちしずか」として品種登録出願した。さらに、裸性、もち性、ant、fra の特性を 2 つ以上有する系統や「小春二条」より栽培適性の優れる二条大麦系統を選抜した。ナタネでは、寒地および寒冷地に適応するダブルロー系統「東北 104 号」および「東北 105 号」の生産力検定試験を行った結果、「キザキノナタネ」と比べて北海道においても収量性が高かった。ハクサイ類由来の根こぶ病抵抗性遺伝子をもつ暖地および温暖地向き無エルシン酸系統「東北 106 号」は、福岡県の根こぶ病汚染圃場で実用的な抵抗性を示し、「ななしぶき」より収量が多かった。

露地野菜グループでは、タマネギ春まき作型における生育やりん茎肥大のモデル化に取り組み、品種や定植日に関係なく積算気温と葉数の増加に強い関係性が見られ、積算温度により生育ステージの予測が可能と判断された。一方、品種や定植日に関係なく乾物生産特性に関連する指標も同一とみなせ、地上部乾物重からりん茎重の予測が可能であると考えられた。セット球を利用したタマネギの初冬どり新作型において、機械移植を前提とした芽出し処理を行う場合、最初は液肥を施用し、萌芽後は水を施用することが萌芽率の確保と苗の徒長抑制に有効であること、定植前のリン酸施用がりん茎収量の向上に有効であることを明らかにした。春まき直播栽培については、移植栽培の補完技術として夏越しの栽培暦が有望であり、盛岡においては 4 月下旬に播種、8 月下旬の倒伏揃い後に根切りし、枯葉後の 9 月上中旬に収穫する体系が適することを示した。適用品種は東北における極晩性で肥大性の良い「トタナ」および「TC27-22」が有望であった。キャベツ機械化援用技術では、粗植にすることで結球肥大性が向上し収穫時期を前進化できる可能性を示した。定植時期および品種毎に時期別の生育程度を明らかにするとともに、施肥量算出の根拠となる加工業務用キャベツの時期別窒素吸収量を明らかにした。参画機関と連携して先端プロ（土地利用型）の成果をとりまとめ、キャベツ機械化一貫体系マニュアルを作成した。

施設野菜・育種グループでは、イチゴ四季成り性品種の夏秋どり栽培について、時期別の養分吸収量を明らかにするとともに、栽植密度が生

育、収量に及ぼす影響を明らかにした。また、「なつあかり」の粃殻培地での夏秋どり栽培における採苗時期、越冬条件、長日処理が花房数に及ぼす影響を明らかにした。寒冷地向けイチゴ品種・系統の開発では、「盛岡 37 号」等の四季成り性系統、「TK28」などの初夏どり向け一季成り性系統について東北地域での適応性を検定した。タマネギ育種素材の開発については、春まき栽培に適した品種・系統を明らかにするとともに、遺伝資源を用いた春まき、秋まき栽培の形質データを解析し、品種生態を分類した。タマネギ F₂ 集団の表現型データを取得するとともに、データ駆動型育種モデル構築に利用する分離集団を養成した。タマネギ大規模機械化体系で標準となる 448 穴セルトレイでは、288 穴の場合と比較して、苗生育、定植後生育、りん茎重、収量ともにやや劣ること、好適な育苗期リン酸施用量は 20 ~ 25mg/ 株程度であることを明らかにした。「クエルゴールド」のケルセチン含量は安定して高く、福島では「もみじ 3 号」の 2.8 倍、また「ガイア」では、岩手、山形で 5t/10a 以上の収量かつ一球あたりのケルセチン含量が「もみじ 3 号」の 1.5 倍以上となることを示した。栽培法の影響を調査したところ、2 月中旬～3 月中旬播種区、黒マルチ区で収量および 1 球あたりのケルセチン含量が高いことが明らかになった。

畜産飼料作研究領域

畜産飼料作研究領域は、寒冷地における飼料作物の栽培、および牧草の育種に関する研究を行う飼料生産グループ、収穫調製及び飼料評価に関する研究を行う飼料利用グループ、肉用牛の肥育試験及び肉質評価と繁殖に関する研究を行う肉用牛生産グループ及び肉用牛の飼養管理に関する研究を行う飼養管理グループで構成されている。

飼料生産グループは、トウモロコシ栽培において酪農家の生産した堆肥を用いて、慣行施肥量の窒素の一部、リン酸の約半量および加里の全量相当の化学肥料施用量を削減して栽培を行い、慣行施肥量の化学肥料区と同程度ないしはそれを上回る子実収量が確保できることを明らかにした。飼料用大豆については、無イタリアンライグラス (IRG) かつ無除草剤区においては、雑草が著しく

高かったが、IRG を播種した区はいずれの品種においても雑草は僅かであり、IRG による高い雑草抑制効果を確認した。IRG 品種比較試験では、大豆収量には有意な差異が認められなかったものの、収穫物への混入率は「クワトロ-TK5」で有意に低く、リビングマルチに用いる IRG 品種として最も適していることを示した。牧草については、「クワトロ-TK5」を使って所内および岩手牧場でトウモロコシとの二毛作体系の実証栽培を行うと共に、越夏性を改良したペレニアルライグラス「夏ごしペレ」を品種登録出願した。

飼料利用グループは、開発したフレコンラップ法を基軸とするトウモロコシ子実等の迅速サイレージ調製体系について、作業人員を減らす改良を進めるとともに、技術紹介 DVD とマニュアルの作成、出前技術指導等によるアウトリーチ活動に取り組み、フレコンラップ法の普及面積を昨年の 3 倍 (13ha) に増加させた。また、飼料用大豆の生産・利用技術の開発に取り組み、牧草収穫体系でのバンカーサイロ調製によって高品質なサイレージが得られ、発酵 TMR のタンパク質原料として利用可能であることを明らかにした。加えて、繁殖雌牛の分娩前後に増給する配合飼料の 50% を粃米サイレージとビール粕で代替することによって繁殖成績等に影響を及ぼさずに増給分の飼料コストを 20% 以上削減する技術を開発・実証した。

肉用牛生産グループは、繁殖分野においては、分娩前後に増給する配合飼料の 50% を粃米 SGS とビール粕で代替する給与メニューを開発し、繁殖成績等に影響を及ぼさずに増給分の飼料費を 20% 以上削減できることを実証した。また、分娩後 2 週間程度で両子宮動脈の血流量は同等及び低値となり、形態的な子宮修復の完了前に妊娠前の状態に回復すること、初回排卵後に形成される黄体の機能は低い、次回発情周期以降に機能回復する可能性があることを示した。さらに、日本短角種への黒毛和種受精卵移植時に黄体機能の賦活化処理により受胎率は向上することが示唆された。肥育・肉質分野では、黒毛和種去勢牛 8 頭をもちいて対照区とトウモロコシ SGS 給与区に分け、26 ヶ月齢でと畜する肥育試験を開始し、うち先行して終了した 4 頭の試験飼料摂取量、増体、枝肉成績、血中ビタミン A 濃度については試験区間に大きな差はないことを示した。

飼養管理グループは、稲わら生産利用技術において、圧砕稲わらサイレージの牛への給与は、慣行の稲わらを圧砕サイレージで 100% 代替しても、ルーメン内 pH、血中ビタミン A および E 濃度に影響しないことを確認した。トウモロコシ子実サイレージは子牛にとって嗜好性が高く、粗飼料多給下で哺乳期間を延長している子牛の配合飼料の一部をトウモロコシ子実サイレージにおきかえても発育成績に問題は無く、代替可能であった。また、哺乳期間を延長すると血漿中グルコース濃度は慣行離乳と比較し高く推移したことから、5 ヶ月齢においても第二胃溝反射により母乳が消化吸収されている可能性が示唆された。唾液中コルチゾール濃度は慣行離乳により離乳 2 週間後に高くなり、ストレスレベルの高さが示唆された。親子放牧中の牛を高さ 125cm の電気牧柵で親子分離し、子牛に補助飼料：ビール粕サイレージを自由採食させると、体重 200kg で約 1.2kgDW/日採食し、体重、体型とも標準を上回った。東北地域の周年親子放牧に適した牧草種の選定について、オーチャードグラスとペレニアルライグラスは収量が高く、メドウフェスクは雑草の侵入が多かった。TDN の年平均はペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラス、メドウフェスクで 68% 以上、CP の年平均は全ての草種で 19% 以上を示した。東北地域における放射性 Cs 吸収の低い草種の選定について同位体 Cs 濃度から検討し、メドウフェスクとトールフェスクが低吸収草種として有望であった。

生産環境研究領域

生産環境研究領域は、病害・虫害の防除に関する技術の開発研究を行う病害虫グループ、土壌から作物並びに周辺環境への養分や有害物質の動態を適切化する技術の開発研究を行う土壌肥料グループ、気候変動が作物の生育に与える影響の予測と評価、それらに対応した栽培管理支援技術の開発研究を行う農業気象グループで構成される。

病害虫グループでは、気象データ等 ICT を活用した水稲いもち病防除の意思決定支援システム開発に向けて、葉面濡れセンサーの利用により予察を高精度化できる可能性を得た。また、斑点米カメムシによる被害を土地利用など農地周辺環境情

報から予測するモデルについて、現地圃場への外挿可能性を実証した。野菜病害虫に関しては、春まきタマネギに発生する腐敗性病害に対して殺菌剤散布とネギアザミウマの薬剤防除体系の有効性を明らかにし、病原細菌の高感度かつ迅速な検出体系を構築した。メロンつる割病に対して、耐病性を付与する微生物や土壌 pH 矯正物質等を組み合わせ活用して発病を抑制できる育苗期処理技術を開発した。キャベツの根こぶ病に対しては、育苗時に処理して発生程度を軽減できるように、培土 pH の矯正資材を選定した。また、コナジラミ(害虫)の天敵であるタバコカスミカメについて、温存植物(バーベナ)の利用で定着率が良くなることを明らかにし、その実用性を実証した。さらに、非越冬地における薬剤抵抗性コナガに有効な防除体系案を作成し、コナガの殺虫剤抵抗性管理のガイドライン案を取りまとめた。

土壌肥料グループでは、大豆作のうね内部分施用技術で酸性改良資材の投入量削減が可能であることを実証した。また、水稲玄米中のヒ素・カドミウム濃度低減技術である出穂前後 3 週間の水管理の効果を検証した。春まきタマネギの施肥管理技術については、黒ボク土では、リン酸肥料を暫定基準の 1/3 程度まで削減可能であること、低地土では、施肥量の削減により減収・小玉化することを認めた。有機廃棄物の固液分離ろ過システムと伏流式人工湿地による良質堆肥生産法として、処理後の水質が水質汚濁防止法の暫定排水基準をクリアできることを確認し、固相分の堆肥化が進む CN 比と EC 値の目安を得た。この他、営農再開地域の除染後の地力むらの改善に向けて、研究対象地域を選定し、地力を見える化する技術を検討した。

農業気象グループでは、気候変動に関する研究として、気温変動及び土壌・施肥管理技術の影響を表せる水稲生育モデルと各地の長期有機物連用試験結果を活用して、水稲収量の変動には、温度上昇効果と CO₂ 濃度上昇効果が拮抗し、土壌窒素量変化の影響も大きいという結果を得た。気象データから水稲の面的出穂期を予測する手法においては、10 年平年値を入力値とすることで推定精度を向上させて Web 上の発信システムを開発するとともに、拡張版として出穂期以外の発育ステージを面的に把握するシステムを試作した。ま

た 1km メッシュの気温データを平滑化することで、水稲栽培可能期間が近年に数日から 10 日前後拡大している傾向を認めた。放射性物質対策に関して、成熟期のイネ茎葉と玄米の Cs 吸収含有量が幼穂形成期以降の土壌のカリウム含量に依存することなどを明らかにした。乾田直播水稲栽培に関して、水田からの温室効果ガス発生削減効果や施肥コストの削減効果を明らかにしつつある。さらに、作物収量モデルの推定精度の向上に寄与する広範囲かつ高頻度の生育情報取得技術開発として、ドローンを活用したリモートセンシングによる水稲の植生指数や倒伏度の把握に取り組んだ。

水田作研究領域

水田作研究領域は、水田作物の栽培と雑草管理に関する研究を行う水田作グループ、水田作物の土壌管理に関する研究を行う水田環境グループ、水稲の品種育成とそれに係わる研究を行う水稲育種グループ、及び大豆の品種育成とそれに係わる研究を行う大豆育種グループで構成されている。

水田作グループでは、業務用米等の省力・低コスト生産のために、「萌えみのり」の無コーティング種子の代かき同時播種の現地実証試験を実施し、「あきたこまち」を用いた現地慣行直播より 128kg/10a 多収になり、生産費が 20%削減できることを示した。また、根出し種子は、浸種・脱水後、紙袋に入れて 30℃の育苗器に 40 時間程度入れることで作成できることを明らかにした。無コーティング代かき同時播種栽培体系における除草体系の選択は播種後 10 日間の平均温度により判断でき、14℃以上の場合には、一発処理型除草剤を最初に散布する除草体系を選択できることを示した。水稲の安定生産のために、前年の施肥量、収量、標準化速度に基づき圃場毎に基肥量を決めた直播栽培では収量が 28kg/10a 増加した。また、前年の NDVI 値、追肥量、標準化速度の関係と当年の NDVI 値から追肥量を計算した移植栽培では収量が 23kg/10a 増加した。平成 28～30 年に実証した山形県の庄内地域での「里のほほえみ」大豆によるチゼル有芯部分耕狭畦栽培により、全刈り収量は 3 年間の平均値で慣行栽培と同等の 227kg/10a を達成した。同時に、慣行栽培に対して播種前の耕耘、中耕・培土作業の省略等により

慣行栽培に対して10a当の労働時間を20%、生産費を4%削減できることが明らかになったことから、チゼル有芯部分耕播種栽培とうね内部分施肥播種栽培と併せて栽培パンフレットに取りまとめ、ウェブに公開した。大豆作の雑草防除については、イヌホオズキを防除するためには、イヌホオズキに有効な土壌処理剤と茎葉処理剤（フルチアセツトメチル乳剤）に、中耕培土が必要であることを示した。

水田環境グループでは、経営規模が100haを超える2つの大規模経営に対し、網羅的土壌肥沃度マップを作成し、減肥のポテンシャルを試算した。その結果、カリウムについてはポテンシャルとして施肥量を58～65%減少させることが可能であった。温暖化に対する堆肥・ケイカル・稲わら施用の影響を検討した。堆肥による増収効果、ケイカル施用による地上部乾物増収効果が認められたが、品質（整粒比）の改善効果は認められなかった。持続的な耕畜連携システムを開発するために、豚ふん堆肥を施用し飼料用米を生産している現地を調査した。堆肥の化学組成と養分収支から270kg/10a程度の堆肥の連用により化学肥料によるリン酸、カリを代替する体系を提案した。現地ほ場ではケイ酸肥沃度が低下傾向を示し、ケイ酸肥沃度の定期的な診断の重要性が示唆された。スリット成形播種によるダイズの増収効果を秋田県八郎潟町、新潟県上越市、愛知県安城市で試みた。スリット成形播種の苗立ち率は3地域とも安定しており、初期生育は良好で、根の深部への伸長も観察された。しかし、秋田県八郎潟町以外の地域では秋期の多雨の影響で増収に結びつかなかった。川俣町山木屋地域の除染後農地において地力を面的に把握するために、マルチスペクトルカメラでドローン空撮を行うとともに撮影範囲内で採取した土壌サンプルの土壌炭素含量を測定した。空撮画像の反射率との関係から除染後農地の土壌炭素含量の予測マップを作成した。ダイズの生育に土壌のCa/Mg比が与える影響を検討した。ポット試験ではCa/Mg比の増加で、対照区に比べて茎重、莢重、莢数、粒数は有意に増加した一方、百粒重は有意に低下した。しかし、百粒重の低下はpHの上昇により軽減された。現地圃場試験では有意な差はみられなかったが、ポット試験と同様の傾向がみられ、収量は22%増加した。ア

メダスと土壌特性データを用いた土壌水分予測モデルについて、システムへの入力が必要な土壌パラメータ2つを土性情報から推定する手法を開発した。開発システムを用いて過去の生産力検定試験のデータを解析し、乾燥ストレスによって減収する閾値はTAW0.37～0.77の範囲であることを特定した。

水稲育種グループでは、気象変動に対応して、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稲品種、低コスト生産を可能とする米粉用等加工向け多収水稲品種、低コスト生産に適する多収飼料用米品種及び高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成を目指し、直播適性、いもち耐病性、耐冷性の強化を目的とした交配及び集団養成と直播適性、いもち耐病性、耐冷性、高温耐性等を備えた系統の選抜を行った。その結果、いもち病に強く、直播栽培向き良質・良食味の「奥羽429号」の品種登録を出願した。また、有望系統として、高温耐性を備えた多収の主食用「奥羽439号」を得た。他に、やや大粒・多収の主食用として「奥羽444号」、飼料用として「奥羽445号」を新配付とした。

大豆育種グループでは、寒冷地向けで実需者ニーズに応じた品質、病虫害複合抵抗性、機械化栽培適性等を兼ね備えた広域適応性品種の育成、及び、極多収系統の開発を目指し、ダイズモザイクウイルス（SMV）抵抗性、ダイズシストセンチュウ（SCN）抵抗性、裂莢性、収量性、子実成分含有率等に着目した交配、集団養成、系統選抜、生産力検定試験等を行った。その結果、普通大豆の有望系統として、SCN抵抗性強で早生の晩播狭畦密植栽培に適した「東北181号」、SMV及びSCN抵抗性強で難裂莢性の「東北185号」、SMV抵抗性強で難裂莢性の「東北188号」を含む5系統を継続検討することとした。また、SMV抵抗性強でSCN抵抗性極強の「東北189号」及び「東北190号」を新配付系統とした。さらに、特殊用途向け大豆の有望系統として、リポキシゲナーゼ全欠失でサポニン改良型の「東北179号」を継続検討することとした。加えて、前中期計画で育成した黒豆品種「黒丸くん」について、東北地域における作付けが見込まれたことから普及品種への格上げを行った。

農業放射線研究センター

農業放射線研究センターは、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって、広範な地域に飛散した放射性物質の影響を受けた農地において、営農再開を支援するための様々な技術開発を担当している。現在、帰還困難区域を除いて営農が再開されつつあるが、営農が軌道に乗るためには、地域の状況に対したきめ細かな対応が必要である。長期間の避難の結果、避難先からの通い農業が現実的な営農手法の一つとなっており、より省力的な農地管理手法が求められている。また、土壌中に残存する放射性セシウムは半減期が 30 年の¹³⁷Cs が主体となっているため、今後、放射性セシウムの自然減衰は緩慢となる。今後も安全な農産物を安定生産するためには、放射性セシウム吸収抑制に欠かせない、土壌中の交換性カリ含量を維持するため手法開発が求められる。さらに、地域住民が安心して農業生産に取り組めるよう、農地周辺環境中に残存している放射性物質が農地に及ぼす影響を評価するため、農業用水や大気降下物のモニタリングを継続して行っている。

センターの研究体制としては、水田作移行低減グループ、畑作移行低減グループ、営農再開グループの 3 体制で研究と技術普及に取り組んでいる。水田作移行低減グループにおいては、カリ肥料の増肥によって生育期間を通じて交換性カリ含量 25mgK₂O/100g とされている現行の吸収抑制対策から、土壌中の放射性セシウム濃度や土壌特性も考慮した土壌中カリ含量の維持手法の開発を農業環境変動研究センターと共同で行っている。福島県内一部地域では、カリ増肥による吸収抑制対策を終了させる実証栽培が行われており、適切な栽培管理を行わない場合には、土壌中の交換性カリ含量が低減し、土壌から植物への放射性セシウムの移行が再び促進される懸念がある。そのため、稲わらや堆肥といった地域資源の有効活用も視野に入れ、圃場全体のカリバランス（投入されるカリ量と持ち出されるカリ量）を考慮した栽培管理手法の構築を急いでいる。畑作移行低減グループでは、主に大豆、そばの課題に取り組んでいる。これらの作物は収穫物の放射性セシウム濃度が他の作物に対して比較的高いことが知られ

ており、その対策技術の開発に継続して取り組んでいる。特に、カリによる移行抑制効果が水稲に比較して低い大豆の吸収抑制対策技術の開発に研究資源を集約している。現状においては、放射性セシウム濃度が高くなりやすい圃場では、カリ増肥量を高めるなどの方策が取られているが、施肥法の改良に加えて、低吸収品種・系統の探索も継続して行なっている。営農再開グループにおいては、除染が終了し営農再開に取り組む生産者を支援するため、現地で生じている様々な問題点を抽出し、対策技術の開発に取り組んでいる。除染終了後から営農再開までの圃場の雑草管理、土壌保全、資源循環による肥沃度の維持・回復に加えて、鳥獣害対策や農業経営に係る問題にも対応している。特に、労力の削減が強く求められることから、簡易 IoT 技術を導入した通い農業支援システムの開発を重点的に進め、技術の普及を目指している。

農業放射線研究センターの研究職員全員が所属し、センター長が PL を務める中課題「原発事故被災地域における早期営農再開のための対策技術開発」においては、農地と周辺環境のモニタリングとその影響調査に農業環境変動研究センターと農村工学研究部門、水稲の低吸収品種の開発とメカニズム解明に次世代作物開発センター、農業環境変動研究センターと東北農業研究センターが、大豆の移行低減対策に中央農業研究センターが、果樹における放射性物質対策に果樹茶業研究部門が、食品中の放射性物質の動態解析に食品研究部門が、草地の放射性物質の移行制御とミネラルバランスの維持に畜産研究部門が参画をしており、それぞれが農業放射線研究センターと連携を取り、総合的な放射能対策技術の確立を目指している。農業放射線研究センターには、平成 25 年 4 月に放射性物質分析棟が設置され、年間 6000 検体以上の試料の放射性セシウム濃度分析を一定の測定誤差水準以下で行なっている。また、種々の関連した分析機器を有しており、農研機構における放射能対策研究推進の中核を担うと同時に、福島県や周辺被災県の公設試、大学等と密接に連携を取りながら、それぞれの研究のバックアップを担っている。

Ⅱ 研究情報活動

II 研究情報活動

1. 研究成果の発表

- 注. 1) 収録対象は、平成 30 年度に公表したものである。
編集に当たっては、平成 29 年 4 月現在の組織構成により配列してある。
- 2) 各研究領域の成果は、職員が所属する研究領域ごとに記載した。
研究課題の分担等により他の研究領域に属する課題の実施により得られた成果は、本人が所属する研究領域に収録した。
なお、複数の研究領域による成果については、記載されている所内の著者のうち、配列順序が一番前の著者の所属する研究領域に収録した。
- 3) リストは研究領域ごとに以下の項目で分類し、各項目の中は発表年月（発表又は発行、掲載、印刷された年月）順に記載した。

原 著 論 文 : 原著性の高い学術論文、研究所報告、叢書等

学会発表等 : 口頭、ポスターによる学会発表（講演要旨集、本誌に掲載された要旨、シンポジウム講演を含む）、国際研究集会での発表

著 書 等 : 上記以外の印刷物、Web 掲載及びマスコミ報道

《 所 長 》

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
住田弘一	農研機構東北農業研究センターの紹介	農林水産技術同 友会報	(65)、65-70	2018.06
住田弘一	長期的試験研究の成果をどのように社会実装していくかーわが国の水田基盤が抱える地力問題の解決にむけてー	東北農業研究セ ンターたより	6(7)、1-2	2017.07

《 企 画 部 》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
魚住順、嶺野英子、宮路広武、河本英憲、出口新、内野宙	ラッピングマシンを用いた穀実のサイレージ調製技術	日本草地学会誌	64(3)、180-188	2018.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
魚住順、出口新、内野宙、嶺野英子	ヘアリーベッチを (<i>Vicia villosa</i> Roth) を用いたリビングマルチによる飼料用ダイズ (<i>Glycine max</i> (L.) Merr.) の雑草防除	日本草地学会誌	64(2)、81-90	2018.07

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
東山雅一、下田勝久	Effects of grass species and fertilizer on soil carbon concentration in pasture in northern Japan	Proceedings of the 7th Japan-China- Korea Grassland Conference	*、468-469	2018.07
磯島昭代、木下貴文、山本淳子	冬季の生食用新タマネギに対する消費者ニーズ	第 54 回 東北農業経済学会 秋田大会 報告要旨	*、77-	2018.08
東山雅一	放牧草地の持続性に及ぼす草種と施肥量の影響	日本草地学会誌	65 (別号)、70-70	2019.03
東山雅一	安家森半自然草地における放牧が植生動態に及ぼす影響	日本草地学会誌	65 (別号)、70-70	2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	自著紹介『果物の贈答マーケティング』	農業経営通信	(273)、12	2018.01
渡邊彰	日本における地理的表示保護制度	日本食肉研究会 (東京)	59(1)、29-32	2018.06
東山雅一、魚住順、好野奈美子、和田美由紀 (雪印種苗)、浅井元朗、太田健、若林正吉、内野宙、出口新、嶺野英子、江口哲也	被覆作物による農地保全管理技術マニュアル	東北農研のホームページ	*、1-	2018.12

《技術支援センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
鎌田丈弘(青森県産業技術センター畜産研究所)、米内美晴、村元隆行(岩手大学農学部)	黒毛和種牛肉における脂肪酸組成とテクスチャーおよび肉色との関係	日本畜産学会報	90(1)、31-36	2019.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川名義明	イヌホオズキ類雑草に対するフルチアセットメチル乳剤の効果	第20回東北雑草研究会資料	*、14	2018.01
川名義明	イヌホオズキに対する各種防除技術の効果	日本雑草学会第57回大会講演要旨集	*、100	2018.04
村山徹	ネギの有機栽培が収量と品質に及ぼす影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	*、126	2018.08

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村山徹	岩手県沿岸南部における冬どりキャベツ栽培のポイント	岩手県農業研究センター HP「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(先端プロ)」成果マニュアル一覧		2018.05
小綿寿志	自然冷熱利用(ポストハーベスト工学事典4.6章)	朝倉書店、東京都	*、208-209	2019.01
米内美晴、嶺野英子	ルーメン液ならびに血漿中の共役リノール酸を含む多価不飽和脂肪酸分析手法と分析結果	農研機構研究報告 東北農業研究センター	* (121)、49-59	2019.03

《生産基盤研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
篠遠善哉、松波寿典、大谷隆二、冠秀昭、丸山幸夫(筑波大学生命環境系)	黒ボク土の水田転換畑におけるチゼルプラウ耕が土壌環境およびトウモロコシの窒素吸収に及ぼす影響	日本作物学会紀事	87(2)、125-131	2018.04
八木浩平(農林水産政策研)、三澤とあ子(農水省)、長谷川啓哉	国産りんごの業務・加工用契約取引における農協の役割	農業市場研究	27(1)、23-29	2018.06
篠遠善哉、宮路広武、金井源太	タイ王国の子実用トウモロコシに関する調査－栽培・収穫・乾燥・貯蔵・物流－	畜産の研究	72(6)、407-412	2018.06
長坂善禎、関矢博幸、齋藤秀文、中嶋美幸	低コストGNSSガイダンスシステムの利用による乗用管理機の作業精度	農業食料工学会誌	80(4)、235-242	2018.07
篠遠善哉、宮路広武、金井源太	アメリカの子実用トウモロコシに関する調査－輪作体系・栽培・乾燥・貯蔵・物流－	畜産の研究	72(7)、521-528	2018.07
篠遠善哉、Ed Sarobol(Kasetsart University)、丸山幸夫(筑波大学生命環境系)	Effects of irrigation interval and manure application on growth and yield of field-grown maize	Tropical Agriculture and Development	62(4)、177-185	2018.12
冠秀昭、林貴峰(宮城県仙台地方振興事務所)、関矢博幸、長坂善禎、齋藤秀文	2ha標準区画を拡張した5.8ha圃場における乾田直播栽培技術の実証	農業農村工学会誌	86(12)、13-16	2018.12
宮路広武、磯島昭代	大規模土地利用型経営における生産管理システム導入の取り組みと課題－A法人を事例として－	東北農業経済研究	36(2)、64-72	2019.02
篠遠善哉、松波寿典、大谷隆二、丸山幸夫(筑波大学生命環境系)	Growth and yield of maize using two tillage systems in crop rotation of paddy fields	Plant Production Science	22(1)、58-67	2019.12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
篠遠善哉、松波寿典、大谷隆二、丸山幸夫(筑波大学生命環境系)	水田転換畑における耕起法と施肥の違いがトウモロコシの根系に及ぼす影響	根の研究	27(4)、*	2018.01
赤坂舞子	本年度の乾田直播水稲ほ場の雑草発生の傾向とその防除	プラウ耕・グレーンドリル播種乾田直播収量計測コンバインと可変施肥講習会		2018.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長坂善禎	トラクタの自動走行はなぜ必要 ースマート農業最前線ー	東北農研市民講 座		2018.01
赤坂舞子、中山壮一	乾田直播の問題雑草であるオオクサ キビおよびオオニワホコリの生育は 冠水処理で抑えられるか?	日本雑草学会大 会講演要旨集	*、95	2018.04
幸田和也、福与徳文(茨城大学)、 重岡徹、八木洋憲(東京大学)	津波被災地における急速な農地集積 の進展と課題ー宮城県七ヶ浜町の事 例からー	2018年度日本農 業経済学会大会 報告要旨	*、164	2018.05
宮路広武	日本農業における ICT 導入の展開 と評価ー水田作経営を事例にー	2018年NARO日 韓農業経営フォ ーラム		2018.06
宮路広武	先端技術の導入効果と経営管理シス テムによる経営改善	食料生産地域再 生のための先端 技術展開事業 「土地利用型実証 研究」平成29年 度現地検討会		2018.07
宮路広武	土地利用型経営におけるスマート農 業の展開と経営的課題	平成30年度関 東東海北陸農業 試験研究推進会 議経営部会		2018.07
長坂善禎	土地利用型農業における ICT・RT 利用の現状と今後の展開方向	東北試験研究推 進会議 作物生産 推進部会 農業経 営研究会		2018.07
長谷川啓哉、廣田寛央(つがる 弘前農協)、奈良浩熙(つがる 弘前農協)、花田俊男	リンゴ作における新しい栽培方式の 植栽初年度生産要素投入の特徴ーつ がる弘前農協実証圃場における大規 模試験に基づくー	第54回東北農業 経済学会秋田大 会報告要旨	*、65	2018.08
木村秀也、小島誠、大下泰生	簡易法による田畑輪換水田土壌の可 給態窒素評価とコムギ・ダイズ収量 との関係(第2報)	日本土壌肥料学 会講演要旨集	64、93	2018.08
冠秀昭、笹原和哉、赤坂舞子	アメリカ合衆国アーカンソー州にお ける水田利用と輪作技術	農業食料工学会 北海道・東北支 部2018年度合同 年次大会講演要 旨	*、54-55	2018.08
長坂善禎	RTKGNSS の代かき作業での利用効 果	農業食料工学会 北海道・東北支 部2018年度合同 年次大会講演要 旨	*、6-7	2018.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川啓哉	剪定集団と青森県りんご協会－剪定からはじまるりんご農家の集团的自治－第1講 剪定指導の論理と歴史	平成30年度りんご剪定技術継承隊講演会		2018.08
赤坂舞子	水稲乾田直播栽培における雑草防除技術について	浜通り地域における水稲乾田直播セミナー		2018.09
冠秀昭、齋藤秀文、長坂善禎、千葉克己(宮城大学食産業学部)	田面の傾斜化による表面排水機能の向上	農業農村工学会東北支部第60回研究発表会講演要旨集	*, 46-47	2018.11
冠秀昭、関矢博幸、長坂善禎、齋藤秀文	Irrigation Water Demand and Water Productivity Enhancement with Dry Direct-seeding Rice Cultivation using Plowing and Compaction	PAWEES & INWEPF International Conference 2018	*, 148	2018.11
長谷川啓哉	農業経営論	平成30年度営農指導員資格認証試験講習会		2018.11
長坂善禎	GNSS ガイダンスの利用と効果	食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」プラウ耕・グレーンドリル播種乾田直播乳苗移植、スタブルカルチ、GNSS ガイダンス講習会		2018.11
長坂善禎	水稲の乾田直播栽培技術と仙台平野南部、福島県浜通りにおける取り組み	東北地域マッチングフォーラム		2018.11
長坂善禎	大瀧村におけるGNSS自動操舵田植機を活用した無落水移植による省力化と環境負荷低減効果	農業食料工学会シンポジウムテクノフェスタ講演要旨	*, 77-80	2018.12
長坂善禎	大区画ほ場におけるICT・ロボット技術の利用	郡山地域スマート農業セミナー		2018.12
長坂善禎	ICT・ロボット技術が拓く新たな農業－スマート農業への取り組み－	岩手県農業会議農業経営者セミナー		2018.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長坂善禎	ICT・ロボット技術の利用について ースマート農業への取り組みー	JA 栃木中央会乾 田直播栽培検討 会		2018.12
宮路広武	これまでの農業と、これからの農業 ー最新技術の導入にはどのような効 果がー	第24回東北農研 市民講座		2018.12
冠秀昭	トラクタで本暗渠を施工できる浅層 暗渠施工器	稲作コスト低減 革新技術ワーク ショップ		2019.01
長坂善禎	ブラウ耕鎮圧乾田直播	平成30年度水稻 直播栽培研修会		2019.02
長坂善禎	ICT・ロボット技術が拓く新たな農 業ースマート農業への取り組みー	水沢区認定農業 者研修会		2019.02
長坂善禎	ICT・ロボット技術が拓く新たな農 業・ロボット技術が拓く新たな農業 ースマート農業への取り組みー	秋田県近代化ゼ ミナールウイン ターフォーラム		2019.02
冠秀昭	トラクタで利用できる浅層暗渠施工 器による排水改良技術	平成30年度関東 東海北陸農業試 験研究推進会議 土壌肥料部会北 陸土壌肥料技術 研究会		2019.02
冠秀昭、木村秀也、笹原和哉、 赤坂舞子、関矢博幸	米国アーカンソー型水田輪作技術の 東北地域への導入可能性ー水稻乾田 直播における低コスト施肥体系の確 立ー	農作業研究	54 (別1)、 61-62	2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
宮路広武、関矢博幸、林和信	水田輪作体系乾田直播における収量 マップを利用した基肥可変施肥の増 収効果	農業経営通信	* (272)、6-7	2018.07
稲葉修武	自己紹介と研究について	農業経営通信	*、10	2018.07
長谷川啓哉	大規模経営と産地	りんごニュース (青森県りんご協 会)	* (3113)、1	2018.11
長谷川啓哉	リンゴ作における IPM の経済的効 果の計測	植物防疫	72 (12)、 770-775	2018.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長坂善禎	IT・メカトロニクス	農業食料工学会誌	80(6)、380-384	2018.12
長谷川啓哉	りんご園地の価値を高めて産地を守るー産地の樹園地価値維持のための対応ー	りんごニュース	* (3118)、3	2019.01
宮路広武	収量マップを利用した大区画水田での精密な肥料散布	日本政策金融公庫「技術の窓」	Web	2019.01
長坂善禎	農業ロボット技術による農作業事故防止の可能性	農業労災研究	5(1)、3-5	2019.03
冠秀昭、関矢博幸、大谷隆二、道合知英、小泉慶雄	トラクタで利用できる浅層暗渠施工器の最適な施工技術	普及成果情報		2019.03
長谷川啓哉	園地単位全量購入契約のもとで成立するジュース加工向けりんご栽培の特徴	研究成果情報		2019.03
篠遠善哉、松波寿典、冠秀昭、大谷隆二、丸山幸夫	水田転換畑におけるプラウ耕体系による子実用トウモロコシ生産	研究成果情報		2019.03

《畑作園芸究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
木下貴文、山本岳彦、濱野恵、山崎篤	Type of Mulching Film and Planting Date Adapted to a New Onion Cropping Type Using Onion Sets for Early Winter Harvesting in the Northern Tohoku Area of Japan	Horticultural Research (Japan)	17(3)、303-309	2018.07
池田裕樹、木下貴文、山本岳彦、山崎篤	Sowing time and temperature influence bulb development in spring-sown onion (<i>Allium cepa</i> L.)	Scientia Horticulturae	244、242-248	2019.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山崎浩道	イチゴ夏秋どり栽培の現状と可能性	NPO 法人地下水・地下熱資源強化活用研究会講演会		2018.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本城正憲	夏秋どりイチゴについて	IBC 岩手放送		2018.06
本城正憲、山崎浩道	夏でもおいしい国産いちごが食べたい!	第6回 食と農のおしゃべりサロン		2018.07
山崎浩道、山本岳彦、山崎篤	寒冷地のタマネギ春まき作型での育苗期リン酸施用における肥料種類、施肥量が生育、りん茎重に及ぼす影響	日本土壤肥料学会講演要旨集	64、125	2018.08
本城正憲	中国の日光温室の見学報告	北日本イチゴ研究会		2018.08
山崎浩道	寒冷地でのイチゴ四季成り性品種の夏秋どり栽培における生育、収量、器官別乾物重の推移	園芸学研究	17 (別冊 2)、179	2018.09
池田裕樹 (宇都宮大学農学部)、塚崎光	タマネギのりん茎肥大にともなう AcFT 遺伝子の発現変動	園芸学研究	17 (別 2)、518	2018.09
塚崎光、本城正憲、室崇人	タマネギ特性データの多変量解析	園芸学研究	17 (別 2)、227	2018.09
濱野恵、本城正憲、佐藤史織 (日本食研)、松嶋卯月 (岩手大学農学部)、岡田益己 (岩手大学三陸復興・地域創生推進機構)、加藤一幾 (東北大学院農学研究科)	採苗時期と越冬時の温度環境が四季成り性イチゴ‘なつあかり’とその変異株の花房とランナー発生に及ぼす影響	園芸学研究	17 (別冊 2)、437	2018.09
本城正憲、小石原弘明 (トヨタ自動車)、塚崎光、由比進	国内外のイチゴ品種・系統におけるうどんこ病レース 0 抵抗性	園芸学研究	17、174-174	2018.09
木下貴文、太田祐樹 (岩手県農業研究センター)、鈴木朋代 (岩手県農業研究センター)、山崎浩道、有馬宏 (岩手県農業研究センター)	岩手県沿岸地域におけるインタープランティングを用いたトマト長期作型の簡易肥培管理技術の実証	園芸学研究	17、443-443	2018.09
山崎浩道	夏秋イチゴ生産における品種特性と栽培管理技術	施設園芸新技術セミナー・機器資材展 in 宮城		2018.09
川崎光代、畠山勝徳 (岩手大学)、高畑義人 (岩手大学)	セイヨウナタネ (<i>Brassica napus</i> L.) 子実中のクロロフィル含量の品種間差異および含量低減化の可能性	種子生理生化学研究会	*, 14-15	2018.11
高山敏之	大潟村麦類種子生産組合・大潟村麦類生産班研修	①麦類に栽培技術と品種について②「銀河のちから」のタンパク質量を確保するための管理について		2018.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
木下貴文、齋藤秀文、濱野恵、山崎篤	寒冷地向けのセット球利用によるタマネギ初冬どり新作型における機械定植の検討	東北農業研究	71、85-86	2018.12
本城正憲	日本のイチゴ品種開発の現状	「知」の集積による産学連携支援事業 イチゴの利用拡大セミナー		2018.12
川崎光代	ナタネおよびナバナ品種育成について	ナタネおよびナバナに関する研修		2019.02
山崎浩道	寒冷地でのイチゴ四季成り性品種の夏秋どり栽培における養分吸収量の推移	園芸学研究	18 (別冊 1)、321	2019.03
濱野恵	四季成り性イチゴ‘なつあかり’の夏秋どり栽培に及ぼす採苗時期、越冬条件、長日処理の影響	園芸学研究	18 (別冊 1)、322	2019.03
塚崎光、北本尚子、塚崎光、西川和裕 (サカタのタネ)、由比進 (岩手大学農学部)	晩抽性遺伝子 BrFLC を導入したハクサイ’タイニーシュシュ’ 試交 F1 の抽だい性	園芸学研究	18、2	2019.03
木下貴文、山本岳彦、室崇人	東北地域のタマネギ春まき作型において定植時期および品種が生育ステージならびに乾物生産特性に及ぼす影響	園芸学研究	18 (別 1)、171	2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
塚崎光	Simple Sequence Repeat	Springer	*, 113-127	2018.01
塚崎光	早生で作りやすい加熱調理用トマト(クッキングトマト)品種「すずこま」	農業日誌 平成 31 年	*, 64-65	2018.01
川崎光代	ジーンバンク植物部門データベース(遺伝資源センター)(なたね 80 系統)	来歴・特性情報検索システム (http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html)	*, JP28315-JP149657	2018.04

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
伊藤裕之、池永幸子、中丸観子、 谷口義則	ジーンバンク植物部門データベース (遺伝資源センター) (小麦 HOHENAUER KOLBEN 他 100 系統、大麦 HON-IKU 4 他 50 系統)	来歴・特性情報 検索システム (http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html)	*、JP20104 -15362	2018.04
本城正憲	大粒の初夏どり向けイチゴ盛岡 36 号	東北農業研究セ ンターたより	55、2	2018.06
川崎光代	夏吉	NARO	(8)、5	2018.06
川崎光代	搾りかすが肥料になる品種「きらき ら銀河」	日本農業新聞		2018.07
谷口義則	表紙の言葉	東北農業研究セ ンターたより	*、表紙-1	2018.07
山崎浩道	イチゴ・夏秋どり栽培	養液栽培実用ハ ンドブック、日本 養液栽培研究会 編、誠文堂新光 社	*、62-63	2018.12
本城正憲	イチゴ独自品種に期待 夏の需要に 応える	読売新聞		2019.02
山崎浩道	短日処理期間の高温条件がイチゴ一 季成り性品種の出蕾に及ぼす影響	農研機構研究報 告 東北農業研究 センター	121、1-10	2019.03
中丸観子、高山敏之、伊藤裕之、 谷口義則、池永幸子	麦の有望品種・系統の評価について (東北地域麦振興協議会資料)	東北地域麦振興 協議会 (東北農 政局生産部生産 振興課)	*、1	2019.03
本城正憲、塚崎光、由比進、 小石原弘明 (トヨタ自動車)、 西村哲 (トヨタ自動車)	栽培イチゴの四季成り性と連鎖した DNA マーカー	普及成果情報		2019.03
木下貴文、山本岳彦、濱野恵、 山崎篤	東北地方北部におけるセット球を用 いたタマネギ初冬どり新作業に適し た栽培条件	研究成果情報		2019.03
本城正憲	大粒で形のそろった初夏どり向けイチ ゴ盛岡 36 号	農業共済新聞		2019.03

《畜産飼料作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
魚住順、嶺野英子、宮路広武、河本英憲、出口新、内野宙	ラッピングマシンを用いた穀実のサイレージ調製技術	日本草地学会誌	64(3)、180-188	2018.01
嶺野英子、魚住順、河本英憲、出口新、内野宙	フレコンラップ法の無破碎籾米サイレージ調製における適応可能性の検討	日本草地学会誌	64(3)、175-179	2018.01
出口善隆(岩手大学)、東山由美、梨木守(日本草地畜産種子協会)、熊谷知洋(岩手大学)、島本郁子(岩手大学)、荒川亜矢子(岩手大学)	耕作放棄水田跡地放牧における非同一家飼養牛の社会行動	東北畜産学会報	68(1)、8-12	2018.06
石川奈緒(岩手大学)、嶺野英子、東山由美、笹本誠(岩手大学)、相馬美咲(岩手大学)、吉田直登(岩手大学)、伊藤歩(岩手大学)、海田輝之(岩手大学)	Determination of tylosin excretion from sheep to assess tylosin spread to agricultural fields by manure application	Science of the Total Environment	633、399-404	2018.08
高田惲帆(岩手大学大学院総合科学研究科)、柴伸弥、村元隆行(岩手大学農学部)	プロメライン溶液への浸漬がウシ筋肉の硬さおよびコラーゲン含量に及ぼす影響	日本畜産学会報	89(4)、459-463	2018.11
深澤充(東北大学)、小松篤司、東山由美	The change of sleeping and lying posture of Japanese black cows after moving into new environment	Asian-Australasian Journal of Animal Sciences	31(11)、1828-1832	2018.11
久保田明人、秋山征夫、藤森雅博、Ken-Ichi Tamura(農林水産省生産局)、Tohru Sasaki(草地畜産種子協会)、Eri Kasai(岐阜女子大学)	Simple DNA marker-assisted selection of endophyte (Epichloë uncinata)-infected festulolium	Grassland Science	65、32	2019.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
志水学	黒毛和種双子生産技術について	平成 30 年度第 2 回農研機構東北農業研究センターアドバイザーボード「畜産(肉用牛生産における技術的課題)」		2018.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
神園巴美、河本英憲、内野宙、 嶺野英子、出口新、魚住順	Evaluation of fermentation quality in forage soybean silage	Proceedings of the 7th Japan- China-Korea Grassland Conference	*、212-213	2018.07
藤森雅博、池田堅太郎、久保田 明人	フェストロリウム「東北1号」につ いて	フェストロリウ ム東北1号現地 検討会		2018.07
今成麻衣	牛肉の香りから肉質を評価する	東北農研市民講 座		2018.07
藤森雅博、久保田明人	東北地域に適した草種・品種の利用	東北地域飼料増 産行動会議		2018.07
志水学、伊賀浩輔	盛岡市立北陵中学校職場体験学習	盛岡市立北陵中 学校職場体験学 習		2018.07
出口新、内野宙、魚住順、嶺野 英子	不耕起栽培におけるリン酸施肥量が 飼料用トウモロコシの収量に与える 影響—4年連作の結果—	日本土壤肥科学 会講演要旨集	64、104	2018.08
志水学、河本英憲、伊賀浩輔、 米内美晴	実証農家における周産期繁殖牛への 配合飼料一部代替粗米 SGS 給与メ ニューが子牛の初期発育および母牛 の分娩後の繁殖機能回復に及ぼす影 響	東北畜産学会報	68(2)、34	2018.08
藤森雅博、久保田明人	寒冷地における多年性ライグラスの 普及	カネコ種苗全国 普及員会議		2018.08
藤森雅博、久保田明人	フェストロリウム「東北1号」につ いて	岩手県南家畜市 場でのワンポイ ント講習会		2018.08
内野宙、上垣隆一、魚住順、出 口新、河本英憲、嶺野英子、神 園巴美	完熟期におけるトウモロコシ雌穂の 形態的特徴と子実中かび毒濃度との 関係性	第246回日本作 物学会講演会要 旨集	*、50-	2018.09
岡本さくら(岩手大学農学部)、 小野歌純(岩手大学農学部)、 與座明祥(岩手大学農学部)、 田路矩之(岩手大学農学部)、 石黒(大沼)俊名(岩手大学 農学部)、伊賀浩輔	妊娠ウシ血中マイクロRNAの網羅 的解析	第161回日本獣 医学会学術集会 講演要旨集	*、453-	2018.09
伊賀浩輔、窪友瑛(北海道総合 研究機構酪農試験場)、志水学	プロスタグランジン製剤投与による 胎盤停滞牛の子宮修復過程の一例	The Journal of Reproduction and Development	64 (suppl)、 j135	2018.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
島村嶺花(十勝NOSAI)、窪友瑛(北海道立総合研究機構酪農試験場)、志水学、伊賀浩輔、高橋透(岩手大学農学部)	受精卵移植時の排卵誘起処理が肉用種受配牛への2胚移植に及ぼす影響	第2回日本胚移植技術研究会大会講演要旨集	*、41	2018.09
石川奈緒(岩手大学)、嶷野英子、東山由美、後藤由望(大東環境科学)、佐々木知美(岩手県薬剤師会検査センター)	家畜に投与した動物用医薬品の環境への拡散に関する研究(継続)	北東北女性研究者研究・交流フェア2018	*、*	2018.09
伊賀浩輔	平成30年度家畜体内受精卵移植に関する講習会	平成30年度家畜体内受精卵移植に関する講習会		2018.09
志水学	胚の保存(凍結保存)	平成30年度家畜人工授精及び、家畜体内受精卵移植に関する講習会(岩手県)		2018.09
今成麻衣	私のワークとライフ	女子学生のための研究職ガイダンス		2018.09
河本英憲	子実用トウモロコシの調製・給与技術について	平成30年度東北地域飼料増産現地検討会—子実用トウモロコシの実用化への可能性を探る—		2018.11
的場和弘	肉用繁殖牛の放牧管理	平成30年度中央畜産技術研修会肉用牛繁殖経営新規参入		2019.01
伊賀浩輔	分娩後の子宮修復と子宮内膜のエコージェニックライン	超音波診断技術の生産現場での活用		2019.01
藤森雅博	ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」	農事組合法人釜津田肉牛生産組合		2019.02
池田堅太郎	シバとレンゲツツジ群落における在来馬の採食植物	日本草地学会誌	65(別)、41	2019.03
池田堅太郎、小松篤司、東山由美、的場和弘、戸上和樹	寒地型多年生牧草5種における安定同位体セシウムとミネラル濃度の草種間差	日本草地学会誌	65(別)、90	2019.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
高村聡美(岩手県農業研究センター畜産研究所)、佐藤真(岩手県農業研究センター畜産研究所)、久保田明人、池田堅太郎、藤森雅博、及川修(岩手県農業研究センター畜産研究所)	岩手県の転作田におけるフェストロリウムの適応性	日本草地学会誌	65(別)、93	2019.03
東山由美、小松篤司、深澤充(東北大学)	離乳時期の違いが黒毛和種子牛の唾液中コルチゾール濃度におよぼす影響	日本畜産学会第125回大会	*、226	2019.03
小松篤司、東山由美	黒毛和種去勢牛に対する圧砕稲わらサイレージ給与の影響について	日本畜産学会第125回大会	*、212	2019.03
出口新、内野宙、魚住順、嶺野英子、河本英憲、神園巴美	トウモロコシの不耕起栽培での窒素施肥法—中生品種について—	日本草誌学会誌	65(別)、96	2019.03
久保田明人、藤森雅博、菅和寛(山形県農業総合研究センター)、小橋有里(新潟県農業総合研究所)、長谷川昌伸(新潟県農業総合研究所)、稲葉真(富山県農林水産総合技術センター)、沼田尚登(富山県農林水産総合技術センター)、井川育昌(石川県農林総合研究センター)、西村苑夏(石川県農林総合研究センター)、由利奈美江(秋田県農林水産技術センター)	イタリアンライグラス新品種「クワトロ—TK5」の東北日本海側および北陸地域での生産性(2年目)	日本草地学会誌(別)	65(別)、130	2019.03
嶺野英子、河本英憲、神園巴美、出口新、内野宙	フレコンラップ法の発酵TMR調製への応用	日本草地学会誌	65(別)、110	2019.03
神園巴美、河本英憲、嶺野英子、内野宙、出口新	ダイズホールクロープサイレージは発酵TMR中の輸入アルファルファ乾草を代替できるか?	日本草地学会誌	65(別)、2	2019.03
成田翔(岩手大学)、相馬美咲(岩手大学)、石川奈緒(岩手大学)、伊藤歩(岩手大学)、前田武己(岩手大学)、笹本誠(岩手大学)、東山由美、嶺野英子	家畜に投与した抗菌性物質の排出および堆肥化による抗菌性物質の分解に関する研究	土木学会東北支部研究発表会	*、*	2019.03
河本英憲、嶺野英子、神園巴美、出口新、内野宙	トウモロコシ子実の水分、破碎処理の有無がサイレージ発酵品質に及ぼす影響	日本草地学会誌	65(別)、114	2019.03
今成麻衣、柴伸弥、柿木敏由貴(柿木畜産)、川村周(総合農舎山形村)	給与飼料の違いが日本短角種牛肉の揮発性成分に及ぼす影響	日本畜産学会第125回大会講演要旨	*、206	2019.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
柴伸弥、今成麻衣	20 および 24 ヶ月齢と畜した日本短角種の飼料摂取量と枝肉成績および差益試算	日本畜産学会第 125 回大会講演要旨	*、137	2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
嶮野英子	牧草新品種・フェストロリウム「東北 1 号」	農業共済新聞		2018.01
深澤充 (東北大学)、小松篤司、東山由美	Difference in daily sleeping pattern of dairy cows between summer and autumn	Proceeding of UWAF 2018. Animal Welfare across Borders	*、13	2018.01
山田明央	巻頭言	応用動物行動学会 News Letter	(52)、1	2018.05
河本英憲	広々配置で WCS を長期保存	現代農業	97 (5)、100-103	2018.05
今成麻衣	文献紹介	食肉の科学	59 (1)、58-82	2018.06
柴伸弥	文献抄録	食肉の科学	59 (1)、58-82	2018.06
東山由美	母牛と長期間放牧 ストレス減り増体	日本農業新聞		2018.06
嶮野英子	新たなサイレージ調製方法ーフレコンラップ法ー	東北農業研究センターたより	55、3	2018.07
河本英憲	耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証	東北畜産学会報	68 (2)、8-9	2018.08
伊賀浩輔	乳汁を利用した妊娠検査の精度管理	家畜診療	65 (9)、611-613	2018.09
山田明央	(報告) 統合学会「動物の行動と管理学会」設立の経緯	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	54 (4)、173-176	2018.12
山田明央	新学会の発足に向けて	応用動物行動学会 News Letter	(54)、6	2019.01
東山由美	女性研究者紹介	Creating My Own Path 「食と農のイノベーション」をめざす女性研究者たちへ	*、8	2019.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
河本英憲	飼料特性	子実用トウモロコシ生産・利活用の手引き(都府県向け)第1版	*、44-46	2019.03
久保田明人	イタリアン裏作の二毛作で TDN 収量が 59%増	デーリィマン	69(4)、34-35	2019.03
嶮野英子、河本英憲、神園巴美、出口新、内野宙、藤竿和彦、宮路広武、長谷川啓哉、幸田和也	迅速密封技術「フレコンラップ法」のコツをわかりやすく解説する技術紹介 DVD	普及成果情報		2019.03
河本英憲、志水学、米内美晴、伊賀浩輔	籾米サイレージとビール粕を用いた黒毛和種繁殖雌牛の分娩前後の飼料費低減	研究成果情報		2019.03

《生産環境研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦、浪川茉莉、工藤洋晃(茨城県農業総合研究センター園芸研究所)、大平陽一、高橋智紀	生育時期別に異なる高さで測定した携帯型 NDVI 測定器による NDVI 値と極穂重型水稻「いわいだわら」の窒素栄養値との関係	日本土壤肥科学雑誌	89(2)、146-151	2018.04
Habib Mohammad Naser(北海道大学)、永田修、Sarmin Sultana (Bangladesh Agricultural Research Institute)、波多野隆介(北海道大学)	Impact of Management Practices on Methane Emissions from Paddy Grown on Mineral Soil over Peat in Central Hokkaido, Japan	Atmosphere	9(6)、212-	2018.05
熊谷悦史、高橋智紀、中野聡史、松尾直樹	農研機構東北農業研究センターの過去 33 年間の生産力検定試験におけるダイズ収量と土壤乾燥との関係ー農研機構メッシュ農業気象データと FAO56 モデルによる解析ー	日本作物学会紀事	(3)、233-241	2018.07
大澤剛士(首都大学東京)、Kazuhisa Yamasaki(東京大学)、田渕研、Akira Yoshioka(国立環境研)、石郷岡康史、須藤重人、Mayura B. Takada(東京大学)	Climate-mediated population dynamics enhance distribution range expansion in a rice pest insect	Basic and Applied Ecology	30、41-51	2018.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
遠瑞枝、瀧川雄一 (静岡大学)	<i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>allii</i> fistulosi pv. nov., the causal agent of bacterial leaf spot of onions	Journal of General Plant Pathology	84 (5)、343-358	2018.09
小舘琢磨 (岩手県農業研究センター)、太田久稔、大久保さゆり、小田中温美 (岩手県農業研究センター)	岩手県沿岸南部地域の半島における水稲の生育特性について	日本作物学会東北支部会報	(61)、1-4	2018.12
Maya Matsunami (岩手大学)、Hidehiro Hayashi、Yoko Tominaga (岩手大学)、長村吉晃、羽田野麻理、石川淳子、桑形恒男	Effective methods for practical application of gene expression analysis in field-grown rice roots	Plant and Soil	433、173-187	2018.12
今崎伊織、門田育生	Control of Fusarium wilt of melon by combined treatment with biocontrol, plant-activating, and soil alkalizing agents	Journal of General Plant Pathology	85 (2)、128-141	2019.03
川方俊和	平年期間の変更による水稲の出穂日予測モデルの改良	東北の農業気象	*、1-12	2019.03
上杉龍士	農業害虫における薬剤抵抗性発達の遅延のための理論と実践	関東雑草研究会報	29、1-7	2019.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川利拡、K.J.Boote (University of Florida)、J.T.Baker (USDA)、T.Li (Applied GeoSolutions)、X.Yin (Wageningen University)、Y.ayin (Nanjing Agricultural University)、L.H.Allen (UNDA-retired)、R.Confalonieri (University of Milan)、J.Fugice (IFDC)、麓多門、D.Gaydon (CSIRO)、S.Naresh Kumar (IARI)、T.Lafarge (CIRAD)、M.Marcaida III (IRRI)、Y.Masutomi (茨城大学)、中川博視、D.N.L.Pequeno (CIMMYT)、U.Singh (CSIRO)、L.Tang (Nanjing Agricultural University)、F.Tao (IGSNRR,CAS)、若月ひとみ、L.T.Wilson (Texas A & M University)、Y.Yang (Texas A & M University)、吉田ひろえ	Evaluation of multiple rice crop models for response to elevated temperature in sunlit,controlled-environment chambers	Abstract of the side event of the 5th International Rice Congress Rice simulation models to address challenges for rice production under changing climate""	*、2	2018.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川利拡、T.Li (Applied GeoSolutions)、X.Yin (Wageningen University)、Y. Zhu (Nanjing Agricultural University)、K.J.Boote (University of Florida)、J.Baker (USDA)、S.Bregaglio (CREA)、S.Buis (INRA,UMR1114 EMMAH)、R.Confalonieri (University of Florida)、J.Fugice (IFDC)、麓多門、D.Gaydon (CSIRO)、S.N.Kumar (IARI)、T.Lafarge (CIRAD)、M.Marcaida III (IRRI)、Y.Masutomi (茨城大学)、中川博視、P.Oriol (CIRAD,UMR AGAP)、F.Ruget (INRA,UMR 1114 EMMAH)、U.Singh (IFDC)、L.Tang (Nanjing Agricultural University)、F.Tao (IGSNRR,CAS)、若月ひとみ、D.Wallach (INRA,UMR AGIR)、Y.Wang (Yangzhou University)、L.T.Wilson (Texas A&M)、L.Yang (Yangzhou University)、Y.Yang (Texas A&M)、吉田ひろえ、Z.Zhang (Institute of Soil Sciences)、J.Zhu (Institute of Soil Sciences)	Uncertainties in predicting rice yield by current crop models under a wide range of climatic conditions	Abstract of the side event of the 5th International Rice Congress Rice simulation models to address challenges for rice production under changing climate""	*、1	2018.01
長谷川利拡、若月ひとみ、福岡峰彦、吉本真由美、臼井靖浩、酒井英光	Effects of 10 years of open-field soil and water warming on rice growth and yield	Abstract of the 5th International Rice Congress	*、1-2	2018.01
長谷川利拡	気候変動が作物生産に与える影響のしくみと対応	第34回日本農工学会シンポジウム 講演要旨集	*、1-7	2018.01
松波麻耶 (岩手大学)、羽田野麻理、富永陽子 (岩手大学)、林秀洋、長村吉晃	遺伝子発現解析に用いるイネ根サンプルの水田での採取法と内部標準遺伝子の探索	第49回根研究会 講演要旨	*、20-	2018.01
田淵研	農地の土地利用に基づいた害虫被害の予測と見える化による管理への応用	第34回個体群生態学会大会講演要旨集	*、19	2018.01
長谷川利拡	将来の地球環境と作物生産	第7回食料生産技術研究会配布資料②	*、12-20	2018.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大久保さゆり	農業分野における気象情報の高度利用「冷害の監視」から「予測への期待」へ	第 67 回東北地方気候情報連絡会		2018.06
大久保さゆり	python によるメッシュ農業気象データの処理 2	第 211 回農林交流センターワークショップ		2018.06
川方俊和	Python によるメッシュ農業気象データの処理 1	第 211 回農林交流センターワークショップ メッシュ農業気象データ利用講習会		2018.06
加藤邦彦	自然の力で水をきれいにする 伏流式人工湿地ろ過システム	庄内地域養豚研修会		2018.07
大久保さゆり	身近なソフトウェアでできる！ ちょっと気の利いた資料の作り方	岩手県農業研究センター平成 30 年度第 1 回スキルアップ研修会ープレゼンテーション・資料作成編ー		2018.07
工藤一晃	東北 6 県における春定植タマネギ栽培の養分動態	日本土壤肥料学会講演要旨集	64125	2018.08
小館琢磨 (岩手県農業研究センター)、太田久稔、大久保さゆり、小田中温美 (岩手県農業研究センター)	岩手県沿岸南部地域の半島における水稻の生育特性について	日本作物学会東北支部第 61 講演会	口頭発表、刊行物なし	2018.08
加藤邦彦、家次秀浩 (株たすく)、菊馬啓三 (㈲ライフ) 辻盛生 (岩手県立大学)、佐々木理史 (小岩井農牧株)、福重直輝、青木和彦、井上京 (北海道大学)	Performance evaluation of multistage constructed wetland systems combined with solid-liquid separation for animal manure treatment	16th IWA International Conference on Wetland Systems for Water Pollution Control, Coference Proceedings	2、492-495	2018.09
浪川茉莉、西田瑞彦、高橋智紀、金田吉弘 (秋田県立大学)	水稻窒素吸収量と NDVI 値の関係ー携帯型測定機を用いた二年間の試験結果ー	日本作物学会 第 246 回講演要旨集	*, 119	2018.09
大久保 さゆり、柴田昇平、横山克至 (山形県農業総合研究センター水田農業試験場)	2018 年 8 月 7 日に山形県遊佐町で発生した乾燥風	東北の農業気象	63、*	2018.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大久保さゆり	気象データを利用した栽培支援情報システムー冷害の監視から栽培支援までー	スマート農業加速化実証プロジェクト等に関する全国ブロック説明会		2018.09
加藤邦彦	多段型伏流式人工湿地ろ過システムの処理水質推定と基本設計法ーこれまでの進展と今後の課題ー	第13回人工湿地ワークショップ in 郡山(西会津・湖南)、事例研究発表会		2018.09
長谷川利拡	Inter-comparisons and improvements of rice simulation models through international collaboration	THE 1st INTERNATIONAL CONFERENCE ON AGRICULTURAL MODELS AND THEIR APPLICATION IN MODERN SUSTAINABLE AGRICULTURE & THE 5th SYMPOSIUM ON THE DEVELOPMENT AND APPLICATION OF AGRICULTURAL SYSTEM MODELS	*, 18	2018.11
熊谷悦史、Tetsu Yamada、長谷川利拡(東北農業研究センター 生産環境研究領域農業気象グループ)	Is Photoperiod-Sensitive E4 locus Effective for Soybean Yield Increase By Future Warming in Cool Climates of Japan?	ASA&CSSA 2018 Annual Meeting	*, *	2018.11
熊谷悦史、Toshihiro Hasegawa	Assessing proximal sensing capabilities for high throughput estimation of genotypic variation in photosynthesis of soybean	AGU Fall meeting 2018	*, *	2018.12
田淵研	土地利用情報を用いた被害予測モデルによる斑点米被害ハザードマップ	斑点米カメムシ類防除対策研修会		2018.12
加藤邦彦	畜産系有機排水を安定して浄化する伏流式人工湿地ろ過システムー有機資源の循環利用と水環境保全の両立に向けてー	環境保全型農業推進東北会議・情報提供		2019.01
大久保さゆり	東北農研の早期警戒システムの歴史からみた栽培支援技術の開発と実装	平成30年度東北農業研究推進会議 生産環境推進部会		2019.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大久保さゆり	農研機構メッシュ農業気象データ ざっくりガイド	2018年度東北農業研究推進会議 農業気象研究会		2019.01
川方俊和	Pythonによるメッシュ農業気象 データの処理(簡略版)	平成30年度東北農業試験研究推進会議生産環境 推進部会農業気象研究会		2019.01
川方俊和	水稻の面的出穂日予測モデルの中で 平年出穂日を基準にする理由	生産環境研究領域セミナー		2019.01
熊谷悦史、Charles Burroughs (イリノイ大学)、Bin Peng (イ リノイ大学)、Hyungsuk Kimm (イリノイ大学)、Kaiyu Guan (イリノイ大学)、Elizabeth Ainsworth (イリノイ大学)、 Carl Bernacchi (イリノイ大学)	Applying high-throughput phenotypic analysis of photosynthetic physiology over an entire growing season for soybean under in-field heating	Phenome 2019	*、*	2019.02
辻盛生(岩手県立大学)、加藤 邦彦、川村輝雄(サージミヤワ キ(株))、家次秀浩(株たすく)	酪農パーラー排水処理施設への鉛直 流式人工湿地増設による効果	第53回日本水環境学会年会講演 集2019	*、175	2019.03
加藤邦彦、福重直輝、青木和彦、 家次秀浩(株たすく)、菊馬啓 三(南ライフ)、辻盛生(岩手 県立大学)、佐々木理史(小岩 井農牧(株))、菊池福道(小岩井 農牧(株))、井上京(北海道大学)	畜産系有機排水を浄化する多段型伏 流式人工湿地の効果や処理水質の推 定と実測	第53回日本水環境学会年会講演 集2019	*、119	2019.03
本郷茜(熊本県農業研究センタ ー農産園芸研究所)、屋比久貴 之、上野修(九州大学生物資源 環境科府)	イネ科耐陰性C4植物で見いだされ た生育光強度による葉の維管束師部 形成の調節	第247回日本作物 物学会講演会	247、166	2019.03
田島麻帆(九州大学生物資源環 境科学府)、屋比久貴之、上野 修(九州大学生物資源環境科学 府)	南米産キビ属植物におけるC4光合 成特性の不完全な発現	第247回日本作物 学会講演会	247、168	2019.03
植木麻衣(九州大学生物資源環 境科学府)、屋比久貴之、上野修、 (九州大学生物資源環境科学府)	乾燥ストレスはシロザにおける C3-C4中間光合成特性の発現を促進 する	第247回日本作物 学会講演会要旨 集	247、169	2019.03
川方俊和、長谷川利拡、大久保 さゆり	平年値算出期間の変更による水稻の 面的出穂日予測モデルの改良	日本農業気象学 会2019年全国大 会講演要旨集	*、88	2019.03
屋比久貴之、仲村一郎(琉球大 学農学部)、下地沙也加(琉球 大学農学部)	塩ストレス下における耐塩性野生稲 の細胞内Na ⁺ およびK ⁺ の動態	日本作物学会第 247回講演会要 旨集	247、201	2019.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浪川茉莉、長谷川利拡、屋比久貴之、松波寿典	東北北部のイネ乾田直播栽培における多収品種「ゆみあずさ」の生育・収量および品質特性	日本作物学会第247回講演会要旨集	*、6	2019.03
熊谷悦史、Carl Bernacch (イリノイ大学)	ハイパースペクトル反射から高時間分解能で個葉光合成パラメータの季節変動を捉えるーダイズの高温反応および順化に着目してー	日本農業気象学会2019年全国大会講演要旨	*、51	2019.03
吉岡明良 (国環研・福島)、松木伸浩 (福島農総セ・浜再生研)、三田村敏正 (福島農総セ・浜再生研)、遠藤わか菜 (福島農総セ・浜研)、清水明 (国環研)、小熊宏之 (国環研)、深澤圭太 (国環研)、三島啓雄 (立正大)、熊田那央 (国環研)、神宮翔真 (筑波大)、田淵研	赤トンボ類自動撮影装置の開発と福島県の営農再開水田における応用	第62回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、147	2019.03
三田村敏正 (福島農総セ・浜研)、遠藤わか菜 (福島農総セ・浜研)、吉岡明良 (国環研・福島支部)、田淵研、松木伸浩 (福島農総セ・浜再生研)	原子力災害に伴う営農中断後の水田における水生昆虫相	第66回日本生態学会講演要旨集	*、I03-03	2019.03
松木伸浩 (福島農総セ・浜再生研)、遠藤わか菜 (福島農総セ・浜研)、吉岡明良 (国環研・福島支部)、田淵研、三田村敏正 (福島農総セ・浜研)	原子力災害に伴う営農中断後の水田におけるトウキョウダルマガエルの生息状況	第66回日本生態学会講演要旨集	*、P2-262	2019.03
大澤剛士 (首都大学東京)、山崎和久 (東大院・農)、田淵研、吉岡明良 (国環研・福島)、石郷岡康史、須藤重人、高田まゆら (東大院・農)	レガシーデータを再利用してアカスジカスミカメの分布拡大メカニズムに迫る	第62回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、161	2019.03
山崎和久 (東大院・農)、田淵研、高橋明彦、大澤剛士 (首都大・都市環境)、吉岡明良 (国環研・福島)、高田まゆら (東大院・農)	斑点米カメムシ2種における生活史形質の地理的変異パターンの解明	第62回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、161	2019.03
田淵研	土地利用に基づいた斑点米被害予測とハザードマップによる広域管理への応用	第62回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、160	2019.03
新良力也	診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援マニュアルについて	平成30年度「やまがた大豆フォーラム」		2019.03
新良力也	大豆の多収阻害要因の診断と改善技術導入支援マニュアル	田谷川協業組合栽培講習会		2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤邦彦	畜産系有機排水を安定して浄化する伏流式人工湿地ろ過システムー有機資源の循環利用と水環境保全の両立に向けてー	農業	(1463)、33-41	2018.01
大久保さゆり	The history, improvement and current information service to farmers of the early-warning system against cool-weather damage	International seminar proceeding of strengthening the prevention strategies and early warning systems of agricultural disasters through information and communication technology (ICT)	*, 33-42	2018.01
大久保さゆり、菅野洋光	誰でも全体を見られる東北地域での栽培支援情報 水稲冷害対策から「気象の見える化」まで	グリーンレポート	(587)、2-5	2018.05
善林薫	水稲出穂期前後の病害防除のポイント	全国農業新聞		2018.06
田淵研	土地利用情報を用いたアカスジカスミカメによる斑点米被害のハザードマップ	植物防疫	72 (7)、432-437	2018.07
善林薫	(研究室紹介) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 生産環境研究領域 病害虫グループ	植物防疫	72 (8)、68	2018.08
上杉龍士、深谷緑 (日本大学生物資源科学部森林科学専攻)	北日本で越冬できないコナガは毎年どこからどのように飛来するのか?	昆虫と自然	53 (13)、32-35	2018.11
善林薫	健苗づくり・育苗管理のポイント	全国農業新聞		2019.01
善林薫	農業総覧 病害虫防除・資材編 (追録 24 号) 第 1 巻「いもち病」	一般社団法人農山漁村文化協会 (農文協)	1、131-151	2019.01
川方俊和	東北地方で水稲の出穂日を面的に推定できる技術を開発しました	eー普及だより	(179)、2-3	2019.01
川方俊和	寒冷地では水稲の出穂日を面的に推定できる	東北農業研究センターたより	(56・57)、11	2019.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川方俊和、長谷川利拡、大久保さゆり、大野宏之	気候、栽培条件の趨勢を考慮した水稲の面的出穂日予測の Web 発信システム	研究成果情報		2019.03
今崎伊織	メロンつる割病の発病を軽減する育苗期処理方法	研究成果情報		2019.03

《水田作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦(東北大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター)、吉田光二(元東北農業研究センター)、高橋智紀	Estimation of Changes in Available Soil Phosphate under Submerged Conditions Associated with Temperature during the Tillering Stage of Rice Plant in the Cool Climate Region of Japan	Communications in Soil Science and Plant Analysis	49 (14)、1695-1706	2018.05
加藤信、高橋智紀、石本政男、湯本節三、菊池彰夫、Takeshi Nishio (東北大学)	The effect of stem growth habit on single seed weight and seed uniformity in soybean (<i>Glycine max</i> (L.) Merrill)	Breeding Science	68 (3)、352-359	2018.06
加藤信、佐山貴司、田口文緒、菊池彰夫、石本政男、Cober Elroy (Ottawa Research Development Centre)	Effect of change from a determinate to a semi-determinate growth habit on the yield and lodging resistance of soybeans in the northeast region of Japan	Breeding Science	69 (1)、151-159	2019.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
白土宏之	「萌えみのり」の特性と栽培	「萌えみのり」栽培研修会		2018.04
白土宏之	水稲品種「萌えみのり」の品種特性並びに栽培管理のポイントについて	産地指定需給米生産部会通常総会		2018.06
戸上和樹、工藤一晃、加藤邦彦、永田修	寒冷地の春まきタマネギ栽培における土壌タイプ別施肥効率の検討	日本土壌肥科学会東北支部大会 2018年度青森大会プログラムおよび講演要旨	*、6	2018.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
高橋智紀、西田瑞彦(東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター)	シンクロ計測による、群落を対象とした乾燥ストレスの日変動把握システムの開発	日本土壤肥料学会東北支部大会	*、3	2018.07
竹田博之	大豆の多収を目指した取り組みの紹介	平成 30 年度大豆産地化推進事業現地検討会		2018.07
白土宏之	ICT を活用した正規化植生指数と地力のマッピングによる輪作ほ場の適性管理技術	平成 30 年東北地域農業関係試験研究場所長会議現地研修会		2018.07
白土宏之	「萌えみのり」の栽培指導	萌えみのり現地検討会		2018.07
高橋智紀、中野恵子、新良力也、大橋優二、工藤忠之、谷川法聖、今野智寛、加藤優来、安藤正、森谷真紀子、松田晃、南雲芳文、青木政晴、上原敬義、岡本潔、梅本英之、向井吉宗、中村憲治、大島正稔、加藤知美、森崎耕平、久野智香子、田畑茂樹、原田直也、水谷嘉之、堂本晶子、藤井清孝、蓮川博之、新谷浩樹、鳥塚智、谷口真一、大塩哲視、伊藤淳次、藤本順子、仲谷敦志、三原美雪、山崎大貴、樋口俊輔、水田一枝、竹田美保子、持永亮、石塚明子	大豆低収要因実態調査 3 ヶ年の調査結果—気象と土壌要因について—	東北農業試験研究推進会議・作物生産推進部会畑作物栽培研究会(夏期)		2018.07
戸上和樹、工藤一晃、加藤邦彦、永田修	水管理が玄米中総ヒ素・カドミウム濃度に及ぼす影響は土壌タイプにより異なる	日本土壤肥料学会講演要旨集	64145	2018.08
竹田博之	大豆へ尿素の葉面散布を実施するにあたっての注意	秋田なまはげ農業協同組合秋田地区大豆部会葉面散布実演研究会		2018.08
津田直人、福岡修一、太田久稔	イネ品種「Ta Hung Ku」が有する葉いもち圃場抵抗性に関する QTL 解析	育種学研究	20 (別冊 2)、59	2018.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
高橋智紀、新良力也、大橋優二(道総研)、工藤忠之(青森産技)、谷川法聖(青森産技)、今野智寛(宮城県古川農試)、加藤優来(山形農総研セ)、森谷真紀子(山形農総研セ)、松田晃(山形農総研セ)、南雲芳文(新潟農総研)青木政晴(長野県農試)、上原敬義(長野研農試)、岡本潔(長野研農試)、梅本英之(石川農研セ)、向井吉崇(石川農研セ)、中村憲治(茨城農総セ)、大島正稔(栃木農試)、加藤知美(山梨総農技セ)、森崎耕平(愛知農総試)、久野知香子(愛知農総試)、田畑茂樹(三重農研)、原田直也(三重農研)、水谷嘉之(三重農試)、堂本品子(三重農試)、藤井清孝(滋賀農技セ)、蓮川博之(滋賀農技セ)、新谷浩樹(滋賀農技セ)、鳥塚智(滋賀農技セ)、谷口真一(滋賀農技セ)、大塩哲視(兵庫農総セ)、伊藤淳次(島根農技セ)、藤本順子(島根農技セ)、仲谷敦志(島根農技セ)、三原美雪(島根農技セ)、山崎大貴(島根農技セ)、樋口俊輔(福岡農総試)、水田一枝(福岡農総試)、竹下美保子(福岡農総試)、持永亮(福岡農総試)、石塚明子(福岡農総試)	16 道県調査から見えた生産者圃場の土壌特性と大豆収量の関係ー化学性・気温・日照と大豆収量の関係	日本土壌肥科学会講演要旨集	64、86	2018.09
古畑昌己、千葉雅大、牛木純	寒冷地での越冬性に関わる水稻品種の評価	日本作物学会第246回講演要旨集	*、116	2018.09
伊藤景子、白土宏之、今須宏美、古畑昌己、大平陽一、川名義明	代かき同時浅層土中播種機を用いた水稻無コーティング湛水直播栽培における根出し種子の苗立ち向上効果の現地実証	日本作物学会第246回講演会要旨	*、5	2018.09
白土宏之、伊藤景子、今須宏美、高橋智紀、川名義明、大平陽一、片平光彦(山形大学農学部)、菅原金一(榎石井製作所)、松田晃(山形県農業総合研究センター水田農業試験場)、安藤正(山形県庁)	水稻無コーティング種子の代かき同時浅層土中直播の苗立に影響を与える要因	日本作物学会第246回講演会要旨集	*、4	2018.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤信、田口文緒、佐山貴司、石本政男、Cober Elroy (Ottawa Research Development Centre)	ダイズの半無限伸育性導入が収量及び耐倒伏性に及ぼす影響	育種学雑誌	20 (別冊 2)、108	2018.09
太田久稔、兵藤健一	業務用米に東北農研育成米品種「萌えみのり」「ちほみのり」「ゆみあずさ」	平成 30 年度東北地域マッチングフォーラム		2018.11
太田久稔、横上晴郁、津田直人、福嶋陽、梶亮太	極短稈穂重型の多収・良食味水稻育種素材「羽系 1795」の開発	東北農業研究	(71)、7-8	2018.12
菱沼亜衣、篠遠善哉、山崎諒	米国イリノイ州における大豆・トウモロコシの栽培と育種	秋田育種談話会記事	33、5-7	2018.12
白土宏之	水稻無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培	不動中山間地域協定研修会		2018.12
加藤信、島村聡	ダイズシストセンチュウの発生状況と対策技術の検討	東北農業試験研究推進会議・作物生産推進部会・畑作物栽培研究会 (冬期)		2019.01
白土宏之	水稻無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培	東北農業試験研究推進会議作物生産部会直播研究会		2019.01
今須宏美	水稻無コーティング直播「かん湛！」大仙市実証試験～成績報告～	直播栽培導入推進事業実績検討会 (報告会)		2019.02
白土宏之	「ちほみのり」の栽培	「ちほみのり」研修会		2019.02
白土宏之	べんモリ直播と無コーティング直播	鉄コーティング水稻直播栽培研修会		2019.02
白土宏之	国営田沢二期地区水稻無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種実証報告	大仙市直播導入事業等実績検討会		2019.02
今野智寛 (宮城県古川農業試験場)、高橋智紀、中野恵子、新良力也	FAO56 モデルを用いた土壌の乾湿指標によるダイズ乾湿害の実態解析	日本作物学会第 247 回講演要旨集	247、82	2019.03
今須宏美、白土宏之、伊藤景子、古畑昌己	水稻湛水直播栽培における根出し種子の鞘葉伸長速度の増加による苗立ち向上	日本作物学会講演会要旨集	*、70	2019.03
竹田宏之、斉藤秀文、斉藤寛 (山形県農業総合研究センター水田農業試験場)、佐々木一嘉 (山形県農業総合研究センター)	山形県庄内地域の水田転換畑における「里のほほえみ」ダイズのチゼル有芯部分耕狭畦栽培	日本作物学会第 247 回講演会要旨集	*、144	2019.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
菱沼亜衣、福田篤徳、杉本琢真（兵庫県農林水産技術センター）、内川修（福岡県農林業総合試験場）、森田茂樹（福岡県農林業試験場）、奥野竜平（福岡県農林業試験場）、加藤信、佐山貴司、横田侑子、清水武彦、田口文緒、小木曾映里、加賀秋人、羽鹿牧太、石本政男	米国品種に由来するダイズの主茎節間長に関する QTL の検出	育種学研究	21 (別 1)、19	2019.03
今須宏美	「萌えみのり」の多収技術	JA 秋田しんせい 萌えみのり栽培 講習会		2019.03
白土宏之	朝紫の栽培、除草	大仙市古代稲生 産組合新春研修 会		2019.03
白土宏之	萌えみのりの栽培	JA 秋田しんせい 萌えみのり栽培 講習会		2019.03
白土宏之	ちほみのりの栽培	ちほみのり栽培 研修会		2019.03
白土宏之	ドローン可変追肥、萌えみのりとちほみのりの栽培	JA 秋田ふるさと 産地指定需給米 生産部会実績検 討会		2019.03
加藤信、田口文緒	ダイズ品種「里のほほえみ」のセンチュウ抵抗性をピンポイントで改良した系統の開発	ダイスゲノム育 種推進ワークシ ョップ		2019.03
高橋智紀	大豆の灌水支援コンテンツ	第 12 回農業気象 研究会		2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤信	大豆畑で散布する茎葉処理除草剤	大豆品種あらか ると	*、21-22	2018.01
高橋智紀	強粘質土壌の転作ダイズ向け「スリット成形播種機」を開発	農業共済新聞		2018.04
高橋智紀	大起理化、農研機構と装置	日本工業新聞		2018.06
白土宏之	根を伸ばした種で直まきした稲の萌芽をよくする	東北農業研究セ ンターたより	55、5	2018.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
菊池彰夫	大豆「里のほほえみ」の品種特性と普及状況	グリーンレポート	(590)、12-13	2018.08
古畑昌巳	水稲直播による栽培のポイント	全国農業新聞		2019.02
古畑昌巳	大規模稲作経営の効率化に不可欠直播栽培のポイント	農業共済新聞		2019.03
菊池彰夫	煮豆に適する寒冷地向けの黒ダイズ新品種「黒丸くん」の育成	東北農業研究センター研究報告	(121)、27-38	2019.03
高橋智紀	真空播種機による転作ダイズのスリット成形播種	農研機構技術パンフレット集	*、20	2019.03
竹田博之、齋藤秀文、永田修、齋藤寛、松田晃、上野清、角田毅、池山直人、屋代幹雄	大豆の低コスト化・省力化が可能なチゼル有芯部分耕狭畦栽培 うね内部分施肥播種栽培—庄内地域の「里のほほえみ」大豆による栽培実証から—	農研機構ホームページ／プレスリリース・広報／刊行物／技術パンフレット	*、2. 畑作	2019.03
太田久稔、横上晴郁、津田直人、藤村健太郎、山口誠之、福嶋陽、梶亮太、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司、田村泰章	いもち病に強く耐倒伏性に優れる良食味水稲糯品種「ときめきもち」	普及成果情報		2019.03
菊池彰夫、島村聡、平田香里、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文、高橋浩司、島田尚典、足立大山、田淵公清、中村茂樹	煮豆に適する寒冷地向けの黒大豆品種「黒丸くん」	研究成果情報		2019.03

《農業放射線研究センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金井源太、篠遠善哉、山下善道	トウモロコシ子実の循環式乾燥機による乾燥試行および市販水分計による水分測定	農業施設	49(2)、86-92	2018.06
好野奈美子、堀井幸江、村上敏文、松波寿弥、万福裕造、信濃卓郎	野焼きを想定した雑草の燃焼による放射性セシウムの動態	環境放射能除染学会誌	6(2)、91-99	2018.06
和崎淳(広島大学)、Junya Sakaguchi(北海道大学)、Takuya Yamamura(北海道大学)、Susumu Ito(琉球大学)、信濃卓郎、大崎満(北海道大学)、Ellen Kandeler(Hohenheim Univ.)	P and N deficiency change the relative abundance and function of rhizosphere microorganisms during cluster root development of white lupin (<i>Lupinus albus</i> L.)	Soil Science and Plant Nutrition	64(6)、686-696	2018.11
久保堅司、小林浩幸、藤本竜輔、太田健、信濃卓郎	Towards the partial resumption of agriculture with buckwheat cultivation in fields physically decontaminated of radioactive cesium after the nuclear power plant accident in 2011: a case study in Yamakiya District, Fukushima	Plant Production Science	*、*	2018.11
錦織達啓、林誠二(国立環境研究所・福島支部)、渡邊未来(国立環境研究所 地域環境研究センター)、保高徹生(産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門)	Impact of clearcutting on radiocesium export from a Japanese forested catchment following the Fukushima nuclear accident	PLOS ONE	14(2)、e0212348-	2019.02
Sho Ogasawara(京都府立大学)、江口哲也、中尾淳(京都府立大学)、藤村恵人、高橋義彦、松波寿弥、塚田祥文(福島大学)、矢内純太(京都府立大学)、信濃卓郎	Phytoavailability of ¹³⁷ Cs and stable Cs in soils from different parent materials in Fukushima, Japan	Journal of Environmental Radioactivity	198、117-125	2019.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗	保全管理農地における塩素酸塩粒剤の秋期処理によるスギナの防除効果	第20回東北雑草研究会講演要旨集	*、14	2018.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗、好野奈美子、松木伸浩 (福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター)	保全管理水田における省力散布可能な除草剤によるヨシの防除効果	第 20 回東北雑草研究会講演要旨集	*、14	2018.01
藤村恵人	玄米への放射性セシウム蓄積と土壌カリの影響	ワークショップ 原子力事故後の農・環境回復のための取り組み	*、*	2018.01
山下善道、野中章久、根本知明	自分でつくる IoT 温度計	平成 30 年度営農再開技術セミナー「生産者のためのわかりやすい農業 ICT 講座」		2018.01
山下善道、野中章久	スマートフォンによる離れたハウスの温度確認	平成 30 年度営農再開技術セミナー「生産者のためのわかりやすい農業 ICT 講座」		2018.01
下野綾子 (東邦大学)、神戸裕貴 (東邦大学)、浅井元朗	Rapid establishment of <i>Amaranthus palmeri</i> resistant to glyphosate around grain-importation ports in Japan	The 8th EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) International Congress	*、*	2018.04
浅井元朗	雑草写真図鑑の編纂などによる雑草の早期識別技術の普及	日本雑草学会第 57 回大会講演要旨集	*、18-21	2018.04
好野奈美子、小林浩幸、土田邦夫 (公益財団法人日本植物調節剤研究会)、和田美由紀 (雪印種苗株式会社)、敖敏 (株式会社白崎コーポレーション)	休耕地の畦畔や法面を省力的に除草管理する技術の比較	日本雑草学会第 57 回大会講演要旨集	*、106	2018.04
浅井元朗	港湾周辺植生の特徴と課題 - 珍品探しから追跡調査へ: 趣旨	日本雑草学会第 57 回大会講演要旨集	*、28	2018.04
浅井元朗	畦畔法面の大型雑草の特徴と除草剤を用いた防除	営農再開技術セミナー「ススキ対策技術実演会」		2018.04
藤村恵人、太田健、信濃卓郎	A simple method to predict ¹³⁷ Cs concentration in brown rice under low exchangeable potassium content in each paddy field	Central and Eastern European Conference on Health and the Environment	*、167	2018.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗	除染後農地におけるタマネギ栽培の 雑草対策について	営農再開技術セ ミナー「除染後 の水田転換畑に おけるタマネギ 栽培のポイント」		2018.06
金井源太	Ideas for Efficient Cooking Stove	How to make “good” burning ? & Ideas for Efficient Cooking Stove		2018.06
金井源太、山下善道	Groundwater Utilization in a Farm Heat Network	EurAgEng 2018 conference abstract	*, ID:315	2018.07
山下善道	農地における水質問題～キリバスに おける水質調査～	日本大学生物資 源科学部食品ビ ジネス学科 食品 ビジネス演習 I (小野洋准教授 ゼミ)		2018.07
山下善道、竹倉憲弘、金井源太、 薬師堂謙一	Biomass Heating System with Kerosene Boiler for Green House Heating	EurAgEng 2018 conference	*, *	2018.08
山下善道、野中章久、金井源太	実規模水稲育苗ハウスへの市販 IoT 試作キットによる遠隔監視	農業食料工学会 北海道・東北支 部 2018 年度合同 年次大会講演要 旨	*, 40-41	2018.08
若林正吉	17 世紀の会津地方における土壌の 分類評価	日本土壌肥料学 会講演要旨集	64、164	2018.08
藤村恵人、石川淳子、新妻和敏 (福島県)、太田健、信濃卓郎	原発事故影響地域での営農促進に向 けた玄米の放射性セシウム濃度評価 手法の検討	日本土壌肥料学 会 2018 年度神奈 川大会プログラ ム	*, 149	2018.08
藤村恵人、新妻和敏 (福島県)、 石川覚、石川淳子、太田健、信 濃卓郎	A simple method using rice seedlings to predict ¹³⁷ Cs concentration in brown rice and to estimate appropriate amounts of potassium fertilizer for each paddy field	21st World Congress of Soil Science	*, *	2018.08
久保堅司、太田健、信濃卓郎	土壌中の交換性放射性セシウム濃度 の経時的変化と非交換性カリ含量と の関係	日本土壌肥料学 会講演要旨集	64、148	2018.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗	河川堤防の主要雑草の特徴とその評価	平成 30 年度緑地管理研究会		2018.08
金井源太、好野奈美子	市販芝刈ロボットの農業現場における利用可能性	農業環境工学関連学会 2018 年合同大会講演要旨集	*、OS6-2	2018.09
金井源太、篠遠善哉	アメリカおよびタイにおけるトウモロコシ子実乾燥調製施設	農業環境工学関連学会 2018 年合同大会講演要旨集	*、OS13-1	2018.09
山下善道、小野洋(日本大学)、金井源太、野中章久	離島における堆肥生産と作物栽培に向けた現地調査	農業環境工学関連学会 2018 年合同大会	*、*	2018.09
藤村恵人、久保堅司、太田健、信濃卓郎	東電福島第一原発事故による避難指示解除区域における今後の課題	第 246 回日本作物学会講演会要旨集	*、125	2018.09
本島彩香、松波寿弥、信濃卓郎	大豆体内における放射性セシウムとカリウムの動態	日本土壤肥料学会講演要旨集第 64 集	*、147	2018.09
錦織達啓	Overview of Agricultural Radiation Research Center, NARO and our Radiocesium Research Activities	15th Coordination Meeting of Network of Analytical Laboratories for the Measurement of Environmental Radioactivity		2018.1
山下善道	Labor-saving management for the resumption of farming in disaster area :using IoT prototyping kit.	International Symposium on Frontier of Science, Technology and Engineering 2018	*、25	2018.11
久保堅司	放射性物質による作物の汚染はどのように回避されたか	京都教育大学環境教育実践センター平成 30 年度公開講演会		2018.11
浅井元朗	被災地における営農再開問題-雑草の対策	福島拠点公開セミナー		2018.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金井源太	トウモロコシ子実の乾燥および水分測定	農相食料工学会シンポジウム第23回テクノフェスタ	*、119-123	2018.12
藤村恵人	土壌中交換性カリ含量の低下にともなう玄米放射性セシウム濃度の上昇リスクの予測	第390回生存圏シンポジウム「第8回 東日本大震災以降の福島県の現状及び支援の取り組みについて」	*、*	2018.12
久保堅司	畑作物における放射性セシウムの移行低減対策と営農再開に向けた取り組み	第390回生存圏シンポジウム第8回東日本大震災以降の福島県の現状及び支援の取り組みについて		2018.12
江口哲也	TPB抽出による非交換性カリ含量と作物による放射性セシウム吸収	平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究(福島県・農業分野)」中課題2「カリ適正化」土壌中非交換性カリ含量と放射性セシウム吸収抑制対策セミナー		2019.01
金井源太	(5)子実用トウモロコシの収穫および乾燥について	「子実用トウモロコシに関する実績検討会」(花卷子実コーン組合)当日配付資料	*、14-24	2019.02
太田健	放射性セシウムの農作物への吸収をどうやって低減できるか	平成30年度秋田県土壌肥料懇話会	*、*	2019.02
浅井元朗	大豆難防除雑草の発生状況と低減対策について～「大豆多収阻害要因の診断法及び対策技術」から～	つがる弘前農業協同組合「集落営農研修会」		2019.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗	大豆難防除雑草の発生状況と低減対策について～「大豆多収阻害要因の診断法及び対策技術」から～	JA みどりの研修会		2019.02
錦織達啓	これまでの研究内容と今後 30 年間の社会課題・研究課題	福島第一原子力発電所事故由来環境問題調査研究 分野横断ワークショップ 2019		2019.02
小野洋 (日本大学)、山下善道、金井源太、野中章久	キリバスにおけるバイオマス利用と海面上昇	第 14 回日本 LCA 学会研究発表会プログラム	*、18-19	2019.03
池田菜史 (京都大学)、下野嘉子 (京都大学)、西健志 (京都大学)、浅井元朗、富永達 (京都大学)	輸入穀物を介して侵入する外来植物の国際貿易港における定着状況	第 66 回日本生態学会講演要旨集	*、*	2019.03
下野綾子 (東邦大学)、浅井元朗	グリホサート抵抗性オオホナガアオゲイトウの遺伝子増幅は適応度に影響するか?	第 66 回日本生態学会講演要旨集	*、*	2019.03
錦織達啓	137Cs/133Cs 比を用いたスギの経根吸収 137Cs 量の推定 1	第 130 回日本森林学会大会 学術講演集	*、102	2019.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
若林正吉	Soil Dressing with Alluvial Soil Materials: Dorotsuke TM	Springer, Singapore	*、147-153	2018.01
浅井元朗	休耕田での大型雑草ヨシの防除へ原発事故からの営農再開のためにへ	農家のしおり	*、394-395	2018.01
小綿寿志、金井源太、澁谷幸憲	第 33 章地域実証事例【6】大規模水田地域モデル 地域バイオマスとしてのナタネの利用実証, 農林バイオマス資源と地域利活用ーバイオマス研究の 10 年を振り返るー	養賢堂	*、412-419	2018.03
浅井元朗	除染後水田のヨシ防除対策	農研機構 技術紹介パンフレット	*、1-12	2018.04
浅井元朗	雑草種子を駆除し翌年の雑草を大幅に減らす自走式蒸気処理防除機	農業共済新聞		2018.05
浅井元朗	雑草写真図鑑の編纂などによる雑草の早期識別技術の普及	雑草研究	63 (2)、33-36	2018.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗、小沼明弘、稲垣貴之 (日本植物調節剤研究協会研究 所)、鹿島健太	海外誌のコンテンツから	雑草研究	63(2)、39-45	2018.06
浅井元朗	熱蒸気で地表面の雑草種子を駆除す る技術を開発しました	e-普及だより	(174)、*	2018.08
好野奈美子、小林浩幸、土田邦 夫(植調協会)、和田美由紀(雪 印種苗)、菽敏(白崎コーポレー ション)、井原希	休耕地の畦畔や法面を省力的に除草 管理する技術の比較	農業共済新聞 (NOSAI 宮城) 2018年8月15日		2018.08
小林浩幸、西村愛子(野生動物 保護管理事務所)、好野奈美子	攪乱と雑草ー津波と原発事故に伴 う大規模攪乱のもとでー	講談社サイエン ティフィック、東 京	*, 114-127	2018.09
浅井元朗、小沼明弘、稲垣貴之 (日本植物調節剤研究協会研究 所)、鹿島健太(バイエルクロッ プサイエンス)	海外誌のコンテンツから	雑草研究	63(3)、98-105	2018.09
浅井元朗、小沼明弘、稲垣貴之 (日本植物調節剤研究協会研究 所)、鹿島健太(バイエルクロッ プサイエンス)、早坂大亮(近 畿大学)	海外誌のコンテンツから	雑草研究	63(4)、121-126	2018.12
浅井元朗	雑草管理者のための雑草の識別と調 査の基礎	草と緑	*, 10-16	2018.12
金井源太	ポストハーベスト工学事典	朝倉書店	*, 150-159	2019.01
好野奈美子、小林浩幸、土田邦 夫(植調協会)、和田美由紀(雪 印種苗)、菽敏(白崎コーポレー ション)、井原希	畦畔や法面を省力的に雑草管理する ー除染後農地での営農再開に向けて	平成31年版「農 業日誌」に掲載 する「日誌のし おり」	*, *	2019.01
浅井元朗、小沼明弘、稲垣貴之 (日本植物調節剤研究協会研究 所)、鹿島健太(バイエルクロッ プサイエンス)、早坂大亮(近 畿大学)	海外誌のコンテンツから	雑草研究	64(1)、11-15	2019.03
久保堅司、小林浩幸、藤本竜輔、 太田健、信濃卓郎	除染農地においてそばで営農再開す るためのカリおよび窒素肥料の増施	普及成果情報		2019.03
金井源太、篠遠善哉、山下善道	汎用循環式乾燥機によるトウモロコ シ子実の乾燥および水分推定手法	研究成果情報		2019.03
藤村恵人、山村光司、太田健、 石川哲也、齋藤隆、荒井義光、 信濃卓郎	放射性セシウムの玄米への移行を水 田土壌の交換性カリ含量から推定	研究成果情報		2019.03

2. 特許・品種登録等

1) 特許・実用新案の出願及び登録

(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
【特許】 (登録)			
○少なくとも2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用したマルトース高含有生地 ¹ の製造方法	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)		H30. 6. 8 第 6347475 号
○動物の行動判別装置及び行動判別方法、プログラム	福重 直輝、伊賀 浩輔、 志水 学、(株)イーアールアイ		H30. 9. 7 第 6395295 号
○トコトリエノールの製造方法及びそのための植物	木村 映一、吉田 泰二、 木村 俊之、 (国大)東北大学、富山県		H30. 9. 21 第 6403372 号
(出願中)			
○高純度セレブロシドの製造方法	木村 俊之、オルガノ(株)、 日本製粉(株)	H26. 12. 4	
○イチゴ属植物のうどんこ病抵抗性関連マーカーとその利用	本城 正憲、由比 進、 トヨタ自動車(株)	H28. 10. 6	
○イチゴ属植物の四季成り性関連マーカーとその利用	本城 正憲、由比 進、 トヨタ自動車(株)	H28. 10. 6	
○放射線汚染土壌の浄化方法	太田 健、石川 哲也、 藤村 恵人、江口 哲也、 松波 寿弥、農業環境変動研究センター、太平洋セメント(株)、福島県	H29. 3. 2	
○作業位置指示装置	白土宏之、宮城県、 小泉商事(株)	H29. 7. 13	
○有機廃棄物の固液分離ろ過システム	加藤 邦彦、福重 直樹、 (株)たすく、(有)ライフワーク	H29. 10. 19	
○ビニールハウス換気装置 (上げ閉め巻き取り式ハウス換気装置)	由比 進、吉澤 信行、 三浦 光浩、松橋 克也、 小館 洋一、後藤 正幸、 藤澤 佳行、寛 正、 本城 正憲	H30. 5. 10	

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発 明 考 案 者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
○ビニールハウス換気装置 (折り返し巻き取り式ハウス換気装置)	由比 進、吉澤 信行、 三浦 光浩、松橋 克也、 小館 洋一、後藤 正幸、 藤澤 佳行、寛 正、 本城 正憲	H30. 5. 10	
○作物の倒伏度評価装置及び作物の倒伏 度評価方法 ほか5件 【実用新案】 なし	白土 宏之	H30. 9. 20	

2) 種苗法による品種登録

(平成30年4月～平成31年3月)

植物の種類	品種の名称	登録年月日	登録番号	育 成 者
ナタネ	きらきら銀河	H30. 8. 13	第26955号	川崎 光代、本田 裕、由比 真美子、 山守 誠、加藤 晶子
ネギ	TAM-3	H30. 8. 15	第26976号	山崎 篤、山崎 博子、野菜花き研 究部門

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育 成 者
イタリアンライグ ラス亜種	クワトローTK5	H28. 3. 28	久保田明人、上山 泰史、藤森 雅博、 米丸 淳一、秋山 征夫
ダイズ	黒丸くん	H28. 5. 19	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、 平田 香里、河野 雄飛、湯本 節三、 高田 吉丈、島田 信二、境 哲文、 島田 尚典、高橋 浩司、鈴木 真吾、 田渕 公清、中村 茂樹
ソバ	夏吉	H28. 5. 19	川崎 光代、本田 裕、加藤 晶子、 次世代作物開発研究センター

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育成者
コムギ	夏黄金	H29. 2. 13	谷口 義則、伊藤 裕之、平 将人、 中村 和弘、吉川 亮、前島 秀和、 池永 幸子、中村 俊樹、石川 吾郎、 伊藤美環子、齋藤 美香、氷見 英子、 池田 達哉
稲	ゆみあずさ	H29. 5. 17	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 横上 晴郁、津田 直人、梶 亮太、 中込 弘二
コムギ	やわら姫	H29. 8. 24	中村 俊樹、伊藤 裕之、齋藤 美香、 谷口 義則、石川 吾郎、池永 幸子、 氷見 英子、中丸 観子
稲	たわわっこ	H30. 3. 16	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、中込 弘二、岩手県
ペレニアルライグ ラス	夏ごしペレ ラス	H30. 5. 23	藤森 雅博、久保田明人、秋山 征夫、 上山 泰史、山梨県
コムギ	ナンブキラリ	H30. 10. 03	谷口 義則、伊藤 裕之、平 将人、 中村 和弘、池永 幸子、中村 俊樹、 前島 秀和、石川 吾郎、齋藤 美香、 吉川 亮、伊藤美環子、中丸 観子、 氷見 英子、高山 敏之、西日本農業研究 センター
オオムギ	もちしずか	H30. 10. 03	谷口 義則、伊藤 裕之、平 将人、 池永 幸子、中村 和弘、前島 秀和、 中村 俊樹、中丸 観子、氷見 英子、 高山 敏之
コムギ	にしのやわら	H30. 10. 24	中村 俊樹、石川 吾郎、齋藤 美香、 九州沖縄農業研究センター
コムギ	みなみのやわら	H30. 11. 13	中村 俊樹、石川 吾郎、齋藤 美香、 西日本農業研究センター
イチゴ	そよかの	H31. 2. 19	本城 正憲、片岡 園、塚崎 光、 由比 進、岩手県、秋田県

3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数

1) 育成品種（平成 30 年度出願）

- ・ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」（東北 7 号 PR）
- ・コムギ「ナンブキラリ」（東北 232 号）
- ・オオムギ「もちしずか」（東北皮糯 48 号）
- ・コムギ「にしのやわら」（西海 201 号）
- ・コムギ「みなみのやわら」（中国 171 号）
- ・イチゴ「そよかの」（盛岡 36 号）

2) 育成品種一覧 (平成 31 年 3 月現在)

水 稲

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	早 晩 性	耐 倒 伏 性	耐 冷 性	食 味	いもち病抵抗性	
			母	父						抵 抗 性	圃 場 抵 抗 性
1	農林 84 号	奥羽 224 号	農林 22 号	農林 1 号	1954	中	や	や	下	+	中
2	農林 139 号	奥羽 225 号	農林 22 号	農林 1 号	1962	中	中	中	上	+	中
3	農林 143 号	奥羽 242 号	農林 51 号	農林 1 号	1963	中	中	中	上	Pik	中
4	農林 152 号	奥羽 245 号	農林 54BC-68	農林 225 号	1964	中	中	中	上	Pia	中
5	農林 171 号	奥羽 259 号	こがねもち	奥羽 237 号	1966	早	や	や	(良)	Pii	中
6	農林 172 号	奥羽 260 号	奥羽 237 号	東北 76 号	1966	中	中	中	上	Pia	中
7	農林 181 号	奥羽 249 号	農林 225 号	東北 76 号	1967	中	中	中	上	Pia	中
8	農林 182 号	奥羽 250 号	農林 225 号	東北 76 号	1967	中	中	中	上	Pia	中
9	農林 198 号	奥羽 267 号	東北 78 号	奥羽 329 号	1969	中	中	中	上	+	中
10	農林 199 号	奥羽 269 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	中	中	中	上	Pia	中
11	農林 210 号	奥羽 268 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1970	中	中	中	上	Pik	中
12	農林 221 号	奥羽 277 号	大系 227	こがねもち	1972	極早	中	中	(良)	+	中
13	農林 222 号	奥羽 278 号	奥羽 239 号	奥羽 269 号	1972	極早	中	中	上	Pia	中
14	農林 229 号	奥羽 282 号	奥羽 70 号	奥羽 17	1976	早	や	や	中	Pik,Pii	中
15	農林 232 号	奥羽 301 号	トヨニシキ	曲系 17	1979	早	や	や	中	Pik,Pii	中
16	農林 253 号	奥羽 296 号	大系 1076	ふがねもち	1979	早	や	や	(良)	Pia,Pib	中
17	農林 254 号	奥羽 331 号	コチヒビキ	奥羽 316 号	1993	中	中	中	上	Pia,Pii	中
18	農林 320 号	奥羽 346 号	中部 47 号	奥羽 313 号	1996	中	中	中	上	+	中
19	農林 342 号	奥羽 349 号	東福 396	奥羽 331 号	1996	中	中	中	上	Pia	中
20	農林 356 号	奥羽 344 号	74wx2N-1	奥羽 331 号	1998	中	中	中	上	+	中
21	農林 367 号	奥羽 368 号	東北 149 号	奥羽 331 号	2000	中	中	中	上	Pib	中
22	農林 375 号	奥羽 354 号	探系 2019	奥羽 143 号	2001	中	中	中	上	Pia	中
23	農林 384 号	奥羽 赤 370 号	(奥羽 331 号 × A5) の F1	奥羽 331 号	2002	早	中	中	上	+	中
24	農林 390 号	奥羽 366 号	東北 143 号	奥羽 338 号	2003	中	極強	極強	中	Pia,Pii	極強
25	農林 407 号	奥羽 359 号	東北 269 号	奥羽 316 号	2005	中	極強	極強	中	Pia,Pik	弱
26	農林 408 号	奥羽 387 号	オオチカラ	西海 203 号	2005	中	弱	弱	中	Pia-2,(Pia)	弱
27	農林 416 号	奥羽 382 号	H-451	紫穂 No.1	2008	中	弱	弱	中	+	弱
28	農林 417 号	奥羽 赤 388 号	南海 128 号	はえぬき	2006	中	強	強	中	Pia,Pii	中
29	農林 425 号	奥羽 赤 395 号	たつこもち	紅衣	2006	早	強	強	中	+	強
30	農林 425 号	奥羽 紫 389 号	ふくひき	97UK-46	2007	早	強	強	中	Pik,Pik	強
31	農林 425 号	奥羽 紫 378 号	関東 195 号	朝紫	2011	早	弱	弱	上	Pia	中
32	農林 425 号	奥羽 紫 379 号	関東 195 号	対馬在来	2011	早	弱	弱	上	Pik	中
33	農林 425 号	奥羽 411 号	おきにいり / あ	対馬在来	2011	中	弱	弱	上	Pia,Pii	中
34	農林 425 号	奥羽 411 号	おきにいり / あ	おきにいり	2013	中	強	強	上	Pia,Pii	中
35	平 25 水稲	奥羽 405 号	たきたて	放育 2 号	2015	早	弱	弱	上	Pii	中
36	平 25 水稲	奥羽 407 号	中部 111 号	奥羽 382 号	2015	中	強	強	上	Pia,Pii	極強
37	平 25 水稲	奥羽 409 号	奥羽 394 号	奥羽 382 号	2015	早	弱	弱	上	Pik,Pib	不明
38	平 26 水稲	奥羽 414 号	羽系 804	青系 161 号	2016	極早	や	や	不明	Pia,Pib	不明
39	平 26 水稲	奥羽 416 号	奥羽 382 号	青系 157 号	2018	極早	中	中	上	Pia,Pii	強
40	平 26 水稲	奥羽 413 号	奥羽 391 号	奥羽 直 376 号	2016	中	や	や	上	Pia,Pii,Pik	強
41	平 26 水稲	奥羽 424 号	奥羽 400 号	羽系 1293	—	早	や	や	上	Pia,Pii	かなり強
42	平 26 水稲	奥羽 手 122 号	奥羽 1170 号	岩手 95 号	—	早	強	強	上	Pii	かなり強

小麦

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	主な用途	成熟期	芒の有無	穂の色	耐寒雪性	赤さび病抵抗性
			母	父							
1 スノノコムギ	農林77号	東北77号	農林10号	北関東5号	1950	めん用	中	有	白	やや弱	やや弱
2 アツバコムギ	農林78号	東北84号	F5-1582	Egyptian Amber	1950	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
3 ナンブコムギ	農林81号	東北79号	農林7号	Ardito	1951	パン用	早	無	白	中	中
4 ヒツミコムギ	農林82号	東北95号	農林33号	農林27号	1951	めん用	早	有	白	中	中
5 オクコムギ	農林88号	東北103号	農林39号	東北56号	1953	めん用	晩	無	白	中	中
6 サキコムギ	農林90号	東北97号	農林33号	東北56号	1955	めん用	晩	無	白	中	中
7 フルツマサリ	農林91号	東北91号	農林78号	農林27号	1956	めん用	晩	有	白	中	中
8 キタカミコムギ	農林94号	東北105号	東北101号	農林39号	1956	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
9 シンモフサコムギ	農林97号	東北110号	アオバコムギ	東北83号	1959	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
10 ミヤギノコムギ	農林101号	東北108号	東北106号	北関東44号	1963	めん用	中	無	白	中	中
11 ハチマンコムギ	農林102号	東北117号	東北108号	農林10号	1964	めん用	早	有	白	やや弱	やや弱
12 ハナガサコムギ	農林113号	東北122号	東北108号	農林27号	1973	パン用	中	無	白	中	中
13 ワカマツコムギ	農林116号	東北126号	北陸46号	(HopexTimstein) ×農林58号	1974	めん用	中	無	白	中	強
14 コユキコムギ	農林127号	東北143号	キタカミコムギ	ハナガサコムギ	1982	めん用	晩	有	白	中	強
15 あきたつこ	農林133号	東北167号	ワカマツコムギ	ユキチヤボ	1988	パン用	中	有	白	中	弱
16 はつもち	農林137号	東北183号	関東107号	東北144号	1992	ブレンド	中	有	白	中	やや弱
17 もち乙女	—	東北210号	関東107号	白火	1998	ブレンド	早	有	白	やや弱	中
18 ネバリコシ	—	東北211号	関東107号	白火	1998	めん用	極早	有	白	弱	強
19 ハルイブキ	農林152号	東北206号	関東107号	チホクコムギ	2000	パン用	やや早	有	白	中	強
20 ゆきちから	農林153号	東北205号	Stozher	東北195号	2001	パン用	中	有	白	中	強
21 もち姫	農林157号	東北214号	東北141号	さび系23号	2002	パン用	やや早	無	白	強	強
22 銀河のちから	農林糯166号	東北糯217号	はつもち	(もち盛系C-G1517 ×刈りキ)F1	2006	菓子・ ブレンド用	やや早	有	白	やや弱	やや強
23 ゆきはるか	—	東北223号	東北209号	ハルイブキ	2014	パン用・め ん用	やや早	有	白	中	中
24 こしちから	—	東北224号	キヌヒメ	きぬあずま	2014	菓子用	やや早	有	白	中	やや強
25 夏黄金	平26小麦農林177号	東北225号	東北209号	ハルイブキ	2018	パン用・め ん用	やや早	有	白	中	中
26 やわら姫	—	東北229号	関東123号/東北214号// 関東123号/東北209号	もち盛系C-3170a	—	パン用	やや早	有	白	中	中
27 ナンブキラリ	—	東北236号	盛系D-B004*5//盛 系D-B004*6//盛	盛系D-B004*6//盛 系D-B004/HA-2003	—	パン用	やや早	有	白	強	やや強
28 にしのやわら	—	東北232号	盛系C-130b-5-5// 東北214号/東北207号 /3/盛系C-B3423	盛系C-B3423	—	めん用	中	有	白	やや弱	やや強
29 みなみのやわら	—	西海201号	WxBCTF2-48	SSIIBC9F2-242	—	めん用	早	有	白	やや弱	やや弱
30	—	中国171号	(シバノカ利*7/モ チ春のあげぼ の)F3	(シバノカ利*7/和系 RB3667)F3	—	パン用	やや早	有	白	やや弱	やや弱

大豆

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	成熟期	花色	葉 形	病虫害抵抗性	
			母	父					センチュウ	SMV
1	農林 12 号	た系 16 号	白毛 9 号	た系 6 号	1956	早の晩	紫	円	弱	AB
2	農林 18 号	東北 1 号	大白 1 号	奥羽 13 号	1959	中の晩	紫	円	弱	AB
3	農林 25 号	東北 6 号		下田 不知の純系分離	1961	早の晩	紫	円	弱	AB
4	農林 38 号	東北 16 号	白蔬太	本育 65 号	1965	中の晩	紫	円	強	(A)(B)
5	農林 42 号	東北 27 号		ネマシラズに γ 線照射	1966	中の早	紫	円	強	AB
6	農林 45 号	東北 13 号	農林 4 号	白鶴の子	1967	早の晩	白	円	弱	弱
7	農林 46 号	東北 17 号	白蔬太	本育 65 号	1967	中の晩	紫	円	弱	AB
8	農林 52 号	東北 28 号	ネマシラズ	ネマシラズに γ 線照射	1969	中の晩	紫	円	強	AB
9	農林 59 号	東北 35 号	ネマシラズ	南郡竹館	1972	中の早	紫	円	強	AB
10	農林 60 号	東北 32 号	ネマシラズ	山白玉	1973	中の早	紫	円	強	弱
11	農林 62 号	東北 40 号	ネマシラズ	北見長葉 (白臍)	1977	中の中	紫	円	強	AB
12	農林 63 号	東北 45 号	ネマシラズ	Harosoy	1977	中の中	紫	長円	強	ABCD
13	農林 76 号	東北 65 号	ネマシラズ	オクシロメ	1982	中の晩	紫	円	強	ABCD
14	農林 77 号	東北 61 号	ネマシラズ	オクシロメ	1983	中の早	紫	円	強	AB
15	農林 78 号	東北 70 号	シロセンナリ	オクシロメに γ 線照射	1983	早の晩	紫	円	強	AB
16	農林 82 号	東北 41 号	コケシジロ	刈交 36F7	1985	中の晩	紫	円	強	AB
17	農林 83 号	東北 69 号	ユウウヅル	オクシロメ	1985	中の中	紫	円	強	AB
18	農林 86 号	東北 80 号	房成	刈系 92 号	1987	中の晩	紫	円	弱	ABCD
19	農林 87 号	東北 85 号		納豆小粒に γ 線照射	1987	中の中	紫	円	弱	AB
20	農林 92 号	東北 92 号	東北 52 号	刈系 102 号	1990	中の早	紫	円	強	ABC
21	農林 100 号	東北 113 号	スズユタカ	刈交 343F7	1995	中の早	紫	円	強	AB
22	農林 101 号	東北 115 号	刈系 244 号	コスズ	1995	中の早	紫	円	弱	AB
23	農林 109 号	東北 112 号	刈交 296F6	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
24	農林 112 号	東北 118 号	刈交 296F6	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
25	農林 113 号	東北 128 号	スズユタカ	エンレイ	1999	晩の早	紫	円	強	AB
26	農林 117 号	東北 124 号		刈系 434 号に γ 線照射	2001	中の晩	紫	円	強	ABCD
27	農林 122 号	東北 126 号	東北 96 号	デワムスメ	2002	中の晩	紫	円	弱	ABCD
28	農林 123 号	東北 141 号	赤青 D165	タチユタカ	2002	中の晩	紫	円	強	ABCD
29	農林 125 号	東北 135 号	スズユタカ	九交 335F2(γ)-M4	2003	中の早	紫	円	弱	ABCD
30	農林 127 号	東北 148 号	刈交 778F5	コスズ	2004	中の中	紫	円	強	CD
31	農林 130 号	東北 151 号	刈交 508 号	刈交 0459F1	2005	晩の早	紫	卵形	弱	ABCD
32	農林 135 号	東北 146 号	刈交 778F5	コスズ	2007	やや早	紫	卵形	弱	ABCD
33	農林 139 号	東北 160 号	東北 129 号	刈交 0264MYF6	2009	晩	白	三角形	弱	ABCD
34	平25だいげ農林146号	東北 164 号	フクシロメ	刈系 623 号	2015	中の中	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
35	平25だいげ農林147号	東北 166 号	東北 143 号	刈系 675 号	2015	やや早	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
36	平25だいげ農林150号	東北 171 号	東北 156 号	ふくいぶき	2016	やや晩	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
37	黒丸くん	東北 161 号	ギンレイ	刈系 529 号	-	晩	紫	鋭先卵形	強	AB

注1. 病虫害抵抗性：SMVはダイズモザイクウイルスであり、A、B、C、Dはウイルスの系統別抵抗性を示す。

大麦 (皮麦)

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐寒雪性	精麦適性	病害抵抗性 うどんこ病
			母	父							
1 ミユキオオムギ	農林 24 号	東北皮 14 号	はがねむぎ	北陸皮 26 号	1975	精麦用	中	多	強	中	中
2 シンジュボシ	農林 36 号	東北皮 34 号	東北皮 30 号	シュンライ	2002	精麦用	やや早	やや多	やや強	大	中
3 小春二条	—	東北皮 38 号	(ニシノゴールド×ミ ユキオオムギ) F1	ミナルゴールド	2008	醸造用等	中	やや多	やや弱	やや大	中
4 もちしずか	—	東北皮糯 48 号	東北皮糯 104 号	盛系 C-177a	—	食用	やや早	やや多	中	中	中

そば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	用途	育成日数	耐倒伏性	播種期	収量性	千粒重
1 にじゆたか	—	東北 1 号	葛生在来と戸隠在来(秋)を相 互交配・集団採種し、個体別系 統から選抜	2014	めん等	やや短	強～極強	夏播き	中	大
2 夏吉	—	東北 3 号	奈川在来を母体、北海 11 号を 花粉親として人工交配し、4 倍 体隔離内から個体選抜	—	めん等	短	中	春播き	多	中

はとむぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	草 丈	収量性	粒 重	葉枯病
			母	父							
1 はとむすめ	農林 1 号	奥羽 2 号	「岡山在来」に γ 線照射突然変異	「岡山在来」に γ 線照射突然変異	1992	飲用等	中	中	多	中の軽	中
2 はとひかり	農林 2 号	奥羽 3 号	「岡山在来」に γ 線照射突然変異	「岡山在来」に γ 線照射突然変異	1995	飲用等	中の晩	中	中の多	中	中
3 はとじろう	農林 3 号	東北 2 号	「黒石在来」より純系分離		1995	飲用等	早	短	中の少	重	中
4 はとゆたか	農林 4 号	東北 3 号	東北 1 号	奥羽 4 号	2004	飲用等	中の早	短	多	中の重	やや弱
5 はときさら	—	東北 4 号	東北 1 号	オホーツク 1 号	2013	飲用等	極早	極短	中	中	やや弱

な た ね

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐倒伏性	エルシン酸の有無	菌核病抵抗性
			母	父							
1 トワダナタネ	農林44号	東北67号	東北41号 (アサヒナタネ)	MR1号	1973	搾油用	中の晩	多	やや弱	有	やや弱
2 カミキタナタネ	農林45号	東北77号	東北67号 (アサヒナタネ)	ミホナタネ	1986	搾油用	中の晩	やや多	強	有	強
3 アサカノナタネ	農林46号	東北82号	チサヤナタネ	Z.E.N	1990	搾油用	中の早	やや多	やや弱	無	弱
4 キザキノナタネ	農林47号	東北84号	東北72号	Rapora	1990	搾油用	中の晩	多	強	無	強
5 キラリボシ	農林48号	東北90号	盛系188	KARAT	2002	搾油用	中	多	やや強	無	やや強
6 ななしきぶ	農林49号	東北91号	盛脂148	オオミナタネ	2002	搾油用	中	多	強	無	やや強
7 菜々みどり	—	東北89号	キザキノナタネ	カミキタナタネ	2004	搾油・野菜用	中の晩	多	強	無	強
8 キタノキラメキ	—	東北97号	キザキノナタネ	0nyx	2014	搾油用	晩	多	強	無	やや強
9 ななはるか	平25ななはるか農林50号	東北96号	チサヤナタネ	盛脂148	2016	搾油用	中の早	中	やや強	無	中
10 きらきら銀河	—	東北99号	CASCADE	キラリボシ	2018	食用油用	中の早	多	強	無	弱

な ば な

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	表皮のロウ質	根こぶ病抵抗性
			母	父							
1 はるの輝	農林1号	盛系234号	トワダナタネの突然変異		1994	野菜用	晩	中	極良	無	無

トマト

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	熟期	草姿	果実の特性		
			母	父					形	大きさ	色
1 みのり	農林3号	東北4号	Pritchard	Victor	1957	加工用	早	心止り	扁球	大	赤
2 KGM051	—	KC02-115	とまと中間母 本農10号	PK341	2008	生食用	やや晩	普通	腰高球	やや大	濃赤
3 すずこま	—	盛平1号	A-33-129-91	Piline	2013	加工用	極早	心止り	腰高球	やや中	赤

はくさい

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	品種	熟期	輸 送 貯蔵性	球の特性		
			母	父					形	大きさ	かぶり
1 あさひ	農林1号	東北4号	千葉1号	花心	1957	長	早	低	丸～砲弾型	中	やや浅
2 みちのく	農林2号	東北5号	白色包頭連	松島2号	1957	長	中の早	良	砲弾型	やや大	やや浅

ねぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	品質特性			形態的特性		
			母	父			葉身部	辛味	草丈	葉身分枝の縮まり	分げつ発生頻度	
1 TAM-1	—	TAM-1	元蔵×他4種		2014	F1播種用	軟	少	やや短	優	低	
2 TAM-3	—	TAM-1	元蔵×他4種		2018	F1播種用	軟	少	やや短	優	低	

いちご

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	果実硬度	病 害 抵抗性
			母	父							
1 なつあかり	農林 21 号	盛岡 29 号	サマーベリー	北の輝	2007	ケーキ用	四季成り性	中	四季成り性 品種の中で良 ～極良	やや軟	うどんこ病 に中
2 デコロージュ	農林 22 号	盛岡 31 号	Pajaro	盛岡 26 号	2007	ケーキ用	四季成り性	中	四季成り性 品種の中でや や良	硬	うどんこ病 に強
3 豊雪姫	—	盛岡 35 号	盛岡 32 号	カレンベリー	2014	生食用・ ケーキ用	一季成り性	多	中～やや良	中	炭疽病に強
4 そよかの	—	盛岡 36 号	豊雪姫	さちのか	—	生食用・ ケーキ用	一季成り性	多	中～やや良	中	うどんこ病 に強

し ば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	
					病害抵抗性	
1 チバラフロン	—	愛媛 41-5 号	しば在来 42 系統よりラージパッチ耐病性、初冬季緑色保持性選抜試験を経て 1 系統を選抜	2003	冬枯れの開始が遅く、初冬季の緑度保持力が高い	ラージパッチに対する抵抗性

注 1. 「チバラフロン」は、千葉県との共同育成品種である。

しろくろーバ

品 種 名	登録番号	旧系統名	合 成 母 材 名	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 キタオオハ	農林1号	東北1号	Oregon Lasino, Italy Ladino, 東北農試在来より選抜した6栄養系により合成	1971	国産初の大葉型品種で採草用、瘦地での生産性良好	モザイク病、汚斑病に抵抗性
2 マキバシロ	農林2号	東北9号	Tregor (F), Pertina (NL), 5849 (Aus)より選抜した8栄養系により合成	1980	中葉型でやや大葡萄系の伸長が大放牧採草適性良好	褐斑病、そばかす病等に抵抗性
3 ミネオオハ	農林4号	東北15号	海外育成50品種より選抜した32栄養系により合成 外国産6品種を母体に合成	1989	大葉型で永続性、オーチャードグラスとの混播性、窒素耐性に優れる	
4 ノースホワイト	農林5号	東北21号	USDAより導入したPI223824 (AFG)、228367 (IR)、234264 (IRQ)、245124 (USA)、250996 (YUG)、253322 (YUG)、287989 (SPN)、300157 (SAF)より選抜した50栄養系により合成	1994	国産初の小葉型で放牧専用、チモシーとの混播、適性、永続性に優れる	菌核病抵抗性

桑

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	系統型	先枯れ	収葉量	密植適合性	病害抵抗性 (縮葉細菌病性)
			母	父						
1 みつしげり	桑農林10号	東61-03	No. 71	改良単返	1988	ヤマグワ系	少ない	良質多収	良好	やや強

フェストロリウム

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 東北1号	—	東北1号	フェストロリウム既存3品種1299個体から集団及び母系選抜法によって選抜した13系統の多交配による	2012	草丈が高く、採草に向く多収系統。耐湿性に優れ、寒冷地の転作田等での栽培にも適する	冠さび病に抵抗性
2 イカロス	—	盛系1号	フェストロリウム既存品種1651個体から集団選抜法によって選抜した7系統の多交配による	2014	茎数が多く、寒冷地の草地や畑での採草または放牧利用に適する	冠さび病、雪腐病（褐色小粒菌核）に抵抗性

イタリアングラス亜種

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 クワトロ-TK5	—	東北5号	四倍体早生耐雪性系統から集団および母系選抜法により選抜した8系統の多交配による	—	早生で耐雪性に優れ、東北地域での二毛作体系での飼料生産が可能	雪腐病に抵抗性

パレニアルライグラス

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 夏ごしぱレ	—	東北7号PR	育成四倍体品種・系統の構成栄養系を中核とする晩生の優良20栄養系を育種母材として、選抜基礎集団を育成し、収量、越冬性を中心とした選抜による	—	越冬性と収量性優れ、主に放牧用として本州以南の寒冷地で利用可能	病害抵抗性

3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数

作物名	平成30年度		平成30年度末 保存数	平成30年度		備考
	受け入れ	移管		再増殖	配布	
水 稲	0	0	687	100	0	
小 麦	0	0	40	0	0	
大 麦	0	0	8	0	0	
大 豆	7	4	420	96	0	
ナ タ ネ	0	0	126	0	0	
ハ ト ム ギ	0	0	12	0	0	
ア ワ	0	0	0	0	0	
ル タ バ ガ	0	0	0	0	0	
ツナケ(ナタネ類)	0	0	11	0	0	
カ ブ	0	0	0	0	0	
キ ビ	0	0	0	0	0	
ジ ュ ズ ダ マ	0	0	0	0	0	
ソ バ	0	0	0	0	0	
ホ ウ レ ン ソ ウ	0	0	601	10	0	
ト マ ト	0	0	1,847	0	0	
タ マ ネ ギ	0	0	84	5	0	
イ チ ゴ	1	0	399	39	6	
イタリアンライグラス	0	0	14	0	0	
ペレニアルライグラス	0	0	36	0	0	

作物名	平成 30 年度		平成 30 年度末 保 存 数	平成 30 年度		備 考
	受け入れ	移 管		再増殖	配 布	
ハイブリッドライグラス	0	0	37	0	0	
オーチャードグラス	0	0	14	0	0	
リードカナリーグラス(くさよし)	0	0	61	0	0	
ウシノケグサ類	0	0	6	0	0	
しば	0	0	66	0	0	
ススキ属	0	0	84	0	0	
合 計	8	4	4,553	250	6	

4. 広報活動

1) 視察者、見学者の受入（一般公開は除く）

区分	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関 (大学等)	民間	海外	その他
件数	28	6	7	0	6	22	27	2	1
人数	313	258	221	0	32	296	80	18	2

2) 所刊行物

平成30年度に出版した刊行物（会議資料は除く）は、次のとおりである。なお、研究報告等に収録された論文題名は「1. 研究成果の発表」に掲載してある。

(1) 研究報告、ニュース、年報等

誌名（巻号）	印刷数
東北農業研究センター研究報告No. 121	インターネット提供
平成29年度東北農業研究センター年報	インターネット提供
東北農業研究センターたよりNo. 55	2,700
東北農業研究センターたよりNo. 56・57	2,200

(2) 広報誌（要覧、パンフレット等）

誌名	印刷数
東北農業研究センター要覧	1,000
東北農業研究センター要覧英文版	インターネット提供
農業放射線研究センター研究案内	500
平成30年度東北地域マッチングフォーラム講演要旨集	300
品種紹介リーフレット「クワトロ-TK5」	3,000
品種紹介リーフレット「ちほみのり」	5,000
品種紹介リーフレット「萌えみのり」	5,000
品種紹介リーフレット「すずこま」増刷	5,000
品種紹介リーフレット フェストロリウム「東北1号」（改訂版2.0）	1,200
リーフレット「フレコンラップ法活用」	2,000

3) マニュアル、データベース等の作成・提供

種 類 等	名 称	内 容	提供方法	
新規	マニュアル	除染後水田のヨシ防除対策	除染後農地の雑草対策に利用可能な管理技術の紹介。	冊子体
新規	マニュアル	被覆作物による農地保全管理技術マニュアル	省力的かつ低コストで土壌浸食を抑制する方法として被覆作物（カバークロップ）による農地保全管理の技術開発及び管理方法の紹介。	冊子体
新規	マニュアル	選べる直まき	アンケートに答えることにより、6種類の直まき技術から適した技術を選択できる方法を紹介。	冊子体
新規	マニュアル	フレコンラップ法活用マニュアル	フレコンラップの脱気・密封作業を機械化することで、密封作業を迅速・省力化する方法を紹介。	冊子体
新規	マニュアル	チゼル有芯部分耕狭畦栽培うね内部分施肥播種栽培	技術の特長や播種機及び技術を用いた栽培方法等を解説。	冊子体
更新	マニュアル	水稲無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培マニュアル (ver. 4)	技術の特長や播種機及び技術を用いた栽培方法等を解説。	冊子体
更新	マニュアル	トラクタで利用できる浅層暗渠施工器	浅層暗渠施工器による暗渠施工方法と暗渠施工器制作のポイントを解説。	冊子体
更新	その他	原発事故に伴う畦畔草の放射性セシウム汚染の実態と利用にあたっての留意点（追補版）	2016年から福島県内で行った、畦畔草の放射性セシウム汚染の再調査結果の要点と留意点。	インターネット
更新	マニュアル	乾田直播栽培技術マニュアル (ver. 3.1) 増刷	本技術の特徴や関連する対策技術、導入効果等を解説。	冊子体

4) 催事（一般公開・イベント・体験学習等）及び協力

(1) 一般公開

開催日	開催地	名 称	参加者数
H30. 5. 12 ～ 5. 13	東北農研本所	東北農業研究センター 「菜の花公開 2018」	-
H30. 8. 18	東北農研大仙研究拠点	大仙研究拠点一般公開 「東北の水稲・大豆研究の最前線」	-
H30. 9. 8	東北農研本所	東北農研公開デー 「体験！ 発見！ 東北農研!!」	-
H30. 11. 10	東北農研福島研究拠点	福島拠点一般公開	-

(2) イベント・体験学習等

開催日	開催地	主催者（共催）	名 称	内 容	参加者数	
30.5.31～ 11.2の期間 で6日間	東北農業研究 センター（本 所）（岩手県 盛岡市）	盛岡市立北厨 川小学校	共催	農作業体験学習	農作業等の体験を通 じて食や農業への関 心を高めること等を ねらいとして、3年 生児童を対象に実施	延べ 252
30.6.2	東北農業研究 センター（本 所）北辰興農 閣（岩手県盛 岡市）	東北農業研究 センター本所	主催	第19回農研機構 東北農研市民講 座	地域住民を対象とし て農業研究開発の取 り組みを分かりやす く紹介するセミナー	15
30.7.3	東北農業研究 センター（本 所）（岩手県 盛岡市）	盛岡市立北陵 中学校	共催	職場体験学習	職場体験やインタビ ューを通して、働く ことの意義や目的を 学習し、将来につい て考えることを目的 として実施	9
30.7.5～7.6	東北農業研究 センター（大 仙研究拠点） （秋田県大仙 市）	東北農業研究 センター大仙 研究拠点	主催	田んぼの科学教 室	水田を中心とした作 物（稲及び大豆）の 育成について講義と 実習を実施	141
30.7.7	東北農業研究 センター（本 所）北辰興農 閣（岩手県盛 岡市）	東北農業研究 センター本所	主催	第20回農研機構 東北農研市民講 座	地域住民を対象とし て農業研究開発の取 り組みを分かりやす く紹介するセミナー	37
30.7.17～ 7.19	東京国際展示 場（東京都江 東区）	第7回ベーカ リー&カフェ 2018 運 営 事 務局	協力	第7回ベーカリー &カフェジャパン 2018	ベーカリー素材・洋 菓子素材関連企業、 厨房設備機器・資材 関連企業とこだわり を持った職人やオー ナー、製パンメーカ ー、製菓メーカー関 係者とのビジネスマ ッチングの場	28,181
30.7.31	コラッセふく しま（福島県 福島市）	東北農業試験 研究協議会	共催	第61回東北農業 試験研究発表会	東北地域内の農業関 係試験研究機関にお ける各分野の最新の 研究成果を発表し、 農業関係試験研究の 発展、東北農業の振 興に寄与する目的で 開催	193

開催日	開催地	主催者（共催）		名 称	内 容	参加者数
30. 8. 4	東北農業研究センター（本所）北辰興農閣（岩手県盛岡市）	東北農業研究センター本所	主催	第 21 回農研機構東北農研市民講座	地域住民を対象として農業研究開発の取り組みを分かりやすく紹介するセミナー	31
30. 8. 23 ～ 8. 25	岩手産業文化センター（岩手県滝沢市）	(社)岩手県農業機械協会	協力	第 73 回岩手県全国農業機械実演展示会	全国農業機械メーカーの最新農業機械を一堂に展示実演し、安全安心な農畜産物の低コスト生産技術・知識を広く情報発信し、農業経営の向上安定を期するとともに、岩手県農業の持続的発展に寄与することを目的に開催	35,000
30. 9. 14 ～ 9. 15	東北農業研究センター（岩手県盛岡市）	東北農業研究センター	主催	水田農業セミナー「東北地域の水田輪作技術の展開方向」	海外と東北地方の水田輪作技術の比較から、新たに導入可能な技術や、それらを活かした水田輪作技術を探り、普及に向けた取り組みについて議論した	106
30. 10. 3	東北農業研究センター（本所）C 棟セミナー室（岩手県盛岡市）	東北農業研究センター本所	主催	平成 30 年度第 1 回東北農研セミナー	東北研職員を対象にした、『ダイズの耐倒伏性に関する研究紹介と日本とカナダとの育種法の比較』に関するセミナー	25
30. 10. 5	東北農業研究センター（本所）H 棟 2F 大会議室（岩手県盛岡市）	東北農業研究センター本所	主催	平成 30 年度第 2 回東北農研セミナー	東北研職員を対象にした、『放射性物質対策研究の歩みを知る～東京電力第一原発事故直後から現在まで～』に関するセミナー	32
30. 10. 6	東北農業研究センター（本所）北辰興農閣（岩手県盛岡市）	東北農業研究センター本所	主催	第 22 回農研機構東北農研市民講座	地域住民を対象として農業研究開発の取り組みを分かりやすく紹介するセミナー	20

開催日	開催地	主催者（共催）	名称	内容	参加者数	
30. 10. 20 ～ 10. 21	大曲ヒカリエ ・花火通り商 店街（秋田県 大仙市）	大仙市	協力	平成 30 年度大仙 市秋の稔りフェア	秋の稔りへの感謝と 市民に地域農業への 理解を求めながら、 商業者の出展や各種 団体の展示等により 産業と文化にふれあ うことを目的として 開催	47,700
30. 11. 10	東北農業研究 センター（本 所）北辰興農 閣（岩手県盛 岡市）	東北農業研究 センター本所	主催	第 23 回農研機構 東北農研市民講座	地域住民を対象とし て農業研究開発の取 り組みを分かりやす く紹介するセミナー	21
30. 11. 12	東北農業研究 センター（福 島研究拠点） 共同実験等 2F 会議室（福 島県福島市）	東北農業研究 センター本所	主催	平成 30 年度第 3 回東北農研セミ ナー	東北研職員を対象に した、『アフリカ農 業の話題およびスト ライガ対策について』 に関するセミナー	26
30. 12. 1	東北農業研究 センター（本 所）北辰興農 閣（岩手県盛 岡市）	東北農業研究 センター本所	主催	第 24 回農研機構 東北農研市民講座	地域住民を対象とし て農業研究開発の取 り組みを分かりやす く紹介するセミナー	16
30. 12. 17	TKP ガーデン シティ仙台勾 当台	東北農業研究 センター本所	主催	「スマート農業」 に係る技術・体 系提案会（東北 地域）	「スマート農業加速 化実証プロジェクト」 の応募に向けて地域 で応募を検討してい るグループ、研究機 関、民間企業、大学 および生産者等の相 互の情報交換により、 応募課題の質の向上 を図る	86
31. 1. 11	TKP ガーデン シティ仙台	農林水産省東 北農政局	協力	「スマート農業技 術の開発・実証プ ロジェクト」及び 「スマート農業加 速化実証プロジェ クト」の公募説明 会	「スマート農業技術 の開発・実証プロジェ クト」及び「スマー ト農業加速化実証プ ロジェクト」の公募 に関わる説明会	135
31. 1. 28	いわて県民情 報交流センタ ー	東北地域農林 水産・食品ハ イテク研究会	協力	東北ハイテク研 経営者セミナー	国産酪農製品の付加 価値を高め、世界か ら注目される製品作 りの参考にするセミ ナー	51

開催日	開催地	主催者（共催）		名 称	内 容	参加者数
31. 2. 28	八幡平市立松尾コミュニティセンター	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	協力	東北ハイテク研 経営者セミナー	研究機関が育成した品種や技術を紹介し地域農業の振興について意見交換を行う	51

◎蔵書数

平成 30 年度末の蔵書数は以下のとおりである。

	単行書(冊)			資料(冊)			単行書・資料合計(冊)	
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書計	洋書計
本所	23,103	3,880	26,983	30,780	1,217	31,997	53,883	5,097
大仙研究拠点 (刈和野)	3,277	6,137	9,414	6,686	211	6,897	9,963	6,348
福島研究拠点	1,050	170	1,220	1,022	14	1,036	2,072	184
合計	4,215	749	4,964	11,488	227	11,715	15,703	976
合計	31,645	10,936	42,581	49,976	1,669	51,645	81,621	12,605
		逐次刊行物(誌)						
	合計	和書	洋書	計				
本所	58,980	5,272	1,421	6,693				
大仙研究拠点 (刈和野)	16,311	793	166	959				
福島研究拠点	2,256	27	2	29				
合計	16,679	4,073	1,422	5,495				
合計	94,226	10,165	3,011	13,176				

◎サービス

平成 30 年度に企画チーム図書室(厨川)で行ったサービスは以下のとおりである。

	貸出 冊数	コンテンツ・サービス		文献複写サービス					
		誌数	延べサービス 研究室数	外部への複写依頼件数			外部からの複写依頼件数		
				農水関係 機関	外部機関	合計	農水関係 機関	外部機関	合計
本所	37	4	27	67	15	82	42	75	117

Ⅲ 連携・研修・技術協力

Ⅲ 連携・研修・技術協力

1. 産学官の連携・協力

1) 産学官連携支援活動

地域農業研究センターのハブ機能を強化し、現場ニーズに適切に対応した地域農業研究の推進と、開発技術の着実な普及を促すため、平成28年4月1日に「産学連携室」「農業技術コミュニケーター」「産学連携コーディネーター」が設置された。また、生産者や実需者、普及関係者からなるアドバイザリーボードの設置により、現場ニーズの収集と産学連携を推進する体制が整えられた。さらに平成30年12月1日からは、食農ビジネスセンター所属のビジネスコーディネーターが本所（盛岡）に駐在となった。こうした体制のもとで、①現場ニーズを把握しその解決に必要な研究開発のための課題設定、②それを実施するための関係機関の連携や研究資源の確保を支援する活動、および③新品種や新技術等の研究成果を農業者や農業団体、企業等の実需者にPRするとともにその普及・定着を図る活動、④東北地域民間企業とのビジネスマッチング活動の4つを主な業務として活動している。

(1) ニーズ収集活動

アドバイザリーボードは、「水田作」「園芸」「畜産」「果樹」の分野ごとに設置し、現状のニーズだけでなく地域の営農ビジョンに関する意見交換も行うなど、中長期的な視点から地域農業に関する意見交換を行う目的で開催する。平成30年度は、東北地域各県の普及関係者6名を含め、継続、新規を含め2年の任期で28名に委員に就任いただいた。平成30年度のアドバイザリーボードは、第1回（8月、盛岡市）は「園芸」分野、第2回（10月、盛岡市）は「畜産」分野、第3回（2月、盛岡市）は「水田作」分野を対象に開催し、64のニーズを収集した。

委員から寄せられたニーズに対して、研究成果

や研究の実施状況を情報提供するなどの回答をするとともに、会議後、重要度や緊急度等から課題化するなど今後の対応を決定した。このほか、農業技術コミュニケーターを中心に、企業やJA、普及関係機関から試験研究に対する様々な現場ニーズの収集に努めた。

(2) テーブルリサーチ、ミニテーブルリサーチ
イノベーション創出強化研究推進事業などの競争的資金を活用した産学官連携によるプロジェクト研究について、東北農研が中核機関として企画し提案することを目指し開催している。「テーブルリサーチ」では、構想における技術開発の必要性や研究計画の妥当性について、関係する研究者、有識者を広く集めて素案段階で検討し、「ミニテーブルリサーチ」では、おおむね固まった素案をもとに研究者グループが具体的な研究計画や申請書案を検討する。

平成30年度は、平成30年11月30日に「放射性セシウム低吸収能を有する遺伝資源の有効活用」として、外部競争的資金の応募に向けたテーブルリサーチを開催した。

(3) 出前技術指導

平成20年度に発足した出前技術指導制度は、東北農研が研究開発した栽培技術、品種、機械等について、研究担当者が農業者、農業団体、企業等の要請に応じて現地に出向き指導するものである。平成30年度に実施した技術指導の内容は、「「萌えみのり」「ゆみあずさ」等業務用米の栽培技術について」、「緑肥作物と大豆狭畦密植栽培を組み合わせた省力多収技術」「フレコンラップ法によるトウモロコシ子実サイレージ調製技術」など水田作、畜産関連が中心であり、計21回実施した。

平成30年度には以上のほか、平成28年度に形成した「寒地・寒冷地水田農業研究ネットワーク」の活動として、平成30年9月14日には第3回ネットワーク会議として「水田農業セミナー」を盛岡

市で開催し、TV 会議システムにより北海道農業研究センター、中央農業研究センター北陸拠点の 3 会場及びアメリカアーカンソー州からの話題提供者を中継し、海外と東北地方の水田輪作技術に関する情報交換を行った。

2) 行政との連携・協力

(1) 東北地域研究・普及連絡会議

本会議は平成 19 年度に創設された。平成 30 年度は平成 30 年 10 月 25 日に仙台合同庁舎で、東北農業研究センター主催「東北農業試験研究推進会議（戦略会議）」と合同で開催し、以下 6 つの議事、①スマート農業技術の現場への実装について（スマート農業加速化実証プロジェクト、生産局技術普及課予算および農林水産技術会議事務局関連予算の概要）、②戦略目標（重点検討事項）の検討、③「国の施策で対応すべき技術的課題」候補の選定、④「最新農業技術・品種 2019」候補の選定、⑤研究成果の普及・実用化に係る検討、⑥東北農業研究センターと各県普及組織等との連携強化、について説明及び意見交換が行われた。③では各機関より提出された 58 課題、④では、提案された 8 課題のうち 6 課題が採択され、残り 1 課題については再検討を条件に採択、もう 1 課題については採択を 1 年後に見送ることとなった。農業新技術 200X の普及状況について各県から説明があり、普及への取り組みや普及状況の調査展開方法等について、意見交換があった。

(2) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会対応

役員（所長）、企画委員（企画部長）、運営協力（産学連携室長）として活動に参画した。平成 30 年 6 月 15 日に仙台市内で開催された企画委員会では平成 29 年度活動報告と平成 30 年度活動計画が審議された。同年 6 月 28 日には TKP ガーデンシティ仙台で開催された役員会・総会において、平成 30 年度事業計画と予算案が承認された。

東北地域における農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化を推進する

ため、平成 30 年 12 月 18 日に東北農業研究センター（盛岡市）、平成 31 年 1 月 23 日に TKP ガーデンシティ仙台（仙台市）において「競争的資金の応募に向けた個別相談会」を開催し、中核型コーディネーター（東北地域農林水産・食品ハイテク研究会事務局常駐）、専門型コーディネーター（専門分野に対応する国立大学法人や民間団体等の研究者）等が、応募する共同研究課題について課題提案者に対し指導・助言を行った。このほか、年間 11 回開催された中核型コーディネーターとの連絡会議に出席し、産学連携に関する情報交換を実施した。また、東北地域の農林水産・食品産業関係者が、異なる分野の発想や先端技術を活用して農業ビジネスに取り組むためのセミナーで話題提供するなど、運営に協力した。

3) 大学との連携・協力

連携大学院

農研機構は、産学官連携、協力の促進強化の中で連携大学院制度等を活用し、大学との一層の連携強化を図ることとしている。

東北農研では、平成 18 年度より岩手大学院連合農学研究科と「連携大学院協定」を締結し、大学院生への研究指導を行っている。平成 30 年度は、14 名の研究者が客員教授及び客員准教授の発令を受け、大学院教育に参加した。

4) 共同研究・協定研究等の実施状況

分類	共同研究	協定研究	備考
	件数	件数	
国			
大 学	8	11	
地方公共団体	9	7	
民 間	12	12	
他 独 法	1	2	
そ の 他	6	6	
合 計	36	38	

5) 依頼分析等の実施状況

依頼分析・同定の件名	分析点数	依頼を受けた日	延べ日数
イネの育苗期病害の鑑定	1	H30. 5. 8	1
イネの育苗期病害の鑑定	1	H30. 5. 18	1
大麦の品質分析	12	H30. 8. 30	6
玄米の放射性セシウム濃度測定	23	H30. 9. 19	3
玄米の放射性セシウム濃度測定	1	H30. 10. 3	3
玄米の放射性セシウム濃度測定	1	H30. 10. 11	3
小麦の品質分析	13	H30. 8. 30	26
水稻の IP 分析	8	H30. 7. 4	3
水稻の IP 分析	16	H30. 8. 2	3
水稻の IP 分析	14	H30. 9. 19	4
水稻の IP 分析	2	H30. 10. 9	4

6) 開放型研究施設の利用状況

1. 共同利用した施設一覧

共同利用した施設・機械等
温度勾配実験施設

2. 機構外部からの利用状況

利用者の類型	利用実績(単位:延べ人数)
	温度勾配実験施設
他独法職員	
大学等	30
公立試験研究機関	
民間	
その他	
合計	30

3. 機構外部からの利用目的

利用目的の類型	利用実績(単位:延べ人数)
	温度勾配実験施設
共同研究	
協定研究	30
依頼研究員	
研修・講習等	
その他	
合計	30

2. 研究者の受入れ等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

3) 研修・講習等

依頼研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
宮城県古川農業試験場土壌肥料部	1	大豆の多収阻害要因の一つである土壌水分に着目し、土壌水分が大豆の収量に及ぼす影響を明らかにするために、その解析技術の習得を図る。	水田作研究領域	H30. 9. 20 ~ H30. 12. 21

技術講習生

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
岩手大学大学院総合科学研究科	2	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31
岩手大学農学部	4	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31
岩手大学農学部	1	筋肉中の脂肪酸組成の分析	畜産飼料作研究領域	H30. 5. 1 ~ H31. 3. 31
青森県産業技術センター畜産研究所和牛改良技術部	1	脂肪酸分析手法ならびに解析・考察方法	畜産飼料作研究領域	H30. 5. 14 ~ H30. 5. 18
青森県産業技術センター畜産研究所和牛改良技術部	1	脂肪酸分析手法ならびに解析・考察方法	畜産飼料作研究領域	H30. 6. 25 ~ H31. 3. 31
岩手大学大学院連合農学研究科	1	シンク特性が異なる作物種の高温・高CO ₂ 濃度に対する生理・形態反応に関する研究技術講習	生産環境研究領域	H30. 6. 29 ~ H30. 8. 6
弘前大学農学生命科学部	1	シンク特性が異なる作物種の高温・高CO ₂ 濃度に対する生理・形態反応に関する研究技術講習	生産環境研究領域	H30. 6. 29 ~ H30. 8. 6

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
山形県庄内総合支庁産業経済部 酒田農業技術普及課	1	農業経営分析及び指導活用方法、現地調査の方法、マーケティングの手法及び活用等	生産基盤研究領域	H30. 7. 1 ~ H30. 10. 31
岩手大学農学部	1	乾田直播水稻栽培の生育及び収量に関する調査手法	生産環境研究領域	H30. 7. 17 ~ H30. 10. 31
岩手大学総合科学研究科	1	作物の生育調査法、温室効果ガス測定法	生産環境研究領域	H30. 7. 30 ~ H30. 9. 30
青森県産業技術センター畜産研究所和牛改良技術部	1	粗脂肪含量分析手法	畜産飼料作研究領域	H30. 7. 31 ~ H31. 3. 31
秋田県立大学大学院生物資源科学研究科	1	作物病害防除及び病原菌の特性解明に関する研究	生産環境研究領域	H30. 8. 13 ~ H30. 8. 21
岩手大学大学院連合農学研究科	1	液体クロマトグラフィーによるサイレージの有機酸の分析、微量拡散法によるサイレージのアンモニア態窒素の分析	畜産飼料作研究領域	H30. 8. 21 ~ H30. 8. 23
栃木県畜産酪農研究センター企画情報課	1	直腸検査、超音波画像診断装置による繁殖検診技術及びそれらに関連する技術及び知識の習得	畜産飼料作研究領域	H30. 8. 27 ~ H30. 9. 11
岩手大学農学部	1	家畜の行動分析とルーメン液の分析	畜産飼料作研究領域	H30. 9. 3 ~ H30. 9. 7
岩手大学農学部	1	寒冷地の露地野菜の生育特性・作型開発に関する研究	畑作園芸研究領域	H30. 9. 3 ~ H30. 9. 13
東北大学農学部	1	イチゴ、ハクサイ、タマネギの育種	畑作園芸研究領域	H30. 9. 18 ~ H30. 9. 20
青森県産業技術センター畜産研究所	1	ナタネ油粕に含まれるグルコシノレート類の分析	畑作園芸研究領域	H30. 11. 8 ~ H30. 11. 9
岩手県農業研究センター畜産研究所	5	飼料成分分析（アミノ酸等）、畜肉中呈味成分や官能検査に関する内容、畜肉中遊離アミノ酸組成、せん断力価、クッキングロス等	畜産飼料作研究領域	H30. 11. 19 ~ H31. 3. 29
山形県農業総合研究センター養豚試験場	1	食肉の剪断力価の測定法技術取得	畜産飼料作研究領域	H30. 11. 22 ~ H30. 11. 22
東京農業大学応用生物科学部	1	土壌粘土鉱物がセシウム・カリウムの挙動におよぼす影響の評価	農業放射線研究センター	H30. 11. 26 ~ H30. 12. 7

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
岩手大学農学部	4	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H30. 12. 1 ~ H31. 3. 31
弘前大学農学生命科学研究科	1	斑点米カメムシの発生要因の解明と防除技術に関する研究	生産環境研究領域	H30. 12. 3 ~ H30. 12. 5
弘前大学農学生命科学研究科	1	作物病害防除及び病原菌の特性解明に関する研究	生産環境研究領域	H30. 12. 3 ~ H30. 12. 7
筑波大学大学院生命環境科学研究科	1	土壌粘土鉱物がセシウム・カリウムの挙動におよぼす影響の評価	農業放射線研究センター	H30. 12. 10 ~ H30. 12. 14
弘前大学農学生命科学研究科	1	斑点米カメムシの発生要因の解明と防除技術に関する研究	生産環境研究領域	H30. 12. 12 ~ H30. 12. 13
山形県農業総合研究センター養豚試験場	2	食肉の剪断力価の測定法技術取得	畜産飼料作研究領域	H30. 12. 21 ~ H30. 12. 21

国際協力事業団研修員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

国際農林水産業研究センター招へい

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

4) 外部研究者

招へい研究員

所 属	人 数	目 的	受入研究領域名	期 間
中国江苏省・Nanjing Agricultural University (南京農業大学)	1	Simulating the Effects of Post-Anthesis Heat Stress on Rice Growth and Yield Formation (イネの生育・収量構成要素に及ぼす登熟期の高温ストレス影響のモデル化)	生産環境研究領域	H28. 10. 20 ~ H30. 10. 19
中国江苏省・Nanjing Agricultural University (南京農業大学)	1	Effect of elevated atmospheric CO ₂ concentration and air temperature on crop production and nutrient dynamic analysis, evaluation and mode (大気CO ₂ 濃度と温度の上昇が作物生産および養分動態に及ぼす影響)	生産環境研究領域	H29. 8. 21 ~ H30. 8. 21

所 属	人 数	目 的	受入研究領域名	期 間
IAEA Soil and Water Management & Crop Nutrition Laboratory Joint FAO/ IAEA Division of Nuclear Techniques in Food and Agriculture	1	Prediction of radiocesium accumulation in edible parts of crops (作物の可食部への放射 性セシウム集積の予測)	農業放射線研究セン ター	H30. 9. 9 ~ H30. 10. 31
NTCインターナ ショナル株式会 社	1	再生土壌および覆土材土 壌で栽培した作物の生育 と放射性セシウムの移行 性の解析	農業放射線研究セン ター	H31. 1. 4 ~ R 2. 3. 31

日本学術振興会事業外国人特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

日本学術振興会事業特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

5) その他

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

3. 研究者の派遣等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	留 学 先	期 間
	なし			

長期在外研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
水田作研究領域	1	耐倒伏性を兼ね備えたダイズ無限伸育型品種の選定及び関連形質の遺伝解析	カナダ農務農産食品省オタワ研究開発センター（カナダオンタリオ州）	H29. 4. 12～H30. 4. 11
生産環境研究領域	1	作物の群落生産機能の環境応答のハイスループット評価手法の開発	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校植物学部門（アメリカ合衆国イリノイ州アーバナ市）	H30. 4. 16～H31. 3. 13

3) その他

海外派遣

所 属	人 数	目 的	派 遣 先	期 間
	なし			

4. 技術協力・指導

1) 研修会等への講師派遣

平成 30 年度に技術指導等の講師派遣依頼を受けた内容は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域 水田作グループ	（出前技術指導） 「萌えみのり」栽培研修会	H30. 4. 10	石巻市	J A いしのまき
畜産飼料作研究領域 飼料生産グループ	IFOAM世界大会・総会報告会「広がる、深まるオーガニック」	H30. 4. 19	中央区	特定非営利活動法人アイフォーム・ジャパン
生産基盤研究領域 栽培技術グループ	（出前技術指導） 2年3作水田輪作体系下における狭畦栽培の技術指導	H30. 5. 6 ～11. 20 随時	仙台市	（農）せんだいあらはま
生産基盤研究領域 栽培技術グループ	（出前技術指導） 緑肥作物と大豆狭畦密植栽培を組み合わせた省力多収技術の指導	H30. 5. 14 ～11. 20 随時	二戸市	（農）金田一営農組合
畑作園芸研究領域 ・育種グループ	NPO法人地下水・地下熱資源強化活用研究会講演会	H30. 5. 17	長野市	NPO法人地下水・地下熱資源強化活用研究会

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
生産基盤研究領域 作業技術グループ	シンポジウム「農業労働事故防止技術・仕組み開発の新たなチャレンジ」	H30. 5. 18	世田谷区	日本農業労災学会
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) 水稲品種「萌えみのり」の品種特性並びに栽培管理のポイント	H30. 6. 11	横手市	J A秋田ふるさと
水田作研究領域 水稲育種グループ	(出前技術指導) 「ゆみあずさ」の品種特性と栽培技術	H30. 6. 15	大潟村 (秋田県)	J A全農秋田県本部
農業放射線研究センター 営農再開グループ	平成30年度営農再開技術セミナー「除染後の水田転換端におけるタマネギ栽培のポイント」(現地検討会)	H30. 6. 25	南相馬市	福島県農業総合センター
水田作研究領域 大豆育種グループ	平成30年度「大豆セミナー」	H30. 6. 26	さいたま市	農林水産省関東農政局(一社)全国農業改良普及支援協会
水田作研究領域 水稲育種グループ	(出前技術指導) 「ちほみのり」の品種特性と栽培技術	H30. 6. 29	新潟市	J A全農にいがた米穀部
水田作研究領域 水稲育種グループ	(出前技術指導) 「ちほみのり」の品種特性と本年の生育状況・栄養診断・栽培管理の注意点	H30. 7. 3	秋田市	J A全農秋田県本部
生産基盤研究領域 技術評価グループ	農業研究センター職員研修会	H30. 7. 3	北上市	岩手県農業研究センター
生産環境研究領域 農業気象グループ	農業研究センター職員研修会	H30. 7. 3	北上市	岩手県農業研究センター
農業放射線研究センター長	第55回アイソトープ・放射線研究発表会「福島第1原発事故の環境放射能動態解析学」パネリスト	H30. 7. 5	文京区	(公社)日本アイソトープ協会
農業放射線研究センター長	委託調査申請「農耕地における放射性セシウムに関する研究会」	H30. 7. 11	つくば市	国立大学法人筑波大学
生産環境研究領域 土壌肥料グループ	荘内地域における養豚に関する現地調査及び生産者指導セミナー	H30. 7. 11	酒田市	山形県農業共済組合
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) 水稲品種「萌えみのり」の現地検討会による生育の現況と、今後の管理	H30. 7. 18	美里町 (宮城県)	J Aみどりの
農業放射線研究センター 営農再開グループ	平成30年県南地方有害鳥獣被害防止対策研修会	H30. 7. 19	白河市	福島県県南農林事務所

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域 水稲育種グループ	(出前技術指導) 水稲品種「ちほみのり」栽培現地検討会	H30. 7. 27	東庄町 (千葉県)	J A全農千葉県本部
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) 大豆葉面散布技術	H30. 8. 24	秋田市	J A秋田なまはげ
農業放射線研究センター 営農再開グループ	平成30年度多面的機能支払交付金県中管内研修会	H30. 9. 12	須賀川市	福島県県中農林事務所
畜産飼料作研究領域 肉用牛生産グループ	平成30年度家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の開催について	H30. 9. 18	滝沢市	岩手県農林水産部
畜産飼料作研究領域 肉用牛生産グループ	平成30年度家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会の開催について	H30. 9. 25	滝沢市	岩手県農林水産部
畑作園芸研究領域 施設野菜・育種グループ	「施設園芸新技術セミナー・機器資材展in宮城」	H30. 9. 19	大崎市	(社)日本施設園芸協会
農業放射線研究センター 畑作移行低減グループ	平成30年度農林水産省茶・薬用作物等地域特産物体制強化促進事業薬用作物産地支援栽培技術研修会 (東北会場)	H30. 10. 4 ～10. 5	盛岡市	薬用作物産地支援協議会 (社)全国農業改良普及協会
畜産飼料作研究領域 飼料利用グループ	(出前技術指導) フレコンラップ法技術の試行	H30. 10. 10	飯豊町 (山形県)	(株)田中畜産
畜産飼料作研究領域 飼料利用グループ	(出前技術指導) フレコンラップ法技術の試行	H30. 10. 19 ～10. 23	花巻市	(有)盛川農場
生産基盤研究領域 技術評価グループ	平成30年度営農指導員資格認証試験講習会	H30. 11. 9	紫波町 (岩手県)	岩手県農業協同組合中央会
生産環境研究領域 病害虫グループ	青森県産業技術センター農林総合研究所シンポジウム 「被害を抑えるメカニズムを探る～転炉スラグの施用が発病に及ぼす影響～」	H30. 11. 13	弘前市	(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所
水田作研究領域 水稲育種グループ	(出前技術指導) 多収穫米「つきあかり」「ゆみあずさ」の栽培技術	H30. 11. 14	花巻市	(株)ナオイ
生産環境研究領域 農業気象グループ	JST-CRDS ライフサイエンス・臨床医学分野 IoBPE チーム (植物・農業) 科学技術未来戦略ワークショップ	H30. 11. 27	千代田区	国立研究開発法人科学技術振興機構 (J S T)
水田作研究領域 水稲育種グループ	稲作検討会 (宮城県における食用水稲多収品種に関する現地指導)	H30. 11. 27	仙台市	一般社団法人宮城県農業会議
畑作園芸研究領域 施設野菜・育種グループ	イチゴの利用拡大セミナー	H30. 12. 5	郡山市	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者	
畑作園芸研究領域 グループ	畑作育種	学術講演会「倍数性を利用した新しいコムギの開発」	H30. 12. 10	倉敷市	岡山大学資源植物科学研究所
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	平成30年度農業経営者セミナー講演	H30. 12. 11	盛岡市	(一社)岩手県農業会議
企画部長		平成30年度乾田直播栽培検討会	H30. 12. 13	宇都宮市	栃木県農業協同組合中央会
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	平成30年度乾田直播栽培検討会	H30. 12. 13	宇都宮市	栃木県農業協同組合中央会
水田作研究領域 グループ	水稲育種グループ	(出前技術指導) 水稲「ちほみのり」の栽培技術	H30. 12. 18	盛岡市	(農)岩手県農民連 農産物供給センター
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	平成30年度郡山地域スマート農業セミナー	H30. 12. 21	郡山市	福島県農中農林事務所
畜産飼料作研究領域 生産グループ	肉用牛	超音波診断技術の生産現場での活用研修会	H31. 1. 17 ～1. 18	武蔵野市	(公社)畜産技術協会
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	コスト低減革新技术ワークショップ	H31. 1. 22	墨田区	(一社)全国農業改良普及支援協会
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	平成30年度秋田県農業近代化ゼミナールウィンターフォーラム	H31. 2. 1	秋田市	秋田県農林水産部
畜産飼料作研究領域 グループ	飼料利用グループ	(出前技術指導) 無破碎籾米のフレコンラップ法による一時貯蔵技術及び当該原料由来のサイレージの発酵状況等の確認	H31. 2. 4 ～2. 5	花巻市、盛岡市	山形県農業総合研究センター畜産試験場
畜産飼料作研究領域 グループ	飼料利用グループ	(出前技術指導) 無破碎籾米のフレコンラップ法による一時貯蔵技術及び当該原料由来のサイレージの発酵状況等の確認	H31. 2. 4 ～2. 5	花巻市	山形県最上総合支庁産業経済部
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	水沢区認定農業者連絡協議会講演会	H31. 2. 5	奥州市	水沢区認定農業者連絡協議会
水田作研究領域 グループ	水田作グループ	(出前技術指導) 水稲品種「ちほみのり」の品種特性、栽培技術	H31. 2. 13	大崎市	J Aみどりの
水田作研究領域 グループ	水稲育種グループ	(出前技術指導) 水稲品種「ちほみのり」の品種特性、栽培技術	H31. 2. 13	大崎市	J Aみどりの
生産基盤研究領域 グループ	作業技術	水稲直播栽培研修会	H31. 2. 13	大和町(宮城県)	小泉商事(株)
生産環境研究領域 グループ	土壌肥料	第14回WEPA年次総会・国際ワークショップ	H31. 2. 21 ～2. 22	港区	公益財団法人地球環境戦略研究機関

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畑作園芸研究領域 露地野菜グループ	タマネギ大規模生産振興セミナー	H31. 3. 1	南相馬市	福島県相双農林事務所
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) ドローンを用いた水稲追肥試験及び水稲品種「萌えみのり・ちほみのり」の平成30年産生育概況	H31. 3. 1	横手市	J A秋田ふるさと
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) ちほみのりの栽培技術	H31. 3. 4	八峰町 (秋田県)	(株)白神農産
生産環境研究領域長	平成30年度南郷トマト講座	H31. 3. 6	南会津町 (福島県)	福島県南会津農林事務所
水田作研究領域 水田作グループ	J A秋田なまはげ秋田地区大豆部会研修会	H31. 3. 8	秋田市	秋田なまはげ農業組合
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) 萌えみのりの多収技術	H31. 3. 11	由利本荘市	J A秋田しんせい
水田作研究領域 水田作グループ	(出前技術指導) 萌えみのりの多収技術	H31. 3. 11	由利本荘市	J A秋田しんせい
生産環境研究領域 農業気象グループ	(出前技術指導) 農研機構メッシュ農業気象データ、農研機構栽培管理支援システム	H31. 3. 20	遠野市	(農)宮守川上流生産組合

2) 海外出張

平成 30 年度に研究・調査・指導等の派遣依頼を受けた海外出張は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	出張先	依 頼 者
農業放射線研究センター	公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークが実施するキリバス共和国におけるバイオマス燃料開発に関する調査	H30. 6. 20 ~H30. 7. 1	キリバス共和国 (タラワ)	(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
生産環境研究領域	国際会議での講演	H30. 10. 20 ~H30. 10. 26	台湾 (台湾農業研究機関 (TARI))	アジア太平洋食料肥料技術センター (Food and Fertilizer Technology Center for the Asian and Pacific Region ; FFTC)
農業放射線研究センター	International Symposium The Plant Microbiome: Exploration of Plant-Microbe Interactions For Improving Agricultural Productivity 国際シンポジウム 植物における微生物領域：農業生産性を高めるための植物と微生物の境界領域の探求	H30. 11. 17 ~H30. 11. 26	Egypt・Hurghada・Technische Universität Berlin Campus El Gouna (エジプト・フルガダ・ベルリン工科大学El Gouna キャンパス)	日本学術振興会 (JSPS)

3) 講習会等の開催

平成30年度に開催した行政・普及部局、農業者等を対象とした講習会、講演会は以下のとおりである。

講習会・講演会名	開催日	参加人数	講 師
平成30年度 東北ブロック普及職員研修 (主催：農林水産省東北農政局、共催：東北農研)	H30. 9. 26 ～9. 27	20名	若生忠幸、室崇人(畑作園芸研究領域) 永坂 厚(生産環境研究領域) 中田博文(東北農政局園芸特産課長) 近藤 満(仙台管区気象台地球環境・海洋課予報官)

5. 国際会議・研究集会(参加)

平成30年度に国際会議及び研究集会に参加した内容は次のとおりである。

なお、発表者として参加した場合、発表内容は「Ⅱ 研究情報活動」に記載してある。

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
農業放射線研究センター	H30. 4. 30 ～H30. 5. 8	FAO国際土壌汚染シンポジウム、 IAEA会議	イタリア(ローマ)、 オーストリア(ウィーン)
農業放射線研究センター	H30. 5. 5 ～H30. 5. 9	IAEA会議	オーストリア(ウィーン)
農業放射線研究センター	H30. 6. 10 ～H30. 6. 14	Central and Eastern European Conference on Health and the Environment	ポーランド(クラクフ)
農業放射線研究センター	H30. 6. 16 ～H30. 6. 22	極域及びその他の環境中の放射性 物質に関する国際会議	ノルウェー(オスロ)
農業放射線研究センター	H30. 7. 7 ～H30. 7. 14	学会(AgEng2018)	オランダ(ワーヘニンゲン大学)
農業放射線研究センター	H30. 7. 8 ～H30. 7. 14	学会(AgEng2018)	オランダ(ワーヘニンゲン大学)
畑作園芸研究領域	H30. 8. 3 ～H30. 8. 11	国際植物分子生物学2018	フランス(モンペリエ)
農業放射線研究センター	H30. 8. 10 ～H30. 8. 20	国際土壌会議	ブラジル(リオデジャネイロ)
農業放射線研究センター	H30. 8. 10 ～H30. 8. 19	21st World Congress of Soil Science (第21回世界土壌科学会議)	ブラジル(リオデジャネイロ)
生産環境研究領域	H30. 9. 28 ～H30. 10. 6	第16回IWA水質汚濁制御のための 湿地システムに関する国際学会 (16th IWA International Conference on Wetland Systems for Water Pollution Control)	スペイン(バレンシア)
農業放射線研究センター	H30. 10. 6 ～H30. 10. 12	IAEAの環境放射能分析研究所ネ ットワーク(ALMERAnetwork)年 次会議	ヨルダン(アンマン)

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
生産環境研究領域	H30. 10. 14 ～H30. 10. 21	①第 5 回国際コメ会議公開ワーク ショップ ②農業モデルの相互比較と改良の ための国際プロジェクト (AgMIP) Riceチーム会合2018	シンガポール
生産基盤研究領域	H30. 11. 18 ～H30. 11. 23	先端科学技術に関する国際シンポ ジウム	タイ (チェンマイ)
農業放射線研究センター	H30. 11. 18 ～H30. 11. 23	先端科学技術に関する国際シンポ ジウム	タイ (チェンマイ)
農業放射線研究センター	H30. 12. 1 ～H30. 12. 9	IAEA 主催「公衆と環境防護のた めの放射線源、環境、個人モータ リングに関するのセーフティーガ イド作成のための技術ミーティ ング」	オーストリア (ウィ ーン)
農業放射線研究センター	H31. 2. 19 ～H31. 2. 24	IAEAが2019年より開始する総合 研究プロジェクト (Coordinated Research Project) 会議	オーストリア (ウィ ーン)

IV 諸会議一覽

IV 諸会議一覧

1. 東北農業研究センター研究課題検討会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
生産環境研究領域検討会	H30. 12. 11	盛岡市	生産環境研究領域長
畜産飼料作研究領域検討会	H30. 12. 12	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
畑作園芸研究領域検討会	H30. 12. 18	盛岡市	畑作園芸研究領域長
水田作研究領域検討会	H30. 12. 19	大仙市	水田作研究領域長
農業放射線研究センター領域検討会 41705 中課題検討会	H30. 12. 20	福島市	農業放射線研究センター長
生産基盤研究領域検討会	H31. 1. 10	盛岡市	生産基盤研究領域長

2. 東北農業研究センター試験研究推進会議

1) 研究戦略会議・推進部会等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成 30 年度東北地域研究・普及連絡会議 東北農業 試験研究推進会議（戦略会議）合同会議	H30. 10. 25	仙台市	東北農政局、東北農研 （企画部長）
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	H31. 1. 22 ～ 1. 23	盛岡市	果樹研究所リンゴ研究 領域長
東北農業試験研究推進会議 畜産飼料作推進部会	H31. 1. 23 ～ 1. 24	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会	H31. 1. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会	H31. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会	H31. 1. 31 ～ 2. 1	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 本会議	H31. 2. 15	盛岡市	東北農業研究センター 所長

2) 検討会・研究会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
土壌肥料研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H30. 7. 4 ～ 7. 5	青森市	生産環境研究領域長
果樹推進部会及び寒冷地果樹合同現地研究会	H30. 7. 5 ～ 7. 6	弘前市	果樹研究所リンゴ研究 領域長
野菜研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H30. 7. 24 ～ 7. 25	北上市、盛岡 市	畑作園芸研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
農業経営研究会（夏期）（作物生産推進部会）	H30. 7. 27	盛岡市	水田作研究領域長
直播研究会並びに水稲直播等低コスト技術現地検討会（作物生産推進部会）	H30. 8. 21 ～ 8. 22	横手市、大仙市	水田作研究領域長
病害虫研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H30. 8. 23 ～ 8. 24	一関市、北上市	生産環境研究領域長
作業技術研究会（夏期）（作物生産推進部会）	H30. 8. 27 ～ 8. 28	仙台市、岩沼市、名取市	水田作研究領域長
畑作物栽培研究会（夏期）（畑作生産推進部会）	H30. 8. 28 ～ 8. 29	黒石市、藤崎町（青森県）、つがる市	水田作研究領域長
畜産研究会（夏期）（畜産飼料作推進部会）	H30. 8. 29 ～ 8. 30	秋田市	畜産飼料作研究領域長
東北地域麦・なたね品種・系統検討会（作物生産推進部会）	H30. 8. 30	盛岡市	水田作研究領域長
東北地域水稲品種・系統立毛検討会（作物生産推進部会）	H30. 8. 30 ～ 8. 31	北上市、紫波町（岩手県）	水田作研究領域長
大家畜分科会寒冷地肉用牛研究会（畜産飼料作推進部会）	H30. 10. 5	十和田市	畜産飼料作研究領域長
花き研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H30. 10. 17 ～ 10. 18	石巻市、仙台市	畑作園芸研究領域長
大家畜分科会（畜産飼料作推進部会）	H31. 1. 24	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
中小家畜分科会（畜産飼料作推進部会）	H31. 1. 24	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
飼料作分科会（畜産飼料作推進部会）	H31. 1. 24	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
病害虫研究会病害分科会（生産環境推進部会）	H31. 1. 24 ～ 1. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
病害虫研究会虫害分科会（生産環境推進部会）	H31. 1. 24 ～ 1. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
土壌肥料研究会（生産環境推進部会）	H31. 1. 24 ～ 1. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
農業気象研究会（生産環境推進部会）	H31. 1. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
直播研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物栽培研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
流通加工研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
稲栽培研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
稲品種検討会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
作業技術研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
農業経営研究会（作物生産推進部会）	H31. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
稲課題別検討会（作物生産推進部会）	H31. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物品種検討会（作物生産推進部会）	H31. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物課題検討会（作物生産推進部会）	H31. 1. 30	盛岡市	水田作研究領域長
東北そば研究会（作物生産推進部会）	H31. 2. 8	仙台市	水田作研究領域長

3. 共催・後援等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）2018年度女子学生のための研究職ガイダンス	H30. 9. 8	盛岡市	主催：東北農研（企画室長）、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議
水田農業セミナー「東北地域の水田輪作技術の展開方向」	H30. 9. 14 ～ 9. 15	盛岡市	主催：東北農研（企画部長）、寒地・寒冷地水田農業研究ネットワーク
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」女性研究者活躍推進のためのコーチング研修	H30. 10. 2	盛岡市	主催：東北農研（企画室長）、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」女性研究者の研究力向上のための科学コミュニケーション研修	H30. 10. 16	盛岡市	主催：東北農研（企画室長）、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議
平成30年度営農再開技術セミナー「生産者のためのわかりやすい農業ICT講座」	H30. 10. 31	浪江町(福島県)	福島県農業総合センター 一浜地域農業再生研究センター (共催：東北農研)
平成30年度東北地域飼料増産現地検討会～子実用トウモロコシの実用化への可能性を探る～	H30. 11. 7	盛岡市	主催：東北地域飼料増産行動会議、一般社団法人日本草地畜産種子協会、東北農研（畜産飼料作研究領域長）
平成30年度東北地域マッチングフォーラム	H30. 11. 16	郡山市	主催：農林水産省大臣官房政策課技術政策室、東北農研（産学連携室長）

4. その他

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロ） 「耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証」平成 30 年度試験研究設計会議	H30. 4. 16	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
経営体強化プロ「寒冷地北部における野菜導入とリモートセンシングの活用による大規模水田作経営体の収益向上技術の実証」平成 30 年度試験設計会議	H30. 4. 27	盛岡市	水田作研究領域長
革新的技術開発・緊急展開事業（経営体強化プロ）「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」平成 30 年度設計検討会および現地検討会	H30. 6. 13 ～ 6. 14	名取市、大河原町(宮城県)	畑作園芸研究領域長
小麦新品種候補「東北 232 号」現地検討会	H30. 6. 15	奥州市	畑作園芸研究領域長
平成 30 年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究（福島県・農業分野）」平成 30 年度試験研究設計会議	H30. 7. 17	福島市	農業放射線研究センター長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「自給飼料を導入した大規模水田輪作による耕畜連携システムの実証研究」キックオフミーティング	H30. 7. 17	南相馬市、新地町(福島県)	生産環境研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」福島県拠点担当課題に関するキックオフミーティング	H30. 7. 18	南相馬市	生産環境研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」岩手県拠点担当課題に関するキックオフミーティング	H30. 7. 23	北上市	生産環境研究領域長
経営体強化プロ「寒冷地北部における野菜導入とリモートセンシングの活用による大規模水田作経営体の収益向上技術の実証」平成 30 年度現地中間検討会	H30. 7. 23 ～ 7. 24	鶴岡市	水田作研究領域長
平成 30 年度農研機構東北農業研究センター第 1 回アドバイザリーボード「園芸」	H30. 8. 8	盛岡市	産学連携室長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」宮城県拠点担当課題に関するキックオフミーティング	H30. 8. 9	名取市	生産環境研究領域長
平成 30 年度地域戦略プロ「耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証」山形県現地検討会	H30. 9. 13 ～ 9. 14	尾花沢市、天童市、山形市	畜産飼料作研究領域長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」水田農業セミナー「東北地域の水田輪作技術の展開方向」	H30. 9. 14 ～ 9. 15	盛岡市	企画部長
寒地・寒冷地水田農業研究ネットワーク第 3 回ネットワーク会議	H30. 9. 14 ～ 9. 15	盛岡市	産学連携室長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
農林水産省プロジェクト研究「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」A-11系「温暖化の進行に適応する生産安定技術の開発」、「1-(1)温暖化が耕地の持続的生産性に及ぼす影響と対策技術の開発(水田)」平成30年度現地中間検討会議	H30. 9. 30	上越市	生産環境研究領域長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業(社会実装促進業務委託事業)プラウ耕・グレーンドリル播種乾田直播、収量計測コンバインと可変施肥講習会	H30. 10. 3	名取市	生産環境研究領域長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究(福島県・農業分野)」中課題1「除染後農地の地力回復」現地・中間検討会	H30. 10. 16 ～10. 17	富岡町(福島県)、 葛尾村(福島県)、 川俣町(福島県)、 二本松市	農業放射線研究センター 一長
平成30年度農研機構東北農業研究センター第1回アドバイザリーボード「畜産」	H30. 10. 31	盛岡市	産学連携室長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業(社会実装促進業務委託事業)乳苗育苗、スタブルカルチ、GNSSガイダンス講習会	H30. 11. 14	名取市	生産環境研究領域長
小麦新品種「夏黄金」試食会	H30. 11. 20	仙台市	畑作園芸研究領域長
革新的技術開発・緊急展開事業(経営体強化プロ)「寒冷地の水田作経営 収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」平成30年度中間成績検討会議	H30. 11. 26 ～11. 27	盛岡市	畑作園芸研究領域長
放射性セシウム低吸収能を有する遺伝資源の有効活用のための課題化に向けたテーブルリサーチ	H30. 11. 30	福島市	産学連携室長
経営体強化プロ「寒冷地北部における野菜導入とリモートセンシングの活用による大規模水田作経営体の収益向上技術の実証」平成30年度成績検討会	H30. 12. 10	盛岡市	水田作研究領域長
平成30年度無コーティング種子代かき同時浅層土中播種栽培成績検討会	H30. 12. 11	盛岡市	水田作研究領域長
「スマート農業加速化実証プロジェクト」に係る技術・体系提案会(東北地域)	H30. 12. 17	仙台市	産学連携室長
革新的技術開発・緊急展開事業(うち、地域戦略プロ)「耕畜連携の強化による飼料コスト低減化技術の現地実証」平成30年度成績検討会	H30. 12. 19	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
連続測定が可能な新規土壌センサーの活用に関する研究会	H30. 12. 25	盛岡市	生産環境研究領域長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業(三県連携農業)」実績・計画検討会	H30. 12. 27	盛岡市	生産環境研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究（福島県・農業分野）」中課題1「除染後農地の地力回復」成績検討会	H31. 1. 8	郡山市	農業放射線研究センター長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究（福島県・農業分野）」成績検討会	H31. 1. 28	福島市	農業放射線研究センター長
平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究（福島県・農業分野）」中課題2「カリ適正化」土壌中非交換性カリ含有量と放射線セシウム吸収抑制対策セミナー	H31. 1. 29	福島市	農業放射線研究センター長
平成30年度 農研機構東北農業研究センター第3回アドバイザリーボード「水田作」	H31. 2. 19	盛岡市	産学連携室長
平成30年度経営体強化プロジェクト「寒冷地北部水田」秋田県現地実証課題研究報告会	H31. 2. 26	五城目町(秋田県)	水田作研究領域長
小麦新品種「東北232号（ナンブキラリ）」試食検討会	H31. 3. 6	盛岡市	畑作園芸研究領域長
革新的技術開発・緊急展開事業（経営体強化プロ）「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力化・多収・安定化技術の開発とその実証」平成30年度成績設計検討会議	H31. 3. 11	盛岡市	畑作園芸研究領域長

V 表彰・学会賞等

V 表彰・学会賞等

学会賞等

氏名	所属	表彰名	受賞年月日	功績名
浅井 元朗	農業放射線研究センター 営農再開グループ	日本雑草学会賞（技術賞）	H30. 4. 14	雑草写真図鑑の編纂などによる雑草の早期識別技術の普及
江口 哲也	農業放射線研究センター 水田作移行低減グループ	藤原彰夫研究奨励賞	H30. 7. 4	放射性セシウムの土壌から植物への移行特性に関わる土壌粘土の役割
長谷川 啓哉	生産基盤研究領域 技術評価グループ	東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）	H30. 8. 24	ジュース原料用リンゴ生産による大規模リンゴ作経営の成立可能性－青森県鱒ヶ沢町 K 経営の事例分析－
磯島 昭代	企画部産学連携室農業技術 コミュニケーター兼生産基盤研究領域	東北農業経済学会木下賞（学術賞）	H30. 8. 24	果物の贈答マーケティングに関する研究
信濃 卓郎	農業放射線研究センター	日本土壌肥料学会賞	H30. 8. 30	作物生産向上のための根圏環境制御に関する植物栄養学的研究
長坂 善禎	生産基盤研究領域 作業技術グループ	NARO RESEARCH PRIZE 2018	H30. 9. 18	乾田直播における収量マップを利用した精密施肥の増収効果
宮路 広武	生産基盤研究領域 作業技術グループ	NARO RESEARCH PRIZE 2018	H30. 9. 18	乾田直播における収量マップを利用した精密施肥の増収効果
大久保さゆり	生産環境研究領域 農業気象グループ	第 72 回北日本病害虫研究会賞（研究報文部門）	H31. 2. 21	東北日本海側地域におけるいもち病発生予察システムを活用した無人ヘリによるイネいもち病効率的防除の現地実証～秋田県能代市の実証事例を中心に～
善林 薫	生産環境研究領域 病害虫グループ	第 72 回北日本病害虫研究会賞（研究報文部門）	H31. 2. 21	東北日本海側地域におけるいもち病発生予察システムを活用した無人ヘリによるイネいもち病効率的防除の現地実証～秋田県能代市の実証事例を中心に～
嶺野 英子	畜産飼料作研究領域 飼料利用グループ	日本草地学会女性研究者賞	H31. 3. 26	北東北地域における自給飼料拡大に向けたフェストロリウムの生産利用技術の開発
島村 聡	水田作研究領域 大豆育種グループ	第 63 回日本作物学会賞	H31. 3. 28	嫌気条件下のダイズにおける通気組織ならびに根系形成に関する研究
長谷川 利拡	農業放射線研究センター 農業気象グループ	2019 年度日本農業気象学会論文賞	H31. 3. 28	Large-scale evaluation of the effects of adaptation to climate change by shifting transplanting date on rice production and quality in Japan
久保 堅司	農業放射線研究センター 畑作移行低減グループ	2019 年度日本作物学会論文賞	H31. 3. 28	Effect of soil exchangeable potassium content on cesium absorption and partitioning in buckwheat grown in a radioactive cesium-contaminated field

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
藤村 恵人	農業放射線研究センター 水田作移行低減グループ	2019 年度日本作物学 会論文賞	H31. 3. 28	Effect of soil exchangeable potassium content on cesium absorption and partitioning in buckwheat grown in a radioactive cesium-contaminated field
太田 健	農業放射線研究センター 水田作移行低減グループ	2019 年度日本作物学 会論文賞	H31. 3. 28	Effect of soil exchangeable potassium content on cesium absorption and partitioning in buckwheat grown in a radioactive cesium-contaminated field
信濃 卓郎	農業放射線研究センター	2019 年度日本作物学 会論文賞	H31. 3. 28	Effect of soil exchangeable potassium content on cesium absorption and partitioning in buckwheat grown in a radioactive cesium-contaminated field

その他の表彰

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
井上 正人	技術支援センター 業 務 第 1 科	創意工夫功労者賞	H30. 4. 16	ハウス内トンネルの自動開閉装置の 考案
後藤 正幸	〃	〃	〃	〃
藤澤 佳行	〃	〃	〃	〃

VI 各種委員会

VI 各種委員会

1. 法令等に基づく委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
職務発明審査会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長及び産学連携室長	職務発明の認定、特許出願等に関する事	産学連携室
職務作成プログラム審査会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長及び産学連携室長	職務作成プログラムの審査等に関する事	産学連携室
職務育成品種審査会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長及び産学連携室長	職務育成品種、品種登録出願等に関する事	産学連携室
安全衛生委員会	総務部長	産業医、衛生管理者、総務課長、リスク管理室長、業務第1科長、業務第2科長及び労働組合の推薦に基づき所長が指名した6名	安全衛生管理に関する重要事項の調査審議等に関する事	総務課 会計課
特定調達契約審査委員会	総務部長	企画室長、会計課長及び所長が指名する者	調達物品等の契約方式、数量、納期、応札期間、仕様、技術審査等に関する事	会計課
契約審査委員会	総務部長	会計課長及び会計チーム長	最低価格入札者を落札者とししないことの審査に関する事	会計課
競争参加資格審査会		所長、総務部長、総務課長、会計課長及び会計チーム長	競争参加資格等の審査に関する事	会計課
指名競争参加者選定・随意契約審査委員会	企画部長	総務部長、企画室長、産学連携室長、会計課長及び委員長が指名する者	指名競争参加者の選定、随意契約の審査に関する事	会計課
防火対策委員会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長、会計課長及び管理チーム長	防火・防災にかかる規定の制定改廃に関する事	会計課
省エネ推進委員会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長及び委員長が指名する者	省エネ法に基づく中長期的な計画の作成に関する事	企画室、会計課及びエネルギー管理担当者
遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員会	委員の互選による	所内の関係者から若干名、所外の学識経験者から若干名、安全主任者及び副主任者若干名	実験計画の法令及び要領に対する適合性に関する事	リスク管理室
牛海綿状脳症(BSE)対策委員会	所長	企画部長、総務部長、研究領域長、センター長、企画室長、産学連携室長、業務第2科長及び資産管理主査	BSE発生時に当所BSE防疫マニュアル等に基づき対応を行う事	リスク管理室

2. 諮問委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
業績評価委員会	企画部長	総務部長、研究領域長及びセンター長	研究職員の業績評価に関すること	企画室
研究職員選考採用等選考委員会	所長	企画部長及び委員長が指名する者	採用候補者の書類審査、面接試験等に関すること	企画室
施設・機械整備委員会	企画部長	総務部長、研究領域長、センター長及び産学連携室長	中期計画における施設の整備・改修、研究用機械の整備方針等に関すること	企画室 会計課
農研機構特別研究員選考委員会	企画部長	総務部長、担当研究領域長やセンター長、企画室長、産学連携室長及び研究担当責任者	農研機構特別研究員の雇用に関すること	企画室
意見処理委員会	総務部長	企画部長、技術支援センター長、企画室長及び総務課長	人事評価実施権者からの意見の申立てに関すること	委員会
動物実験委員会	研究領域長の中から所長が指名した者	動物実験等に関して優れた見識を有する者、その他学識を有する者の中から所長が指名した者	動物実験計画の審査等に関すること	リスク管理室
圃場委員会	技術支援センター長	業務科各科長及び技術支援センター長の推薦に基づき所長が指名した者	圃場・家畜利用運営等に関すること	業務第1科
家畜防疫管理委員会	企画部長	研究領域長、企画室長、総務部長、総務課長、会計課長、技術支援センター長、業務第2科長	家畜に関わる伝染性疾病の発生予防及び内外への侵入、拡散防止に関すること	リスク管理室

3. 運営委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
運営費交付金による研究委託課題の委託先選定委員会	研究領域長	総務部長、企画部長、企画室長、産学連携室長、会計課長及び委員長が指名する者	募集要領及び応募要領に関する事項、研究委託課題の委託先の選定	企画室
セミナー委員会	研究領域長から所長が指名	研究領域及び研究拠点から各1名	セミナーの企画・開催するための組織及び運営に関すること	企画室
盛岡地区施設委員会	企画部長	総務部長、技術支援センター長、本所に配置する研究領域長、企画室長、会計課長	盛岡地区に設置されている施設の利用、運営及び敷地利用に関すること	企画室 会計課
図書委員会	企画部長	産学連携室長、会計課長、リスク管理室長及び各研究領域長、農業放射線研究センター長が選出した者	共通図書の整備・利用、図書館の管理運営に関すること	企画室

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
温度勾配実験施設運営委員会	企画部長	委員長が推薦する者、企画室長及び会計課長	施設の利用調整、利用料等に関する事	産学連携室
編集委員会	企画部長	研究領域長、農業放射線研究センター長及び委員長が必要と認める者	研究報告等の企画・編集、編集内規、執筆内規、原稿の校閲・審査等に関する事	産学連携室
広報委員会	企画部長	研究領域長及びセンター長	広報媒体の作成・運用、広報に関する戦略策定・推進に関する事	産学連携室
一般公開（盛岡）小委員会	産学連携室長	企画部、総務部、リスク管理室、業務各科、盛岡地区研究領域から各1～2名	一般公開の計画・運営等に関する事	産学連携室
雇用検討委員会	総務部長	企画部長、技術支援センター長、総務課長及び会計課長	契約職員等の計画的な雇用管理に関する事	総務課
除雪対策委員会	総務部長	業務第1科長、業務第2科長、会計課長、会計チーム長、業務第1科科長補佐、総括作業長及び指定職員	構内の除雪作業に関する事	会計課 業務第1科
異常気象対策検討委員会	企画部長	生産環境研究領域長及び所長が指名する者	東北地域の農作物の作柄、異常気象襲来時の農作物への影響等に関する事	生産環境研究領域農業気象グループ
肉質検査室運営委員会	畜産飼料作研究領域長	技術支援センター長、業務第2科長、会計チーム長及び畜産飼料作研究領域長の推薦により所長が指名した者	肉質検査室、と畜場の運営に関する事	畜産飼料作研究領域

* 各種委員会名簿には上記のほか、所議、企画調整会議があるが、審議事項が具体的に定めていないなどにより、他の委員会とは別物と考え、年報の各種委員会には記載しない。

Ⅶ 平成 30 年半旬別気象表（平成 30 年 1 月～ 12 月）

Ⅶ 平成 30 年半旬別気象表

(平成 30 年 1 月～12 月)

1. 本所 (厨川)

月 半旬	気 温 (°C)										日照時間 (h)	積雪深 (cm)	日射量 (MJ)	地 温 (°C)	
	最 高		最 低		平 均		降 水 量 (mm)		日 照 時 間					10 cm	20 cm
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年				本年	平年
1	1	2.7	1.5	-5.3	-6.5	-0.7	-2.0	9.0	8.9	25.4	14.1	14	8.1	0.6	1.8
	2	3.4	1.2	-4.1	-7.1	0.1	-2.4	7.0	9.7	12.1	16.0	8	6.1	0.4	1.6
	3	0.6	0.9	-10.4	-7.5	-4.4	-2.8	0.0	4.7	23.7	16.1	18	7.5	0.3	1.4
	4	3.4	0.8	-4.3	-8.2	0.1	-3.1	21.5	9.8	19.2	20.6	19	7.4	0.2	1.3
	5	-1.7	0.6	-11.7	-8.1	-5.5	-3.1	0.0	6.5	5.8	16.2	25	6.2	0.1	1.2
	6	-1.7	0.7	-11.6	-8.5	-5.0	-3.3	0.0	8.5	35.2	22.1	27	11.1	0.1	1.1
月平均	1.0	1.0	-8.0	-7.7	-2.7	-2.8	37.5	48.1	121.4	103.2	27	7.8	0.3	1.4	
2	1	1.8	0.4	-8.5	-8.9	-2.9	-3.6	8.0	7.9	24.1	23.3	30	9.8	0.1	1.1
	2	0.9	1.7	-8.6	-7.8	-3.0	-2.5	0.5	10.3	15.2	20.3	41	9.5	0.1	1.1
	3	-0.1	1.6	-8.3	-7.5	-3.7	-2.4	0.5	11.0	17.8	21.9	69	9.5	0.1	1.1
	4	-0.2	1.8	-11.9	-7.2	-4.8	-2.2	0.0	8.5	30.5	20.4	67	14.3	0.1	1.1
	5	0.1	2.7	-14.6	-6.5	-5.5	-1.3	0.0	7.5	33.9	24.9	64	13.6	0.2	1.1
	6	1.8	3.0	-13.8	-6.1	-4.5	-1.1	0.0	6.6	22.0	16.1	65	15.1	0.2	1.1
月平均	0.6	1.8	-10.7	-7.4	-4.0	-2.2	9.0	51.8	143.5	125.9	69	11.7	0.1	1.1	
3	1	5.8	3.7	-3.4	-5.1	0.7	-0.4	0.0	14.0	9.3	25.2	68	7.3	0.2	1.0
	2	4.4	3.5	-4.9	-5.4	0.4	-0.6	1.0	14.7	22.8	23.2	51	11.5	0.1	0.8
	3	9.5	5.4	-3.0	-3.5	3.9	1.0	0.5	12.9	29.6	24.6	38	13.9	0.1	0.7
	4	9.1	6.8	-3.5	-2.5	2.2	2.1	0.5	12.3	30.4	25.4	8	15.1	1.8	1.6
	5	7.7	7.5	-2.1	-2.0	2.8	2.8	22.0	11.7	19.1	29.7	0	12.0	2.8	2.7
	6	15.7	8.2	0.1	-1.7	8.5	3.4	0.0	13.4	53.0	28.2	0	18.9	6.2	5.4
月平均	8.9	5.9	-2.7	-3.3	3.2	1.4	24.0	79.0	164.2	154.7	68	13.3	2.0	2.2	
4	1	12.9	10.4	3.4	-0.3	7.5	5.1	18.0	9.6	14.1	29.3	0	10.0	7.2	6.7
	2	7.8	12.5	0.4	1.2	3.7	7.0	51.5	10.1	20.2	27.5	0	12.5	5.3	5.7
	3	12.7	12.8	2.2	1.9	7.7	7.4	50.5	16.2	15.8	23.4	0	10.5	6.8	6.5
	4	16.3	14.1	4.6	2.5	10.6	8.5	0.0	14.5	39.5	31.2	0	20.4	9.1	8.0
	5	16.5	15.0	7.5	4.1	12.1	9.7	20.0	20.0	14.9	25.8	0	11.3	11.5	10.5
	6	20.8	16.7	4.6	4.1	13.3	10.7	15.2	48.8	48.8	35.0	0	23.6	11.7	10.6
月平均	14.5	13.6	3.8	2.3	9.1	8.1	85.7	85.7	153.3	170.4	0	14.7	8.6	8.0	
5	1	18.7	17.6	8.9	5.8	13.8	11.9	17.8	17.8	18.1	33.6	0	15.8	13.6	12.5
	2	16.2	18.3	7.5	6.3	11.5	12.5	15.4	15.4	29.8	29.8	0	13.7	13.5	12.7
	3	21.2	17.7	8.9	7.2	15.0	12.6	2.0	19.0	24.2	24.2	0	16.7	14.0	12.9
	4	19.3	19.0	8.3	8.0	13.9	13.7	130.5	15.8	27.1	27.1	0	15.7	14.6	14.1
	5	23.8	19.7	6.3	8.7	15.6	14.2	0.0	19.3	31.4	31.4	0	23.5	16.1	14.9
	6	24.2	20.6	11.6	9.7	17.7	15.2	25.0	14.1	41.2	34.1	0	20.6	18.4	16.7
月平均	20.7	18.9	8.7	7.7	14.7	13.4	101.4	101.4	180.2	180.2	0	17.8	15.2	14.0	
6	1	25.9	21.8	12.1	11.0	19.1	16.4	8.0	10.8	46.6	37.2	0	24.1	20.0	18.2
	2	24.4	22.3	14.6	12.1	19.9	17.1	20.5	12.5	19.9	27.4	0	17.4	21.4	19.9
	3	17.4	22.7	10.0	12.8	13.5	17.6	23.5	16.4	10.8	24.2	0	14.0	17.6	17.6
	4	20.8	23.2	13.3	14.0	16.9	18.4	1.5	20.0	12.8	25.2	0	15.6	18.5	17.5
	5	24.9	23.0	14.2	14.2	19.7	18.5	3.5	15.8	31.5	23.8	0	19.6	19.8	18.5
	6	27.4	23.4	18.0	15.2	22.3	19.0	72.0	32.6	17.3	22.2	0	15.2	21.7	20.1
月平均	23.5	22.7	13.7	13.2	18.5	17.8	129.0	108.1	138.9	159.9	0	17.7	19.8	18.6	

7	1	30.0	23.9	19.5	15.8	24.6	19.6	41.5	33.9	34.4	18.3	0	18.5	25.3	23.3
	2	23.6	24.5	16.9	16.5	19.7	20.3	49.0	35.0	6.4	22.2	0	10.1	22.0	21.4
	3	27.5	24.6	18.8	17.0	23.2	20.6	11.0	35.7	19.2	16.2	0	13.9	24.1	22.8
	4	29.0	25.2	20.9	17.9	24.8	21.3	10.0	37.1	22.0	16.2	0	15.6	25.3	23.7
	5	30.0	26.8	21.0	18.8	25.3	22.4	4.0	22.1	31.3	20.5	0	18.4	26.3	24.7
	6	31.8	27.8	21.2	19.4	25.9	23.2	0.5	32.6	39.6	29.5	0	21.5	27.5	25.7
	月平均	28.7	25.6	19.8	17.6	24.0	21.3	116.0	196.4	152.9	120.9	0	16.5	25.2	23.7
8	1	29.4	28.1	18.2	19.8	23.6	23.5	36.5	26.5	30.3	23.8	0	17.0	26.1	25.3
	2	25.9	28.4	17.7	19.8	21.1	23.8	1.5	24.7	19.5	25.9	0	16.3	23.4	22.9
	3	31.0	27.9	18.9	19.7	24.8	23.4	5.5	31.7	38.1	20.8	0	21.4	26.0	24.5
	4	23.5	27.4	13.1	19.1	18.5	22.9	83.0	23.4	24.3	19.3	0	15.1	22.8	22.9
	5	31.4	27.0	21.9	18.3	26.3	22.3	18.5	31.8	32.1	25.3	0	16.9	25.8	24.3
	6	23.8	26.2	19.5	18.2	21.4	21.7	58.0	43.9	1.7	21.6	0	6.1	23.7	23.5
	月平均	27.4	27.4	18.2	19.1	22.6	22.9	203.0	181.9	146.0	136.8	0	15.2	24.6	23.9
9	1	26.6	25.9	18.3	17.1	22.4	21.2	43.5	18.7	16.6	22.4	0	13.4	23.9	23.1
	2	21.7	24.3	16.7	16.0	19.2	19.9	75.0	33.8	4.7	20.2	0	5.8	22.1	22.5
	3	24.6	23.0	14.4	14.5	19.0	18.6	0.0	32.4	31.7	17.9	0	17.0	21.1	20.8
	4	24.5	22.5	10.9	13.9	17.6	18.0	9.0	31.3	35.0	16.4	0	16.4	21.3	21.4
	5	22.5	21.2	13.4	11.8	17.8	16.4	37.5	23.0	15.3	18.0	0	10.9	20.2	20.2
	6	18.2	20.1	11.2	10.0	14.6	14.9	46.0	16.8	10.5	20.6	0	8.4	18.3	18.9
	月平均	23.0	22.8	14.1	13.9	18.4	18.2	211.0	155.9	113.9	115.7	0	12.0	21.1	21.1
10	1	22.0	19.7	10.8	9.3	16.2	14.5	33.0	18.2	29.7	22.5	0	14.5	18.1	18.3
	2	20.7	18.1	12.5	8.1	16.7	13.0	1.5	19.3	13.7	20.1	0	8.3	18.5	18.5
	3	18.0	18.0	7.9	7.4	12.7	12.7	4.0	16.3	21.6	24.7	0	10.3	16.5	17.2
	4	17.5	16.4	3.8	5.6	10.6	11.0	0.0	9.8	30.9	26.4	0	12.5	14.9	15.8
	5	18.5	15.1	2.8	4.4	10.1	9.7	5.5	12.6	37.2	23.4	0	12.4	13.9	14.8
	6	14.6	14.2	5.6	3.5	9.8	8.9	31.5	16.3	24.5	23.4	0	8.6	12.7	13.7
	月平均	18.4	16.8	7.2	6.3	12.6	11.5	75.5	92.5	157.6	140.5	0	11.0	15.7	16.3
11	1	15.9	12.9	0.6	2.5	7.6	7.9	0.0	19.0	37.9	20.2	0	11.7	10.6	11.8
	2	16.0	12.3	5.4	2.0	11.3	7.4	8.5	13.2	11.7	22.1	0	5.7	12.0	12.2
	3	12.5	10.5	0.4	1.3	6.2	6.1	0.5	15.3	25.8	14.8	0	9.5	10.0	11.4
	4	10.6	8.7	-1.8	-0.5	4.4	4.2	1.5	13.5	21.4	15.4	0	8.8	7.8	9.3
	5	6.3	8.3	-2.3	-1.1	2.2	3.6	10.0	13.2	13.3	21.4	2	6.0	4.9	7.0
	6	10.4	6.9	-1.4	-1.1	5.3	2.8	5.0	27.7	17.4	17.4	2	8.1	5.8	6.8
	月平均	12.0	9.9	0.2	0.5	6.2	5.3	25.5	90.4	137.8	110.1	2	8.3	8.5	9.8
12	1	10.9	6.2	-1.2	-1.7	4.7	2.3	17.5	13.4	25.2	18.9	0	7.4	4.9	6.0
	2	2.6	5.1	-4.3	-2.3	-0.9	1.5	19.0	10.9	20.9	14.9	0	6.3	3.0	5.0
	3	2.4	3.8	-6.7	-3.5	-1.1	0.3	22.0	12.8	20.7	15.9	26	6.9	1.2	3.1
	4	4.7	2.9	-2.8	-4.8	1.2	-0.6	7.0	7.0	15.0	15.5	17	6.1	1.8	3.1
	5	4.6	3.2	-3.5	-4.5	0.9	-0.4	0.0	10.5	16.5	16.5	8	6.3	1.5	2.8
	6	1.4	2.4	-7.0	-5.1	-2.4	-1.0	1.0	12.7	35.0	19.9	11	8.4	0.9	2.3
	月平均	4.3	3.9	-4.3	-3.7	0.3	0.3	66.5	67.3	133.2	103.5	26	6.9	2.2	3.7
年平均	15.3		5.0		10.2						69	12.7	11.9	12.0	

注 1) ①から③については、大仙研究拠点、福島研究拠点ともに共通。
 ①各月の半旬期間は、1:1～5日、2:6～10日、3:11～15日、4:16～20日、5:21～25日、6:26日～終まで、を各々さす。
 ②1～6の各「半旬」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は半旬期間の合計値を、積雪深は半旬期間の最大値を、各々示す。
 ③「月平均」及び「年平均」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は1～6の各半旬の合計値（年平均欄では、月平均の合計値）を、積雪深は1～6の各半旬の最大値（年平均欄は月平均の最大値）を、各々示す。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010年の30年間を、日照時間は1997年～2010年の14年間を各々統計期間とした。
 3) 2009年1月より気象観測システムが更新され、測器の種類並びにデータの測定法の一部に変更が生じた。
 4) 日照時間は回転式日照計（新型）による。
 5) 2018年4月5半旬、6半旬、5月1半旬、2半旬の降水量は、降水量計の接続不良のため、5月2半旬、4半旬、3半旬、2半旬の日照時間は、日照計の故障のため、欠測とした。

2. 大仙研究拠点 (四ツ屋)

月 半旬	気 温 (°C)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年				
1	1	2.5	1.9	-2.6	-4.3	-0.3	35.0	25.1	12.5	6.5
	2	3.0	1.5	-3.2	-4.8	0.0	30.0	23.7	3.7	6.5
	3	0.7	1.2	-9.4	-5.5	-4.1	16.0	21.9	4.2	6.9
	4	3.3	1.0	-2.5	-5.9	0.6	27.0	21.4	7.3	7.2
	5	-1.0	0.9	-9.4	-6.0	-4.8	36.0	21.9	0.6	7.5
	6	-2.0	0.8	-6.4	-6.1	-4.0	48.0	26.4	7.9	9.9
月平均	1.0	1.2	-5.6	-5.5	-2.2	192.0	138.9	36.2	43.7	
2	1	0.6	1.1	-9.5	-6.0	-4.0	16.5	20.9	20.4	9.2
	2	1.7	1.5	-5.8	-5.5	-1.6	38.5	19.7	8.2	9.9
	3	0.4	2.0	-5.3	-5.1	-2.8	93.5	18.5	0.2	10.7
	4	-0.4	2.4	-6.8	-4.9	-3.3	28.0	17.0	9.2	12.5
	5	0.2	3.0	-13.7	-4.6	-5.8	16.0	16.1	7.5	14.9
	6	2.1	3.6	-6.9	-4.3	-2.0	2.0	9.6	16.9	9.6
月平均	0.7	2.1	-8.1	-5.1	-3.3	194.5	102.5	62.4	68.0	
3	1	5.2	3.9	-2.5	-4.1	1.4	42.5	16.2	7.1	16.0
	2	4.6	4.5	-2.2	-3.7	1.3	29.0	16.5	16.0	16.2
	3	9.3	5.4	-1.7	-3.1	3.1	4.0	16.5	17.7	17.7
	4	6.4	6.6	-3.4	-2.2	0.8	4.5	15.6	3.9]	19.8
	5	7.3	7.7	-1.1	-1.5	3.0	21.5	14.3	3.9] ×	21.3
	6	13.3	9.1	-0.2	-0.7	5.8	0.0	17.0	42.8)	26.8
月平均	7.9	6.2	-1.8	-2.5	2.7	101.5	98.3	87.5]	116.0	
4	1	12.7	11.1	3.3	0.6	7.4	10.5	14.1	16.6	23.8
	2	8.2	12.9	1.3	1.8	4.5	53.0	15.1	14.0	24.9
	3	13.6	14.2	4.0	2.9	8.5	32.5	17.3	13.9	25.4
	4	16.5	15.2	6.4	3.8	10.8	2.0	18.7	32.6	26.1
	5	19.2	16.4	9.1	4.7	13.8	13.0	18.9	22.1	26.9
	6	20.1	17.7	5.5	5.5	13.0	0.5	18.5	43.8	28.5
月平均	15.0	14.6	4.9	3.2	9.6	111.5	101.8	143.0	155.7	
5	1	18.8	18.7	9.4	6.5	14.0	26.0	19.2	22.9	29.5
	2	18.3	19.2	10.0	7.6	13.1	8.5	20.3	14.5	28.5
	3	20.2	19.5	10.5	8.6	15.0	5.5	20.2	21.0	27.7
	4	19.1	20.1	11.0	9.7	15.0	188.5	19.2	23.4	28.4
	5	23.7	20.9	10.7	10.7	16.3	0.5	17.5	39.1	30.2
	6	24.8	22.0	13.2	11.7	18.4	20.0	17.7	49.8	38.6
月平均	20.9	20.2	10.9	9.2	15.4	249.0	113.4	170.7	183.8	
6	1	25.8	23.1	14.8	12.8	19.7	4.5	13.2	41.6	32.2
	2	24.6	23.8	14.9	13.8	19.7	19.0	14.4	30.8	31.1
	3	18.5	24.3	13.2	14.7	15.6	28.5	18.0	10.9	29.4
	4	25.0	24.6	15.4	15.4	19.8	0.0	23.4	27.8	27.0
	5	25.2	24.9	15.9	16.2	20.2	4.0	27.2	38.5	24.7
	6	27.7	25.3	19.1	16.7	23.2	85.0	29.2	15.2	23.7
月平均	24.5	24.3	15.6	15.0	19.7	141.0	124.5	164.8	165.4	

7	1	30.0	25.6	21.5	17.3	25.1	21.0	26.0	32.3	30.2	22.7
	2	27.4	26.0	19.5	18.0	22.9	21.5	42.5	36.7	13.2	21.6
	3	26.6	26.5	20.4	18.6	23.4	22.1	84.0	38.0	19.3	21.9
	4	29.2	27.3	22.0	19.2	25.1	22.8	2.5	32.9	17.0	24.8
	5	29.9	28.4	22.3	19.7	25.7	23.6	2.5	26.3	66.1	28.0
	6	33.7	29.3	23.4	20.3	28.2	24.3	0.0	29.1	66.8	35.9
	月平均	29.6	27.3	21.6	18.9	25.2	22.6	157.5	192.5	172.6	155.8
8	1	30.2	29.7	21.1	20.6	25.1	24.6	60.5	26.1	38.3	30.8
	2	29.6	29.9	21.1	20.6	25.1	24.7	1.0	26.1	24.8	31.5
	3	30.6	29.8	20.5	20.4	25.0	24.6	5.0	26.9	35.9	31.1
	4	25.2	29.6	14.9	20.0	19.9	24.2	72.5	30.3	29.4	30.5
	5	32.9	29.0	22.9	19.4	27.3	23.6	13.0	34.5	31.4	29.3
	6	26.2	28.3	20.2	18.8	22.6	23.0	55.5	44.6	7.1	33.0
	月平均	29.0	29.4	20.1	20.0	24.1	24.1	207.5	192.9	166.9	184.5
9	1	28.8	27.3	19.0	18.0	23.8	22.1	13.5	36.0	31.4	25.9
	2	22.9	26.3	18.2	17.0	20.3	21.1	65.5	33.5	8.4	23.6
	3	26.3	25.3	15.2	15.7	20.0	20.0	0.5	30.7	38.1	22.1
	4	25.2	24.4	13.4	14.4	18.6	18.9	20.5	27.4	32.4	22.0
	5	23.9	23.3	14.8	13.1	19.2	17.7	38.5	23.7	15.0	22.0
	6	20.1	22.2	13.1	11.7	16.1	16.5	26.5	22.0	11.4	22.0
	月平均	24.5	24.8	15.6	15.0	19.6	19.4	165.0	169.7	136.7	138.4
10	1	22.8	21.2	12.9	10.6	17.8	15.4	44.0	22.4	32.8	21.5
	2	24.5	20.2	14.0	9.5	18.4	14.4	7.5	23.0	18.2	21.6
	3	18.8	19.3	9.6	8.4	13.9	13.4	7.0	23.0	24.0	22.0
	4	18.5	18.1	5.9	7.0	11.8	12.1	0.5	23.0	27.7	22.0
	5	19.8	16.7	5.2	5.9	11.9	10.8	2.5	24.5	34.8	20.8
	6	15.2	15.4	7.8	5.0	11.0	9.8	90.5	32.5	15.6	22.1
	月平均	19.8	18.4	9.2	7.6	14.0	12.6	152.0	147.4	153.1	131.1
11	1	15.8	14.4	4.0	4.2	9.0	9.0	3.0	28.2	24.6	16.9
	2	17.5	13.2	6.1	3.4	12.1	8.0	22.5	29.4	12.0	15.9
	3	13.3	11.6	2.9	2.4	7.5	6.7	0.0	30.9	21.1	14.2
	4	10.8	10.2	2.7	1.3	6.4	5.4	24.5	30.6	13.2)	12.7
	5	7.5	9.0	0.1	0.6	3.8	4.5	31.0	29.9	9.8	11.9
	6	10.3	7.9	0.4	0.0	5.4	3.7	14.0	30.3	16.2	11.1
	月平均	12.5	11.0	2.7	2.0	7.4	6.2	95.0	183.6	96.9)	81.2
12	1	11.0	6.7	1.1	-0.5	5.6	2.8	16.0	30.4	18.2	9.3
	2	3.0	5.5	-3.3	-1.2	-0.2	2.0	32.0	29.3	2.5	7.4
	3	2.6	4.2	-3.1	-2.1	-0.2	1.0	13.5	27.3	10.1	6.7
	4	3.8	3.4	-0.7	-2.9	1.2	0.3	37.0	26.0	2.5	7.0
	5	3.1	3.1	-1.8	-3.3	0.5	-0.1	6.0	26.2	10.4	7.0
	6	0.2	2.6	-4.9	-3.8	-2.1	-0.6	24.0	31.5	6.1	8.0
	月平均	3.8	4.2	-2.2	-2.3	0.7	0.9	128.5	170.3	49.8	45.3
年平均	15.9	15.3	7.0	6.3	11.2	10.6	1895.0	1735.7	1440.6	1468.1	

注 1) 半旬期間等の内容については、本所（厨川）の注記1)を参照。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010の30年間を、日照時間は1987～2010の24年間を各々統計期間とした。
 3))とJは統計値を求め対象となる資料が、それぞれ許容範囲内と許容範囲を超えて一部欠けていることを、×は欠測を示す。
 4) 日照時間は2006年11月13日までは太陽電池式日照計、それ以降は回転式日照計による。

3. 福島研究拠点

月	半旬	気 温 (°C)						積算雨量 (mm)		積算日照時間 (hour)		日 射 量 (MJ/m ²)		最大積雪深 (cm)		
		最 高		最 低		平 均	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
		本 年	平 年	本 年	平 年											
1	1	4.2	5.5	-2.9	-3.2	1.0	11.0	8.7	23.5	18.9	7.29	6.50	19.6	8.2		
	2	5.6	5.0	-1.8	-3.3	0.5	4.5	11.6	21.2	16.0	7.74	6.23	9.4	13.2		
	3	3.3	4.6	-7.4	-3.6	0.0	3.0	10.8	26.8	16.9	9.14	6.87	5.7	9.7		
	4	8.1	4.6	-0.9	-4.0	-0.2	30.5	14.4	26.7	19.6	8.28	6.62	0.0	7.1		
	5	0.9	3.6	-5.1	-4.3	-0.5	19.0	9.2	9.9	18.8	4.97	7.09	24.6	9.7		
	6	0.5	4.2	-6.7	-4.2	-0.3	2.0	10.7	23.6	27.7	7.30	8.62	17.5	10.5		
	月平均	3.6	4.5	-4.2	-3.9	0.0	70.0	63.9	131.6	122.3	7.45	7.02	24.6	19.3		
2	1	4.0	4.1	-4.0	-3.8	-0.1	0.0	7.0	32.4	21.7	11.91	8.05	12.2	12.9		
	2	5.2	6.0	-5.1	-3.6	0.0	0.0	13.1	35.2	21.1	13.37	8.27	8.0	7.3		
	3	4.3	5.5	-3.6	-3.6	0.9	9.0	6.7	20.4	23.8	8.35	8.76	12.2	4.8		
	4	2.5	5.9	-5.0	-2.7	1.2	9.5	13.3	30.2	22.7	10.95	9.56	17.5	5.3		
	5	5.2	6.3	-4.6	-2.6	1.6	0.0	11.7	31.8	22.5	12.68	10.02	11.1	7.1		
	6	7.7	7.4	-2.7	-2.5	2.5	3.0	6.4	21.9	14.0	14.40	11.54	0.0	2.4		
	月平均	4.6	5.8	-4.2	-3.1	1.2	21.5	57.4	171.8	129.1	11.77	9.10	17.5	15.9		
3	1	11.8	7.4	0.0	-2.3	2.6	52.5	12.4	30.6	22.3	12.47	10.74	0.0	3.2		
	2	6.9	7.4	-1.8	-2.6	2.4	37.5	17.0	27.5	24.6	11.87	12.11	0.0	5.4		
	3	15.2	9.3	-0.3	-1.6	3.6	0.0	11.6	44.7	24.1	17.84	12.56	0.0	1.4		
	4	12.1	10.2	0.0	-1.0	4.5	0.0	11.1	31.3	27.9	14.71	13.61	0.0	0.9		
	5	10.1	10.6	0.6	-0.4	4.8	27.0	18.7	25.4	23.9	11.63	13.05	0.0	1.1		
	6	19.4	11.4	2.9	0.7	5.9	0.0	22.3	59.8	31.3	21.32	12.53	0.0	3.5		
	月平均	12.8	9.3	0.3	-1.2	4.0	117.0	93.1	219.2	159.3	15.18	12.44	0.0	9.0		
4	1	20.5	13.3	6.0	1.1	7.3	0.0	12.1	45.0	32.8	19.68	17.22	0.0	0.5		
	2	13.6	14.7	4.3	2.9	8.2	4.0	13.8	35.8	31.1	16.41	14.37	0.0	0.0		
	3	16.0	15.6	4.1	3.9	9.5	10.5	14.0	26.4	27.3	13.21	14.38	0.0	0.0		
	4	18.0	17.4	5.9	4.3	10.5	4.5	19.4	38.4	27.0	19.85	14.86	0.0	0.0		
	5	19.7	17.7	9.1	5.9	11.8	32.0	26.8	22.4	31.6	11.89	16.24	0.0	0.0		
	6	23.6	19.5	8.8	6.2	12.9	0.0	19.3	50.2	29.6	22.84	17.54	0.0	0.0		
	月平均	18.6	16.4	6.4	4.1	10.2	51.0	102.5	218.3	188.4	17.31	15.75	0.0	0.5		
5	1	21.1	19.6	9.7	6.9	13.1	17.0	18.9	31.7	27.5	16.12	17.06	0.0	0.0		
	2	15.4	20.7	8.2	7.8	14.2	47.0	16.2	12.4	30.4	7.91	16.86	0.0	0.0		
	3	22.9	20.5	9.0	8.9	14.6	0.0	23.0	39.0	28.5	19.47	15.34	0.0	0.0		
	4	23.8	20.3	11.6	9.6	14.7	13.0	11.8	31.9	28.8	17.97	15.68	0.0	0.0		
	5	25.3	22.1	9.5	10.0	15.7	3.5	11.9	47.9	39.3	22.56	17.45	0.0	0.0		
	6	25.6	23.5	13.6	11.0	16.9	7.0	20.5	41.7	36.6	18.06	17.78	0.0	0.0		
	月平均	22.4	21.1	10.4	9.0	15.1	87.5	103.6	204.7	199.7	17.05	16.74	0.0	0.0		
6	1	27.7	25.0	12.2	12.1	18.8	0.0	11.9	55.3	36.9	27.95	19.89	0.0	0.0		
	2	25.3	22.8	16.1	13.0	17.8	11.5	11.3	25.5	23.8	14.79	15.08	0.0	0.0		
	3	20.1	24.0	12.1	14.2	19.2	29.5	22.6	27.3	26.6	15.21	15.67	0.0	0.0		
	4	20.2	23.6	13.8	15.1	19.4	21.5	23.5	20.4	20.2	9.79	12.95	0.0	0.0		
	5	27.7	23.1	15.2	15.5	19.3	0.0	35.0	48.5	16.5	22.29	12.46	0.0	0.0		
	6	30.5	24.4	19.5	16.2	20.3	3.0	37.3	28.0	27.6	16.81	13.19	0.0	0.0		
	月平均	25.3	23.9	14.8	14.5	19.2	65.5	146.8	205.0	175.2	17.81	14.58	0.0	0.0		

7	1	31.4	26.0	21.5	17.1	26.4	21.0	6.5	23.8	34.7	19.8	18.22	13.87	0.0
	2	26.8	26.0	18.9	17.5	21.9	21.2	64.5	33.3	21.8	21.0	12.63	12.44	0.0
	3	31.7	25.9	21.8	18.0	25.9	21.5	2.0	49.4	34.8	14.1	18.36	11.57	0.0
	4	33.6	27.4	22.7	18.8	27.5	22.5	0.0	24.5	42.7	18.1	21.26	12.96	0.0
	5	33.8	29.0	22.1	19.5	27.1	23.7	0.0	22.6	40.8	22.5	21.08	14.57	0.0
	6	30.4	30.3	21.1	20.3	25.5	24.5	19.0	16.8	46.4	31.3	19.30	16.06	0.0
	月平均	31.3	27.4	21.3	18.5	25.7	22.4	92.0	168.7	221.3	135.5	18.50	13.53	0.0
8	1	34.2	29.9	21.7	20.5	27.4	24.6	0.0	16.9	47.5	23.5	22.63	14.41	0.0
	2	24.6	29.4	19.7	20.0	21.9	24.1	59.5	45.3	6.0	25.0	5.61	12.96	0.0
	3	31.8	28.9	21.4	19.9	26.0	23.8	1.0	28.3	40.5	22.8	18.74	12.67	0.0
	4	27.1	28.3	15.1	19.4	21.6	23.0	0.0	32.9	42.4	27.5	21.15	12.90	0.0
	5	32.1	29.2	22.7	19.6	27.3	23.8	7.0	21.4	31.9	23.6	16.15	14.00	0.0
	6	25.5	27.8	20.9	18.8	23.0	22.6	69.0	53.2	7.0	26.9	6.23	11.16	0.0
	月平均	29.1	28.9	20.3	19.7	24.5	23.6	136.5	198.0	175.3	164.4	14.80	12.37	0.0
9	1	25.3	28.1	19.3	18.6	22.2	22.9	44.0	20.3	11.9	25.7	8.39	12.40	0.0
	2	24.0	26.0	18.4	17.8	20.9	21.3	29.5	24.2	12.9	21.4	7.99	9.44	0.0
	3	23.5	25.2	16.0	17.1	19.1	20.7	14.5	33.9	26.1	22.0	11.95	10.08	0.0
	4	24.5	25.5	15.3	15.6	19.3	19.9	0.0	34.1	26.6	25.0	12.71	10.24	0.0
	5	23.1	22.6	14.8	14.0	18.8	18.0	64.0	35.8	18.0	18.3	9.48	8.65	0.0
	6	19.4	21.7	13.0	12.8	15.8	17.2	32.5	30.7	15.2	22.2	8.61	9.82	0.0
	月平均	23.3	24.9	16.1	16.1	19.3	20.0	184.5	182.5	110.6	140.1	9.86	10.10	0.0
10	1	22.7	21.3	14.7	12.1	18.4	16.2	48.0	32.5	25.8	15.3	11.12	8.52	0.0
	2	24.9	19.2	14.7	10.1	19.9	14.3	0.0	36.4	33.0	15.5	13.86	8.65	0.0
	3	16.7	19.3	10.0	10.2	13.5	14.8	13.5	32.1	11.4	15.8	6.85	8.55	0.0
	4	16.2	18.9	8.5	8.2	11.9	13.2	9.0	28.4	14.0	19.0	6.88	8.90	0.0
	5	18.7	17.2	6.2	7.0	11.8	12.0	3.0	18.2	35.7	20.3	12.87	8.43	0.0
	6	17.1	16.7	7.7	5.9	11.8	11.1	24.0	19.3	33.3	26.8	10.84	8.64	0.0
	月平均	19.3	18.7	10.2	8.8	14.5	13.6	97.5	164.5	153.2	115.1	10.42	8.53	0.0
11	1	16.6	14.6	5.0	4.5	9.9	9.3	0.0	22.3	28.0	17.9	10.51	9.08	0.1
	2	15.7	15.5	9.4	4.5	12.9	9.6	7.0	13.5	5.5	19.7	4.24	7.26	0.0
	3	15.3	13.3	4.6	3.0	9.7	8.0	0.0	6.5	30.6	19.0	10.25	6.53	0.0
	4	13.9	12.4	3.4	2.0	7.8	6.9	0.0	8.3	23.9	18.8	8.19	6.34	0.0
	5	11.3	11.8	0.7	0.6	5.5	5.7	0.0	9.9	23.8	23.0	8.21	6.52	0.0
	6	13.1	10.7	3.8	1.5	8.3	5.7	0.0	13.0	23.1	22.4	7.04	6.15	0.0
	月平均	14.3	12.9	4.5	2.6	9.0	7.4	7.0	72.7	134.8	122.9	8.07	6.87	0.1
12	1	13.2	9.7	2.2	-0.1	7.4	4.6	0.0	6.3	19.6	19.7	6.98	6.34	0.0
	2	6.5	8.6	0.0	-0.4	2.7	3.8	7.5	6.2	13.2	17.1	5.36	5.00	2.0
	3	4.6	6.8	-1.9	-1.7	1.1	2.2	18.0	10.9	14.4	14.9	5.39	5.88	7.1
	4	7.5	6.8	-1.0	-2.2	2.7	2.0	8.5	5.5	18.1	17.8	6.48	6.14	0.0
	5	8.1	6.8	-1.7	-2.2	3.5	1.8	0.0	4.8	24.9	18.3	7.54	5.92	0.0
	6	2.2	5.0	-2.4	-3.4	-0.1	0.7	6.0	8.4	12.4	17.8	4.39	5.88	4.9
	月平均	6.9	7.3	-0.9	-1.7	2.8	2.5	40.0	42.2	102.5	108.0	5.97	6.46	8.1
年平均	17.6	17.0	7.9	6.9	12.5	11.6	970.0	1370.5	2048.3	1934.2	12.85	11.12	24.6	23.6

注 ① 半旬および月平均の値は、気温はそれぞれ日最高・最低・平均の平均値、積算雨量および積算日照時間は積算値、日射量は日積算日射量の平均値、最大積雪深は最大値を示しています。

② 値は準完全値(統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容できる範囲内)を、値は資料不足値(許容する範囲を超えて資料が欠けている)を示します。

③ 資料不足値は十分な信頼性を保障できないため注意が必要です。×はデータ欠損を示します。

④ 平年値は1989年～2005年度の17年間の平均値(準完全値、資料不足値の別は示してありません)。

⑤ 日照時間の測定は1988年から1993年9月まではバイメタル式ガラス筒全天候型日照計、1993年10月以降は、太陽電池式日照計によるものです。

⑥ 積雪深の測定は、2007年11月28日までは目視、11月29日からは積雪深計によるものです。

Ⅷ 東北農業研究センターの所在地等

VIII 東北農業研究センターの所在地等

* 東北農業研究センター
(本所)

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 ☎019-643-3433(代表)
IGR厨川駅より徒歩8分
盛岡駅より菓子車庫行バスで約20分、農業研究センター下車

・ 大仙研究拠点
(四ツ屋)

〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字下古道3 ☎0187-66-1221(代表)
JR田沢湖線北大曲駅より徒歩3分

(刈和野：大豆育種担当)

〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字上ノ台297 ☎0187-75-1084
JR奥羽本線刈和野駅より徒歩5分

・ 福島研究拠点

(農業放射線研究センター)

〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50 ☎024-593-5151(代表)
福島駅東口より荒井行バス約30分自衛隊前(終点)下車、徒歩3分)



大仙研究拠点(大仙市)



本所(盛岡市)



福島研究拠点(福島市)



◆お問い合わせ先

- * 代表…………… ☎ 019-643-3433 (総務部総務課総務チーム)
- * 共同研究など…………… ☎ 019-643-3460 (企画部産学連携室)
- * 研究成果・広報など…………… ☎ 019-643-3414 (企画部産学連携室広報チーム)
- * e-mail…………… www-tohoku@naro.affrc.go.jp
- * ホームページ…………… <http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/tarc/>

平成30年度 東北農業研究センター年報

令和元年10月発行

編集・発行 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

所長 湯川智行

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

電話 019(643)3414、3417

(企画部 産学連携室)
